建築ト社會

第五輯　第三号



ベらしの「春」

大正十一年三月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ入會ニ際シ經驗アル建築家ヲ以テ會員トシ會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントヲ希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會ノ之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任セザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ除名ヲ通告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長ヲ以テ理事ヲ兼ネ）

四　理事　十名

會頭ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事ノ之ヲ互選ス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員會ニ於テ委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨記委員トシ參加セシムルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ガ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般ノ事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　理想的建築ノ計畫

十一　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓ヲ前納スヘシ

但シ六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

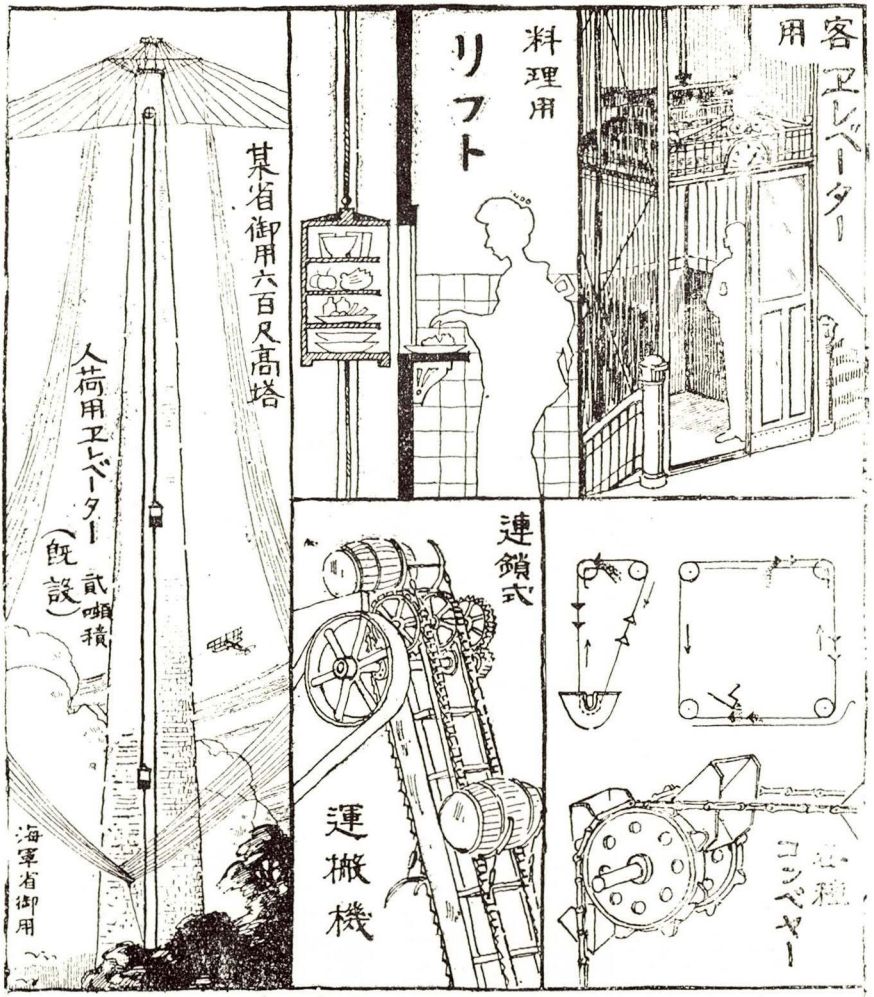
本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會ニ於テ決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

本邦エレベーターの權威

（專賣特許六件）



大阪東區玉造

日本エレベーター製造株式會社

電話・南三八〇五番・南五四三五番

建築と社會　第五輯第參號目次

▲口繪……（三色版）
（寫眞版一―二）
○「春」のしらべ
○日本海上保險株式會社大阪支店

〔卷頭〕
○建築家……工學士　內山新之助……二

〔論說〕
○歐米の都市計畫に就いて（一）……林學博士　三浦伊八郎……一〇
○木造建築と耐火的處理……會員・建築士　小笠原鉚……一五
○再び建築職工組合の設置に就いて……伊藤正文……一九
○美的對象としての建築（三）……川村種三郎……二四
○表現主義と其の根本思想の建築に及ぼす影響……『建築と社會』編輯擔任……江村郊邨……二八
○生活改善としての住宅問題――問題の中心は何れぞ？――

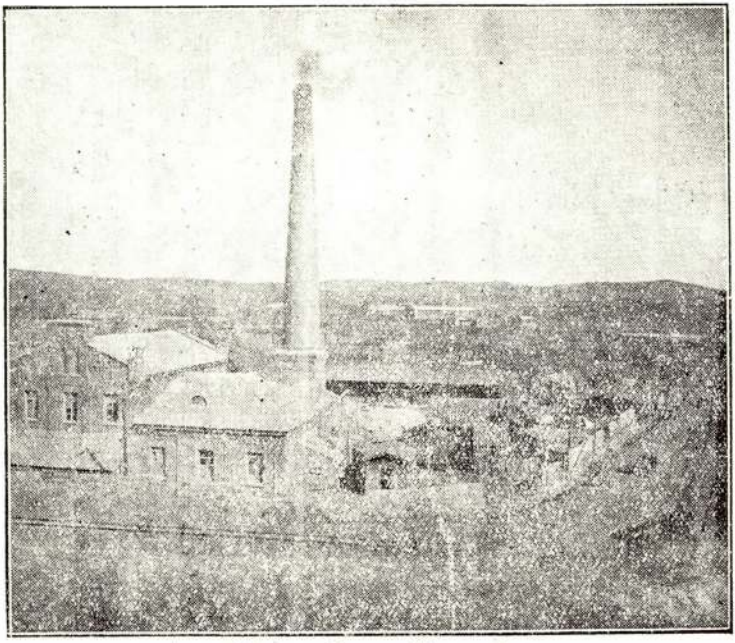
〔研究〕
○鐵筋コンクリート　其の日その日（三）……會員・工學士……增田清……三三
○鐵筋コンクリート構造と施工上の諸問題（三）……會員……T N生……三九

〔都　市〕
○亞米利加の都市計畫(三)……ゝ　ヽ　生譯……四五
〔住　宅〕
○住宅と色彩(三)……會員　工學士　葛野壯一郎……五五
〔資　料〕
○都市保健問題としての塵芥處理に就いて(下)……黃　玄　子……五九
〔漫　錄〕
○借事務所に就いて及び献堂式所感　會員　建築士　津田　鑿……七二
○「門」行脚(一)……梅谷孫吾……七八
○大阪の外廓を歩して……齋藤憲太郎……八三
○私の經驗した住宅建て方の失敗……廣瀨益江……九〇
○「時」と生活改善……小幡大阪府内務部長夫人　廣瀨辯護士夫人……小幡きみ子……九三
○泡沫錄……それがし……九八
□時　報　□會　報
〔附　錄〕
△改正大阪府建築取締規則……

現代建築界ノ最高權威

關東廳土木課●南滿鐵道會社●大阪府廳●市役所
其他諸官省●有力土木建築設計家各位●實驗證明

顧問技師　工學士　雨宮春雄



相談役　前野芳造

營業目課

滿洲（滿州）産

青色大理石、黑色大理石
鹿兒島産白色硅藻土
白色硅石及硅石粉、酸化マグネシューム粉末、滿蒙セメント各種、雜礦石
海水石鹼

耐火リノリウム（專賣特許出願中）

舖床材料

土木建築用防水劑

耐水、衛生、保温、美觀、低廉

ボースイ（專賣特許）

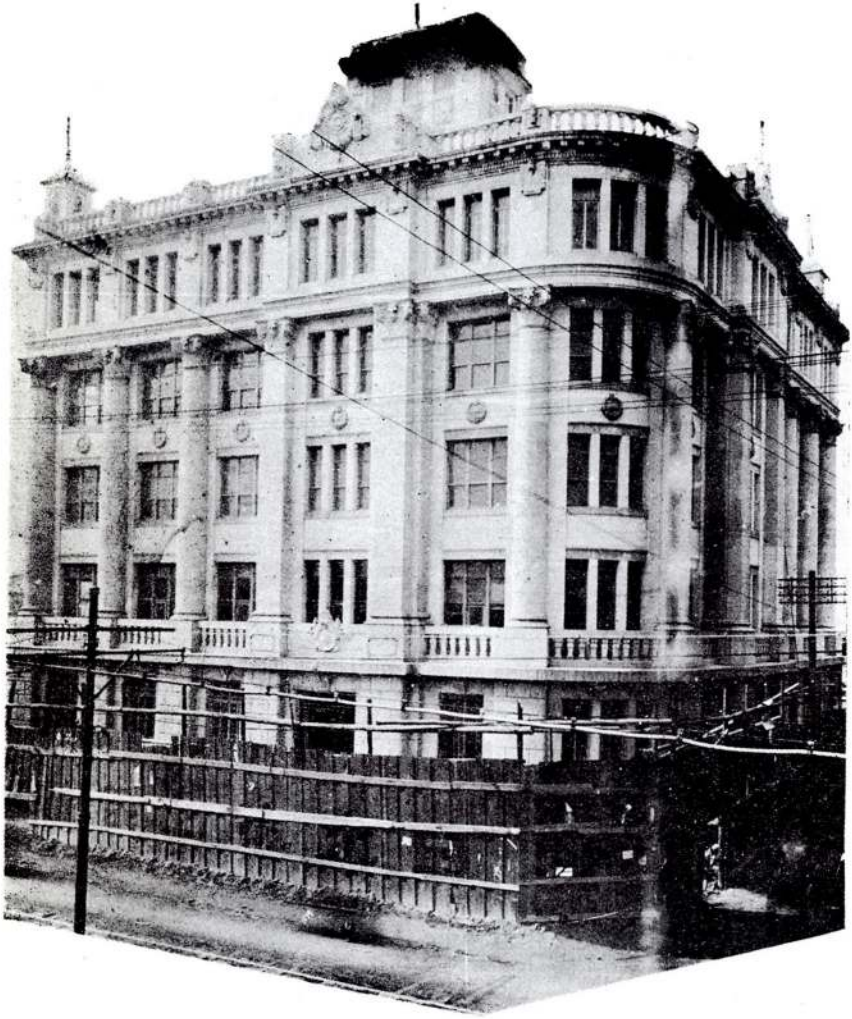
品質內外品ニ優リ價格低廉

滿蒙化學研究所代理店

大阪市北區南安治川一丁目十三番地

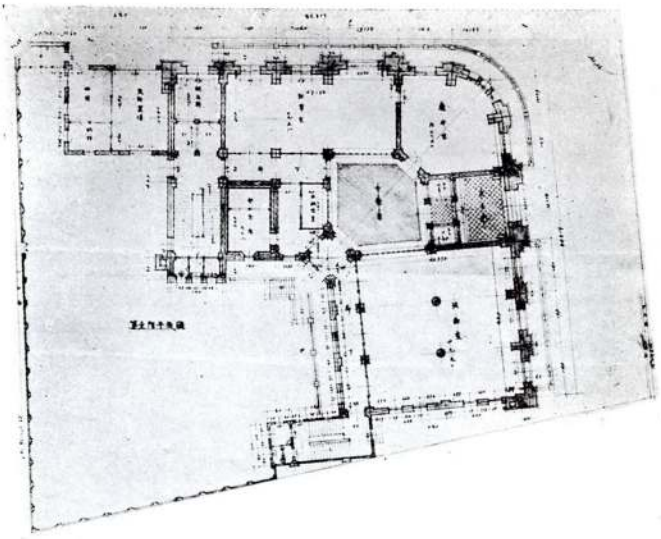
大阪耐火リノリウム工業合資會社

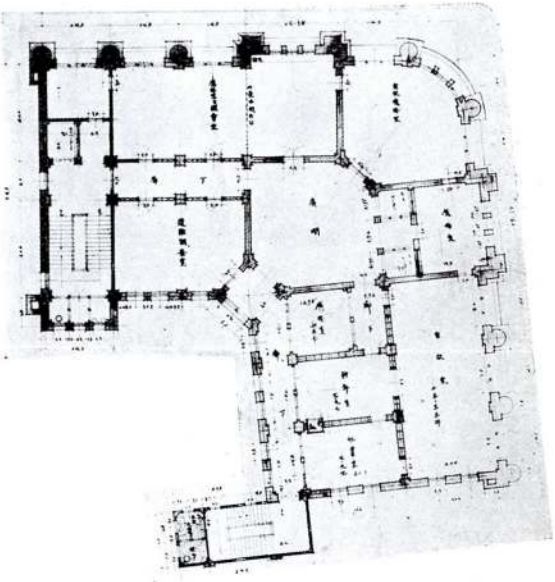
電話西（營業用）四五九
長二五五四
三六三三



日本海上保險株式會社大阪支店

二　其





第三回改良住宅懸賞圖案當選者氏名左ノ通決定セリ

	當選者氏名	住所
第一等	大原芳知	大阪市北區西野田今開町五七〇
第二等	早良俊夫	神戸市外六甲村篠原字中岡一〇二一ノ七
第三等	松岡誠一	東京市牛込區市ケ谷谷町五拾番地
第四等第一席	友田薫	大阪府東成郡森小路八六七
第四等第二席	山田昭	大阪市東區内淡路町二丁目
第五等第一席	早良俊夫	神戸市外六甲村篠原字中岡一〇二一ノ七
第五等第二席	西川原誠一	大阪市北區天神橋筋東一ノ三三一
第六等第一席	小貫頼政	東京府豊多摩郡淀橋町字柏木六三
第六等第二席	島本四郎	神戸市熊内町竹中内
第六等第三席	小川安一郎	大阪市南區天王寺松ケ鼻町五四七八ノ一

大正十一年三月

日本建築協會

懸賞募集圖案審査員變更

第三回懸賞募集改良住宅設計圖案審査員池田實氏ハ今回不得止事故ノ爲審査員ヲ辭退セラレ候ニ付補欠トシテ左ノ通囑託致候間御了知相成度候

大正十一年二月

日本建築協會

記

横河工務所技師工學士　松井貴太郎氏

特別會告

第二回講習會開催

本協會ハ既ニ本會ノ事業トシテ幾多ノ施設ヲ斷行シ、着々堅實ナル發展ヲ遂ケ來レリ、殊ニ方今ノ時務ヲ鑑ミルニ建築教育ノ急要ナル多言ヲ俟タス、故ニ一昨秋第一回講習會ヲ開設シ更ニ今回第二回講習會ヲ開催シ以テ諸君ノ修養ニ資セントス、幸ニ本會ノ主旨ニ熱心ナル御賛同ヲ得ムコトヲ望ム

追テ聽講希望者ハ左記次第書及聽講規程通覽ノ上三月十五日迄ニ本協會事務所宛申込アリタシ尙會場ノ設備ニ限リアルヲ以テ申込者滿員ノ節ハ遺憾ナガラ謝絶スルコトアルヘシ

大正十一年二月

日本建築協會

第二回講習會次第書

一、會　期　自大正十一年三月二十二日 至仝　四月一日（十日間）――自午後六時半 至午後九時半（三時間）

二、會　場　大阪市北區北野牛丸町　大阪市立工業學校内

三、課目及講師

イ、鐵骨構造ニ關スル計算法　工學士　本多二郎君

ロ、鐵筋コンクリート構造ニ關スル計算法　工學士　增田清君

ハ、特種建築　病院建築　工學士　安井武雄君

（備考）前記講師課目及會場ニ支障起リタル場合ハ變更スルコトアルヘシ

第二回講習會聽講規程

一、聽講申込書ハ本協會事務所ニ之ヲ備フ、申込ノ際ハ本協會會員及賛助員ハ其ノ旨特記スルヲ要ス

二、聽講者ハ左記ノ規定ニ依ル聽講料ヲ納入スルヲ要ス

本協會々員及賛助員　聽講料　金四圓

外來聽講者　聽講料　金六圓

但シ講義用印刷物ハ無代配布ス

三、聽講料ハ三月二十日迄ニ本協會ニ拂込ヲナスヘシ

但シ聽講料ハ拂戻ヲナサス聽講料納付者ニハ聽講券ヲ交付シ領收證ニ代フ

四、講習會出席者ハ聽講券ヲ携帶スルヲ要ス

聽講券ハ他人ニ之ヲ貸與スヘカラス

五、聽講完了者ニハ請求ニヨリ聽講修了證ヲ交付ス

追　記

講習會時間割ハ聽講申込ノ際之レヲ交付ス

急告

一、青年建築家傭聘希望ノ件

蘭貢ニ於ケル有力ナル英國建築技師F. FASTER氏ハ助手トシテ本邦青年建築家両三名傭聘ノ希望ヲ有スル旨今般外務省通商局ヨリ建築學會ヘ照會更ニ仝學會ヨリ當協會ヘ照會有之候間希望者ハ左記條件熟覽ノ上直接外務省通商局ヘ御交渉相成度此段急告候也

大正十一年二月

日本建築協會

條件

一、東京、京都両大學ノ工科出身或ハ高等工業ノ建築科出身者ニシテ單ニ給料ヲ目的トセス熱帶建築研究ノ特志家ニシテ希望ヲ將來ニ屬シ追テハ仝地ニ日英共同ノ建築事務所ヲモ興サントスル志望ヲ有スル体ノモノ

二、年齡ハ二十八九歳以下ニシテ英語ノ會話ハ敢テ上手ナルヲ要セス

三、両三年同氏指導ノ下ニ働キ其ノ後ハ隨意獨立經營セラルルモ差支ナク給料等ハ技倆次第何等限定セス

二、建築家採用希望ノ件

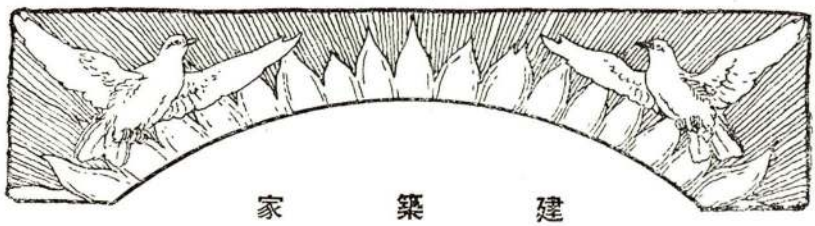
在神戸某工務店ニ於テ大体左記條件ニ適合ノ建築家採用致度趣ニ付希望者ハ至急當協會事務所ヘ御申出相成度候（履歷書一通ヲ要ス）

大正十一年二月

日本建築協會

條件

甲種工業學校建築科出身ニシテ卒業後三四ヶ年經驗ノ有ルモノ



建築家

建築家は、科學者ではない、そして、所謂藝術家でもない。

私をして謂はしむるならば、

「科學を――建築科學を――藝術化する人」

と云ひ度い。

分析と普遍則の抽象は、建築家には不要であらう。建築家は、既存の科學に仍つて與へられた或法則の綜合と運用に藉つて、自己を建築其ものに創造し徴象するに在る。

さるが故に、私は斯く云ふ、

「單に藝術家と云ふよりも、獨り科學者と稱するよりももそつと包容力のある生活者だ」と。

さして再び云ひ度い、

「鋭透な感情の所有者であると同時に、極めて精緻な、理智の持主であらねばならぬ」と。（郊）



歐米の都市計畫に就て（一）

工學士　內山新之助

私は、昨年二月に出發して、約一年間歐米各國の都市計畫を視察した。此處に、其の見聞の其の概略を述べて、私の考へをも附け加へてみたい。併し、歐米各國と云つても、全般に亘つて述ぶることは到底出來得ないから、佛蘭西の首都巴里の都市計畫及び英國の都市計畫に就て述べて見たい。

巴里の都市計畫に就いては、既に人も識つてゐる處であるが、一體歐羅巴の都市は、上代に於ては都市の美觀と云ふことを目的として都市計畫を行つたものであるけれども、近代思想より割出して出來た都市計畫と云ふものは、即ち此の巴里の都市計畫である。

巴里の都市計畫は、彼の佛蘭西文明の高潮に達した路易十四世の御代、即ち千七百年頃は其の端を發し、續いて十九世紀始めナポレオン三世に至つて、彼の都市計畫家として有名なるオスマンに依りてこの計畫が實現されたのであることは、人も識る通りである。其當時、巴里の人口は約七十萬人であつたが、巴里は、佛國の首府なるが故に、其費用も、大部分國庫より出したのである。

ナポレオン三世は識らるゝ通り、歐洲中野に於て幾多の戰爭をした關係上、其の戰勝の榮譽を祝福し紀念する爲に、或はアーチを造り、或は紀念碑等を造つて、是等の戰勝の榮譽を紀念する一方、都市の美觀を添へ、斯くて都市計畫に貢獻されたのである。仍で、オスマンが、一切の計畫の任に膺つて三ツの循環道路と、縱橫の軸に連絡して、蛸の手の如く放射幹線が出て居る、是が巴里の都市計畫中交通系統の骨子である。且つ各方面から來る鐵道の停車場を、中心に接近せしめ、其街に通ずる大道路を造つたのである。

今日、巴里が、歐洲に於て、否な、世界に於ける藝術の中心として、年々多數世界各國から遊覽客が來る。是等の多くの遊覽客を引きつけ、多大の利益を受けつゝあると云ふことは申す迄もなく、この巴里の都市計畫の賜である。而して、この巴里の都市計畫に要した金は、約五億三千萬圓に上つたと云ふことである。尙ほ、私は近年に於ては、巴里市內外の交通狀態に鑑みて、更に新しく計畫されつゝあると云ふことを聞いた。一方には、彼の世界大戰爭の爲に多數の國帑を費した結果、是等の計畫も今日に於てはあまり進捗しないのである。併し、私が巴里を訪問した時、公園に接續せる城砦の一部を取毀ち公園道を造りつゝある現場を、折好く見て來たのである。

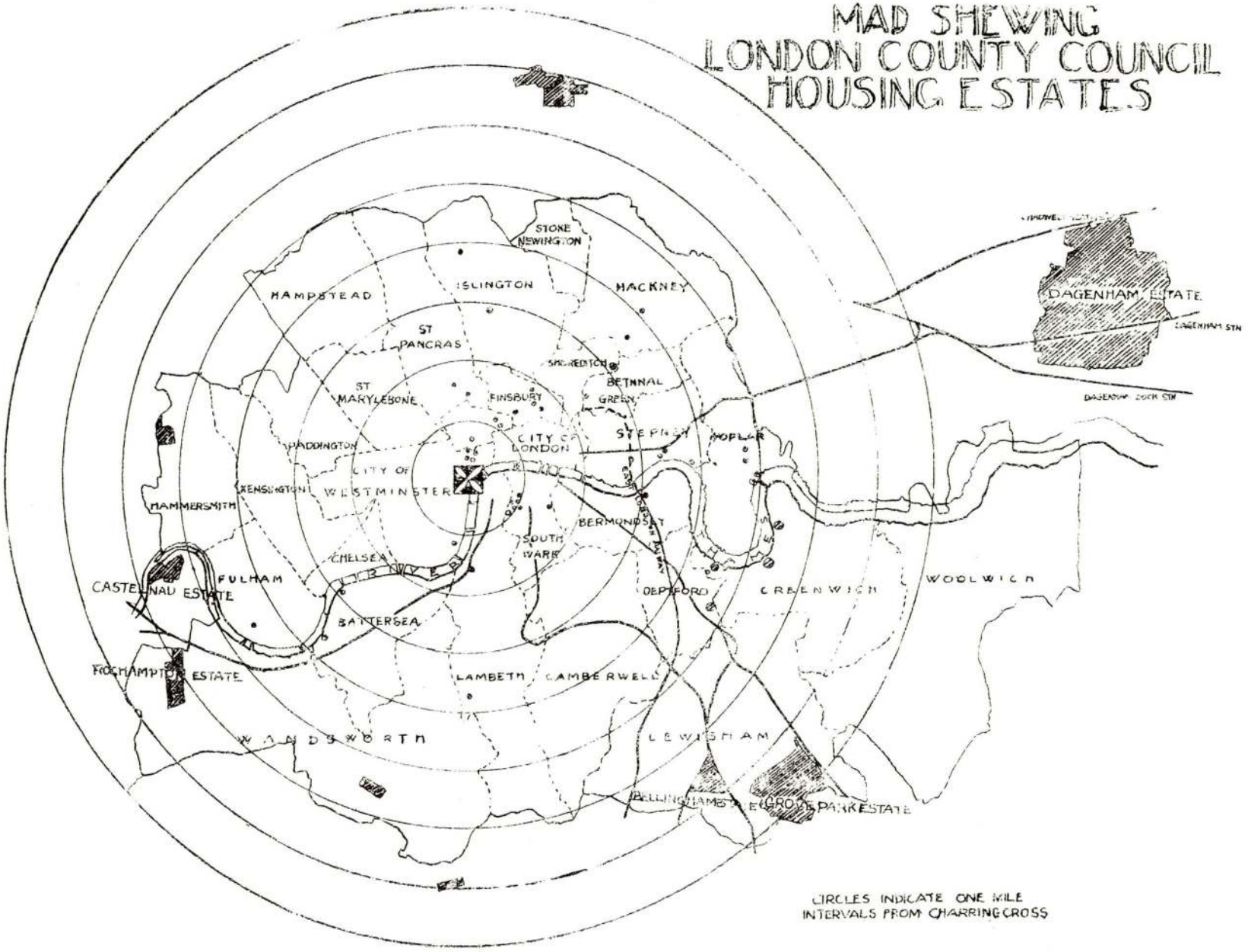
今此處に圖面を挿入するの便宜を得ないが、巴里は現在地下電車を開通して、多く市街の中心に於ては地下を通り、周圍部に於ては、高架式である。現在の營業哩數は、約七十五基米突程あつて、二つの會社が是を經營して居る。而して、一つは、南北線と稱して、南北を貫通して居るところのものである今一つは、『メトロ』會社により運轉しつゝあるものである。この他に、巴里市內の交通機關としては、地表電車線がある。併し、市街の中心區に於ては、此の地表電車がない。たゞすこし中心地區を離れた外の方を運轉して居り、乘合自働車と相俟つて地下鐵道を補つて居る。併し、戰爭以來殆ど歐羅巴の都市計畫と云ふものは中絕されて居つて、實際の新しい事業を見ることが出來なかつたのは甚だ遺憾であ

るが、只地下鐵道の如きは一小部分築造中であつた。

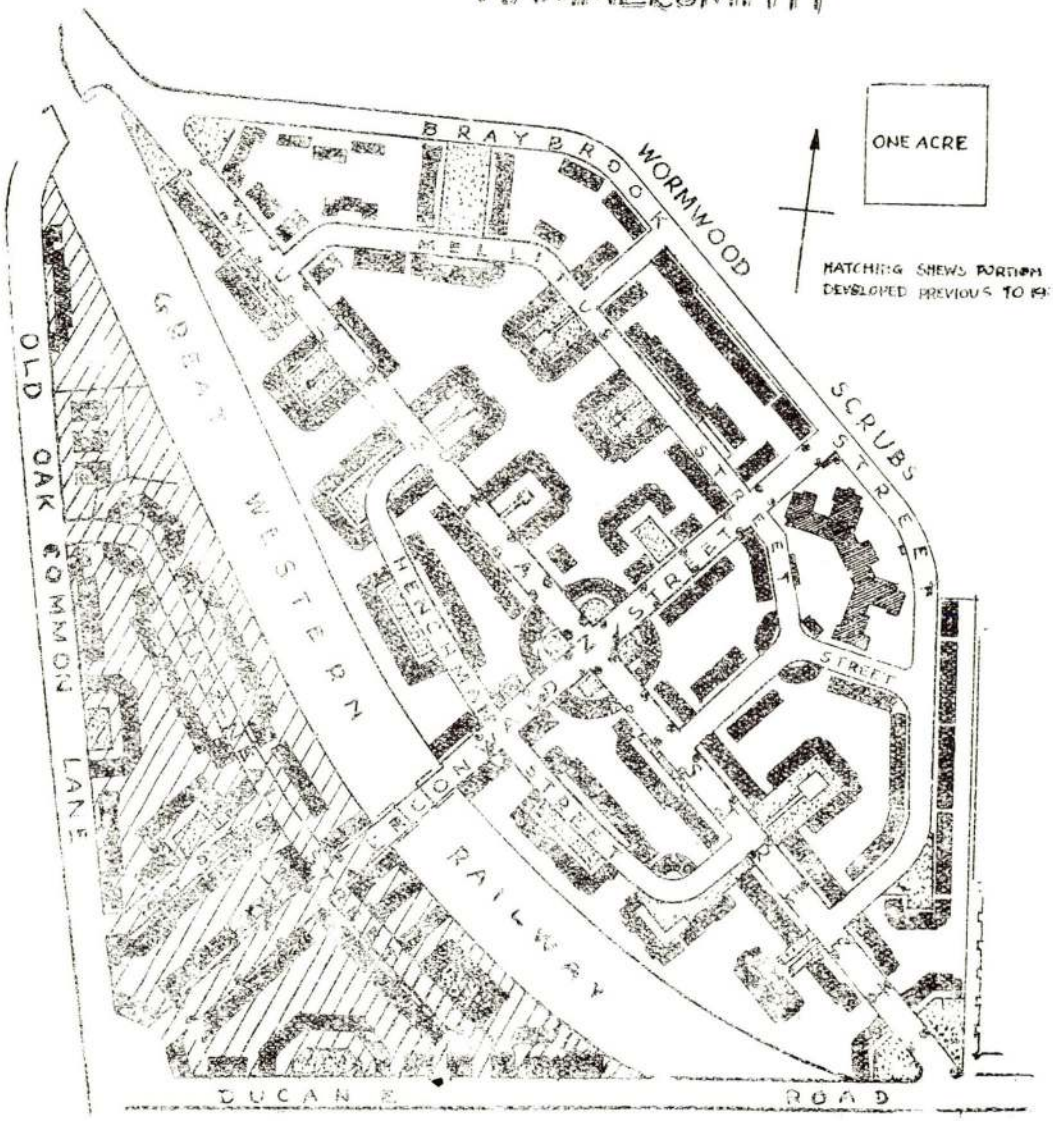
次に、私は、英國の都市計畫に就て、少し許り述べてみたい。元來、英吉利と云ふ國は、この都市計畫と云ふことに非常に不熱心な國であつて、人も識れる如く、保守主義な國であるが故にか、この新しい都市計畫に就ては、非常に不熱心であつた。けれども、丁度、一千六百六十五年、英國に、非常に流行病が猖獗を極めて、倫敦住民の殆ど半分は、其時死んでしまつたのである。之は何に起因するか、と云ふことを種々調査した結果、住宅が其原因である、現在の住宅は非常に不完全である事を知つて、住宅の改良は最も急務であると云ふことを、識者が頻に唱道し、竟に、この住宅の改良に向つて、大いに進んだのである。併し、一方、倫敦の都市計畫は、この翌年即ち一千六百六十六年に、倫敦に大火災あつて、倫敦の大部は烏有に歸した。此時、彼の有名なる建築家『グリストファーレン』は、倫敦の大改良計畫を樹て、之を時の皇帝チャールス二世に提出して、倫敦市會に於ても之を承認したのであつたが、實行の方面に於ては、頗る進まなかつたのである。超えて、千八百四十八年に「サウスウードスミス」と云ふ人が、大流行病猖獗以來、從來の下層民住宅の改良と云ふことに向つて、非常に熱心に唱道された結果、件の提議が通過したのである。之を公共保健法（Public Health Act）と稱する。其後、この法律だけでは不完全である、と云ふところからして、千八百五十一年に、シャフトベリー卿に依つて『共同長屋改良に關する法律』の制定唱道され、是が、千八百五十一年に出來たのである。續いて、不衛生家屋に關する法律が、千八百六十八年『トーレン』に依つて出來、不衞生地區整理に關しては、千八百七十五年『グロス』と云ふ人が頗る熱心に努力して、其法律の制定を見た次第である。是よりさき、千八百四十二年に、前述べた「サウスウードスミス」は、倫敦不衛生地區ベスネルグリン區及ホワイトチャペル區を訪問して、次の報告をした。

第一衛生設備に於ては下水道及び上水道の設備がない、或る家屋は時として八尺間口に奥行八尺と云

MAP SHEWING LONDON COUNTY COUNCIL HOUSING ESTATES



OLD OAK ESTATE
HAMMERSMITH



ふ小さい家が地形も無く沼地の上に建てられてあるのを見た。第二に毒虫が非常に盛んであつた爲め蒸氣喞筒で消毒をして居たのを見た。第三に或家が下水の上に建てられて鼠が下水から澤山に床下に入り込んで來るのを見た。第四に、或地下室に上より下水がドシ〳〵流れ込んで來るのを見た。斯う云ふ狀態の家は遺憾ながら、我國の都市に於ては甚だ多く、實際に見らるゝ狀態である。

次に、シャフトベリー卿は、『ローヤルコンミッション』に、勞働者の住宅問題に就いて大演說を爲し早くこの不衛生地區の整理、不衛生地區の改造を完成しなければならぬ、と云ふことを唱道した結果、そこに『メトロポリタン、ポールドオブ、ウォースク』と云ふ一つの組合が出來た。是がその改造に向つて一步を進めたのである。併し乍ら、如斯法律は制定せしも、各法律は各其責任の歸屬點が異なつて居た爲、誰れがこの事業をするかと云ふことに就いて、件の法律は頗る曖昧であつた。即ち、前の「ボールト、オブ、ウォークス」が行ることになつて居る。又各區が行ふことも出來た。斯ういふ次第で、この事業に對する組織が立つて居なかつた。茲に於て、千八百八十一年、英國下院に於ては、住宅問題に關する調査委員が出來、この住宅の改良に就て事實の調査を始めたのである。そして、千八百八十五年に、『勞働者住宅法』が出來て、斯種の仕事凡ては、先に述べた『メトロポリタン、ポールド、オブ、ウォークス』で遣る事となつて、千八百七十六年から千八百八十四年に亘り、約四十二『エーカー』の不衛生地區を整理した。即ち、百二十一萬五千磅程の財を投じて、この整理を實行したのである。そして、それ等の地區から、改造の爲に追ひ出されたる者が、二萬二千八百七十二人、と云ふことになつて居る。新らしく改造されて收容した人員が、二萬八千三百五十二人であつて、結局六千人許り多く棲むことが出來るやうになつたのである。爾來、『ボールト』は、其の事業をつゞけて居たが、餘り徹底しなかつた爲に、千八百八十九年に至り『カウンシル』が代つて、其の任に膺ることになつたのである。其當時に於ては、是等の住宅改良に關する法律が、約十二許りもあつた、と云ふことである。彼樣に法律は制定さ

れしも、一方事業其ものに至つては、一向に進まなかつたのである。是は、餘り法律が澤山出來て、手續が繁瑣であつたから、實行が伴はなかつたのである。仍で、法律の改正を要する、と云ふ所からして千八百九十年に到り、斯の區々になつて居る法律を統一して、三種類に分つた。其第一類は、前の所謂『グロッス』法にして、大きな部分の不衛生地區の整理に關する法律で、第二類は、比較的小部分の不衛生地區の整理、及一小家屋の整理に關係する法律で『トーレン』法と稱されてゐる。第三類は、勞働者に對して新しい家を供給する處の『シャフトベリー』法と稱するものである。この法律が三つに統一されてそれから段々と改良に向つて進み來たのである。仍で、この三つの部分に依つて倫敦の不衛生地區の家屋はどれ位整理を行つたか、と云はゝ、第一類の下には、面積に於て三十五『エーカー』、この工費が六十九萬三千餘磅、第二類の下には、十三『エーカー』にして、是れに要した金が、二十一萬二千磅、第三類の下には、四十四『エーカー』、それに要した金が、六十二萬四千磅(千九百十九年三月末調査)である

斯の如く、英國に於ては、住宅の問題を地方廳の事業とすると共に、國家的事業として、又之と都市計畫と結びつけ、斯の如く進捗し來たのである。以上の結果、如何に其の衛生狀態が改良されたか、と云ふことは、次の死亡率を以て、凡そ判斷することが出來得る。即ち、一千八百四十二年に法律が出來た當時に於て、英國全體の死亡率は、千人に對して二十四人二分、と云ふことになつて居る。四十年經つて、一千八百八十一年には、二十一人三分となり、續いて千九百一年には、十七人二分、と云ふことになつて居る。一千九百十一年には、十五人二分、一千九百十九年には、十三人四分、と云ふことになつて來た。之は多く、この家屋の改造の効に歸すべきものと見るべきである。

以上は世界大戰前に於ける倫敦の住宅改良の概略である。それで、この度の戰爭に於て、大戰中は、勿論世界各國共に同じであつたが、この倫敦に於ても、住宅を新らしく建設すると云ふことは、殆ど中絶され、其の結果、現今の人口增加に對する家屋の不足を告げ、一方には、この戰爭の終結と共に、澤

山の兵隊が一度に歸つて來て、都市の人口は急激に增加し、且都市の發展と共に、都市の人口が增加し來つた。是等の理由を以て、都會に於ける家屋の不足と云ふものは、世界各國を通じて、同樣であらうが、殊に英國は、其の數が多いのである。それで、英政府に於ては、是はどうしても國家的に解決しなければならぬ、との見地から、中央廳地方廳共に、其義務として、此れに努力したのである。英國全體に於て家屋の不足は約八十萬戶と云ふ狀態である。是は、どうしても、個人の力を以てしては出來得ない、この住宅解決を國家が行らなければならぬ、と云ふ考へから、英國の住宅政策として、國で之を行ると云ふことになつて來たのである。それで、政府は、一千九百十八年三月に、法案が出來て、平和締結後七年間に、住宅計畫に對しては、七十五『パーセント』の補助を與へる、と云ふことになつて『倫敦のカウンテイーカウンシル』に於ても、永年の問題たりし貧民窟の改良、及新しき住宅の建設を、今後七ケ年間に、總額三百五十萬磅、即每年五十萬磅宛支出する事を、千九百十八年七月に決定した。一方法律としては、この家屋改良問題は、都市計畫と密接な關係を有つて居る。殊に、英國に於ては、都市計畫と結びつけて、法律も、千九百九年に、先の法律に多少の修正を加へて『住宅及都市計畫法』となつたが、この法律も、時代の推移により、稱々の不便を生じ、一千九百十九年再び之を改正したのである。其改正の重なる點は、衛生大臣の權限を擴張して、即ち、地方廳は、必要なる家屋の數を調査して着々と改良計畫に進むこと、及各種の手續に關する點を、頗る簡短にしたのである。且つ、一方、資金關係に於ては、地方廳の負擔を輕減する爲に『ペニーレート』を制定したのである。即ち一磅の財產に對して一片の稅を出す事にした。一千九百十九年の七月十五日に、衛生大臣の認可を得て、今後五ケ年間に、二萬九千戶の家屋を建てる。そのうち、最初の二ケ年間に於て、一萬戶だけ（即ち五萬人に對する住宅）を建てる、と云ふ計畫を樹てゝ、爾來着々進捗し、昨年私が參つた時も、盛に建設して居つたのである。それから挿入の圖面に示す如く（圖面參照）『ダグンハム』に於ては、三千『エーカー』許りの地を

トして、こゝには全體にて約二萬戸の家を建てる計畫があつて、其一部は、殆ど家も出來て居つたのである。此他『ドーバー』、『ハウス』、『ベリングハム』、『グローブパーク』及『イーストアクトン』等（圖面參照）を合し、全體で、新らしい計畫は、三千八百四十三『エーカー』あつて、其中に、二萬九千戸の家を建てやうと云ふ計畫である。それで、現在建設の出來て居る家に就て、建設費及び家賃はどれ位か、と御參考迄述ぶるに、部屋の數は種々あつて、大きなものは四つ五つ位の部屋がある。勿論、それには、風呂場や便所も付いて居るのである。家賃はどれ位か、と申せば、家に因つて多少異ふが、凡そ平均一週一磅である。即ち、日本の金にして、一ケ月三拾五圓位である。其建築費が、其當時に於て、約一千磅である。材料の騰貴とか、或は勞働賃銀の騰貴等に因て、最近には非常に高くなつたのである。一千九百十二年には、三百十七磅となり、十七年に至つては、約三倍の八百八十一磅の平均額となつてゐる。二十年に至りては、千百二十五磅位までに上つた。一立方呎に付いて考へて見まするど、一千九百十二年に約五片四分ノ三、日本の金にして約二十錢で出來たものが、千九百二十二年に於ては、約六十八錢位になつて、即ち、三倍強になつて居る。併し、此處に考へなければならぬ事は、この倫敦附近に於ける土地が、日本のそれに比較して、廉い事である。大概郊外五哩乃至十哩位のところであつても、土地の價格は、勿論、所によつて異ふが、最近、大概一『エーカー』が四百磅位である。即ち、一坪が約二圓八拾錢位なものである。是は種々な理由もあらうが、其一つは、土地の利用が、日本の狀態とは非常に違つて居るからであらう。而し、建築樣式とか其方法に就ては、私は素人でよく解らないが、煉瓦、コンクリートブロック、及シンダーブロック等が多く用ひられ、其製造方法は、實に亂暴と思はるゝ位大膽に仕事を行つて居る。是は、英國に地震がない、と云ふ關係もあらうが、我國に於ても、地震系統と云ふものは、既に、學者に於て、相當極められてあるものと思はれる。或る所に於ては、地震が殆ど影響せないと思はれる一斯る事は省略して、兎に角、建築に對して、餘り大なる安全率を用ふる事は考へ物で

なからうかと思ふ。是が倫敦に於ける住宅の改良計畫及び其の實行の模樣の概略である。次に、私はマンチエスターに於ても、同樣の計畫を見受けた。やはり、家屋の不足を愬へて、一千九百二十年の五月、衞生大臣の許可を得て、三ヶ年間に二萬戸の家を建てる、と云ふ計畫を樹てゝ、行く〳〵は、全體に於て、五萬戸の家を建てたい、と云ふことを當局者が申して居つた。此處では、幸ひ、土地も以前から持つて居つて、衞生大臣の許可を得ると、直ちに六百六十『エーカー』の土地に對して、着々事業を進めて居つた。此處の家屋の種類は四通りあつて、其大部分は、十疊の居間と、七疊の客間と、三ツの寢室を有する家屋を建てる計畫でありました。是は、勿論二階建であつて、一『エーカー』に對する家屋の數は殆ど同しであるが、八戸乃至十二戸と云ふところである。次に『リバープール』でも同樣であるが、是も全體としては、一萬五千戸許の家を建てる必要に迫られ、市に於て着々進行し、其内六千戸は既に請負を出して居つた。此他『グラスゴー』『エヂンバラ』等も略同樣である。斯の如く英國に於ては、各都市共殆ど競爭的に、勞働者住宅の建設に努めて居るのである。（つゞく）

記事正誤

「建築と社會」昨二月號に記載の「煖房を奈何にすべきや？」と題せる論文中、左記の通り訂正す。

●三十三頁十三、四行目「其材料は比熱（Specific heat）に關する譯である。」トアルハ「其材料の比熱（Specific heat）と厚さに關する譯である。」ニ

●同十四行目「保熱」トアルハ「比熱」ニ

●同十五行目「保熱力」トアルハ「比熱」ニ

●同　行目「七割」トアルハ「四割」ニ

●同十六行目「熱傳播力」トアルハ「保熱力」ニ

木造建築と耐火的處理

林學博士　三浦伊八郎

耐火建築は、我國に於ける建築政策上、樞要な問題の一つである。今尙ほ木造建築の多き我國としては火災に對する施設を、建築物それ自體として奈何にすべきか、といふことは、勿論、耐火性ある材料を以て建築すること、即ち所謂耐火的建築の問題となる。併し、等しく耐火的な建築と雖も、西洋式な耐火建築は、其建築費の關係に於て、之を多くの建築に望むことは出來得ない。之を、我國に於ける從來の木造建築に比すれば、我國のそれが頗る簡單なものであるが故に、概略四五割の高價となるを免れない。是と共に、他方には、我國に於ける木材の消費量極めて多量で、我國の木材全産量に伴はざる憾みがある。そして、竟には、之を輸入に俟たざるを得ない關係となる。今、參考のため、世界主要國に於ける木材の消費量を比較してみむに、日本は年額約二億五千石を消費し、其中、二億石を薪炭材として、五千石を建築用材に供せられてゐる。之を全人口の一人當に平均すれば、四石以上となり、亞米利加の一人當二十石を外にして、實に、世界の最高位となつてゐる。即ち、獨逸の約三石七、佛國の約二石五、英國と伊國の、各一石四に比すれば、思ひ半に過ぐるものがある。米國が彼樣に飛び抜けて、木材消費量多額なることは、要するに、森林の極めて豊富なることと、木材利用の工學が殷なること、斯の二つが主もなる原因である、と想はれる。之を消費總額に見れば、一ヶ年實に凡そ二十二億石、即ち我國に於ける消費量の約拾餘倍に達してゐる。然らば、日本のそれが、亞米利加に亞げる世界最高の消費量を有してゐるのは奈何なる原因に由るか、と云はゞ、比較的豊富な森林國である事も其一つではあるが、其積極的な原因は、日本人の生活形式が歐米人のそれとは異つてゐる事、即ち薪炭を極めて多量

に使用する事と、建築が主として木材を使用せられる事が、其主要な原因であらう。之を米國の燃材消費量と比較すれば、米國が、木材消費總額の約四割餘を燃材に費せるに反し、日本は、木材全消費量の約八割弱を薪炭材に供せられてゐる。而して我國の建築用材としては、一個年約一千五百萬石を供せられ、卽ち、木材全消費量の約三割弱に相當する。尙ほ之を建築費に觀ても、和樣建築物は、其建築費總額中、木材消量の價額が、其約四割を占め、之に反して、洋風建築は、約一割內外なるに過ぎない。

斯る我國の現狀としては、其火災に因る損害の比較的甚大なるを免れ得ない事、蓋し、當然な成り行きである。之を大戰前に於ける統計に就いてみるに、各國の都市に於て、火災に原因する損害額は、其都市人口一人當の、一箇年最低拾錢より、最高約七圓、平均約一圓五拾錢、卽ち現今の物價よりせば、少くとも、五六圓位に相當する。而し、日本は、火災に因りて、年々約七拾萬坪の建築物を烏有に皈しつゝあるが故に、之を木材に換算すると、一坪當り約三石の木材を要するを以て、年々約二百萬石の木材を烏有に皈せしめてゐるの勘定となる。卽ち、我建築用木材一箇年消費量の約一割以上に當る。併し火災に因る損害は、勿論、木材其他の損失といふ範圍に止まらず、火災の及ぼす禍厄は、殆むど豫測し得ない多くの、又諸般の損害を生ずること、今更ら申す迄もない事である。惟れ、木造建築國たる我邦として、此處に最も考慮を要せざるを得ない。然らばとて、比較的防火性を有する洋風建築とすることは、前に述べた通り、經濟上の關係又は傳統的な習慣上、到底、之を多くに望み得ない事である。茲に於て、問題は、現在の如き木造建築の慣行を保有するとして、之を耐火的にする方法奈何、といふ事を先づ當面の問題とせなければならぬ。仍で、自分は、木材に耐火性を與ふる一事に在る、と信ずる。歐米に於ては、既に前世紀末頃より世紀初めに亘りて、木材耐火性が格段なる發達を遂げた。けれども、是れには亦た多少の缺點ある爲、現今では、英米に各一二の木材耐火處理工場を有するに過ぎないが、或程度までは確かに有効である、といふ事が判つて、英米の工場では、燐酸アムモニウム、及硫酸アム

モニウムの注入法が行はれ、又或都市では建築物の上層に素材を使用する事を禁じて、耐火法を施した木材を使用せしむべく法律で制限して居る。

顧みて、我國としては、將來、都市に於ける建築は、由來我邦の木材生産が消費に伴はない現狀に在る關係からしても、又、木材を其他のヨリ有要な事に、即ち、例へば、燃料、製紙、製綿、酒精製造、家畜飼料其他の物質を製造する有機製造化學工業の原料等に供し、建築用としては、主として、鑛物質の耐火建築とする事が理想である。けれども、鑛物質的材料即ち、煉瓦、鐵筋又は鐵骨混凝土、石材等を用ゐる建築は、在來の木造建築に比して、少なきは五割、十割、或は二十割以上も高價に付くが故に勿論、一般の建築には實行し難い。仍て、大都市の主要地區には、完全な耐火的建築物と成さしめ——尤も都市計畫に伴ふ『市街地建築物法』によつて指定されたる防火地區は、斯の種の建築にあらざれば許さない事となつてゐるが——、小都市や又は大都市の場末若くは主要地區以外には、將來完全な耐火的建築に改造さるゝまでの過渡期に於ける建築改策の一つとして、木造建築は、耐火的處理を施した木材にあらざれば、使用せしめない事にしたならば、經濟上の關係とても、素材で使ふよりも二三割の高價と成り、建築費全體として、僅に一割内外を增すに過ぎない。仍て、問題を一轉して、以下、木材耐火法に就き、自分の所思を述べてみたい。

木材に耐火性を與ふる處理方法は、從來既に特許權を穫てゐるものだけでも、實に幾十數以上に及むでゐる、是に就き各國共種々な發明があつて、頗る多種多樣である。けれども、其大體は、木材の表面に耐火劑を塗布し、或は耐火性物質を以て被覆する處の表面的防火法と、耐火劑を木材中に注入滲潤せしめて、木材質を不燃性とする處の實質防火法の二種に大別し得る。而して、實質防火法は、表面防火法よりも遙に有効である。耐火劑或は防火劑に就いても、種々なものがあり、隨つて其有効なものも多數あるが、之を大別すると、三種となる。其一つは、明礬、石灰鹽及びマグネシウム鹽の如く加熱によ

り不熔融性土狀殘滓を殘し、可燃性纖維を被覆して、不燃性とする物質である。其二は、硼砂及水ガラスの如く比較的低温度で熔融しガラス狀物と成り、以て纖維を被覆する物質である。其三は、硫酸アンモニウム、鹽水アムモニウム等、主としてアムモニウム鹽類の如く不燃性瓦斯を發生する物質である。又硼酸アムモニウム及び燐酸アムモニウムの如きは、其二及び其三の性質を併有してゐる。從來試みられた藥劑は、アンモニウム、ナトリウム、石灰マグネシウム、アルミニウム等の硫酸鹽類、硅酸鹽類、燐酸鹽類、炭酸鹽類、鹽化物等であつて、又數種の物質を適宜に配合して用ゆる場合もある。例へば、フエレル氏が米國で特許を得た方法は、硫酸アルミニユウム及炭酸マグネシウムの併用、食鹽及硫酸アルミニウム併用及び硫酸アルミニユウム及び燐酸の併用法で、ハクステル氏が英國で特許を得たる處の所謂オキジレン法は、硫酸アムモニウム及硅酸ソーダの混合液を用ひ、ヘル氏の佛國に於て特許を得た方法は、硫酸第一鐵及硫酸アルミニウム混合劑を使用し、スミス氏が英國に於て特許を得た方法は燐酸アムモニウム、硼酸、硼砂、硫酸アムモニウム等の混合物を用ひ、又米國の林產試驗場では、硼砂溶液及鹽化亞鉛を併用し、硼酸亞鉛を沈澱せしむる方法を推奬してゐるが如きものである。以上の如き、耐火劑を通常枕木、電柱等の用材に防腐劑を注入すると同樣の方法で木材中に注入すれば、耐火性となるのである。又時としては、耐火性ペイントを用ひ、表面防火を行ふの方法もあるが、實質的防火法に比して、不完全である。

併し、彼樣にして、耐火劑を注入せる木材は、果して耐火性を有するや、蓋し、普通には疑問とされてゐる。實際、木材は可燃性物質から成り立つてゐるから、是に少量の耐火劑を注入するとも、絶對不可燃性に變化することは不可能である。併し乍ら、火災豫防の手段としては、必ずしも、絶對不燃性たる要はない。縱むば、鐵石を用ひた洋風建築物に於ても、內部の裝飾や仕上げ、又は家具抔に可燃性物質を使用するが故に、如何に構造を耐火的にするとも、到底絶對耐火性たる事は不能である。故に延燒

を防ぐとか、或は燃焼の鈍いように構造することは、防火方法として、先づ、理想的だと云つて可い。試みに、ブリンス氏が、耐火性を與へたる木材と、其素材との比較試驗を行ひたる成績を見るに、素材は四十分間二百度以下に熱する時默火するも、鹽化アムモニウムを注入せるもの又は燐酸アムモニウム硫酸アムモニウムを注入せるものは、二百五十度以上に四十分間熱するも點火せない。尙ほ高熱するときは、木炭の如く赤熱するも、素材の如く焔を擧げて、燃燒せざるを識つた。尤も、耐火處理材も、甚だ高度な熱に會はゞ燃燒するようであるから、是の關係より推すと、火災の際、一千度近く熱せらるゝときは、到底耐へ得ないが、焔を擧ぐる事少く、隨つて、延燒の危險率を減ずる點に於て、確に有効である。兎に角、完全耐火又は防火性を有せなくとも、斯かる効果を有する處より、我建築用材——或は樣式の過渡期に處する耐火的施設の一つとして、木材の耐火處理を推奬し度いのである。（文責在記者）

語る事は時間の如く淺く、沈默は永遠の如く深し。

再び建築職工組合の設置に就いて

會員　建築士　小笠原　鈅

私は大正九年本誌第三輯第八號の紙上を借りまして、戰亂後の建築界に臨み一日も早く建築職工組合の設立せられん事を希望して置きましたが現今に至り正に痛切に之を感じますから再び之に關し諸彦の敎を請はんとする次第であります。

建築工事請負從事員・現場監督員諸君!!!

此頃直接に工事現場にあらるる諸君は一般に建築職工の能率低下及其技術上の責任感念欠乏等に思ひ當られないでしやうか？

如何に能率の低き如何に責任感念の薄きか實に思ひ半ばに過ぎはせないでしやうか？

勿論近來始めて現場に從事せらるる方は左程の御感じもないでしやうが、少くも七八年前乃至歐洲戰亂時代前の職工の樣子を知らるる方は多分小生と同感せらるる事と信じます。

之は所謂時代の變化で最早我々がソー思ふのは時代遲れの人間で之が當然の事でしやうか？

之が現今の社界的一般の成行で今更之に對し彼是申すのは私の頭が已に業に古い到底コンナ事に口を出すべき幕でないでしやうか？

併し此有樣であつて今後果して請負業者諸君の仕事が豫定の通りに遂行し得られませうか、一方に又設計監督者が其施工法乃至仕上に就て滿足であり得るでしやうか？

段々と社界が進步向上して一般思想も變化し、勞働も時間の制限や、賃金問題に於て大分八ケ間敷喧傳せらるる樣になりました、併し此學ぶべき結構なる制度は其實質に於て矢張り外國も今の日本の有樣の

様なものでしようか？

近來我建築界の各位が多數米國其他へ視察に出掛られましたが、外國の職工氣質は如何樣でありますか我國の現狀に比較して適切なる御指導を仰ぎ度い事と思ひます。

私の思ひますには外國に於ても此勞働問題たる生活の安全を保障し、八時間勞働の制限を要求する等に對しては必ずや其要求すべき權利を主張すると同時に其勞働者は充分なる義務を果して居るであらうと思ひます。

近來東京其他一二ケ所に於て外國人が直接に日本職工を使役して工事請負をして居りますが、其實狀をほのかに聞きますと實に驚くべき秩序整然たるもので、且仕事の能率も充分發揮して居ります樣に聞きます。

從て建築依賴者の信用も大分增大しつゝあり、結局今後は此外國人に請負はす方がよいと思ふ樣な感じを依賴者が持ち順次に之を唱導する樣な傾きが出てこないとも限りません。

此邊から想像しますに矢張外國などでは八時間一パイに十分なる能力を發揮して働き、且又施工上に就ても技術上の責任感念も十分明かにして一般に就業して居る事と思ひます。

且現に日本に於ても外國人か日本人をしかく使役して居ります事を見ますれば、目下の我々の日々就業しつゝある一般建築界の行動とは全然其趣を異に致します次第で、即ち前陳の我國建築職工の現今の從業振りは全然惡化しつゝあるものと斷言してはばからぬかと思ひます。

此現狀即ち我々の實にあきれつゝある一般の職工を督して外國人が驚くべき好良の成績を擧げつゝあるは如何なる理由でありましやうか？

我建築職工の一般が惡化しつゝありと雖も中には極めて眞面目なるものもあり、尙又人皆良心の呵責も御座いますから其指導宜敷を得ば相當の效果を擧げ得るものとも言へましやう。

茲に於て先づ第一に現場施工に直接當り居らるる請負業者諸君は大に御一考を煩したいと思ひます。最早仕事の「キメナゲ」などをする時代ではないかと思ひます、どうしても直接に一日の賃金をきめて八時間なり九時間なり十分嚴重に督役して現業に從事せしむる方法を取らなければならぬかと思ひます。即ち此『ナゲ』の形式を廢して各職工の技倆に應じて賃金の等級を定め、之に應じて各自に其職責を自覺せしめて十分に働かせる方法を採る事が必要でないでしやうか。

畢竟請負從事現場員が各職工各自の働きを十分に監視し得て、其技倆に對し職工と共に相互に理解し合ふと云ふ方法を以て工事に從事すると云ふ樣な工合にする事が必要かと思ひます。

茲に於て其職工の技倆に依り賃金の等差を決すると云ふ事が職工に好感を與へ、能率を發揮し技術上の責任感念を生せしむる最も重要なる事かと考へます。

之に就きましては所謂建築職工の健實なる組合を設立する事が最急務でないでしようか？

之は先年私が申述べました樣に、

建築職工は各職別に從て組合を造り、必ず其組合に加入せしむる事、

組合員にあらざる職工は請負業者は勿論何れの現場にても使備せざる事、

組合には從來の所謂親方株を以て役員を置き、此役員が職工の技倆を見て賃金の等級を定め一年二回位に其上下詮衡をなす事、

各請負業者なり一般の需用家なりは一々所要人員を組合へ申込み其職工を組合より派遣する事、

組合は組合員及需用家より手數料を取り、之を以て組合の費用に充て職工全體の發展向上、技倆の上達に資し必要なる講演會等を設け更に進んで未熟職工並に徒弟養成等の方法を設ける事、

私は今にして此の如き方法を立て我建築界勞働者の向上發展に資せざれば到底今後多事なる我建築工事を滿足に處理し得ざるに至らざるかを切に憂ふるのであります。

今や建築職工は從來の親方と弟子たる徒弟關係も段々となくなり、自然野放しの有樣で從て放縱なる方向に向ひつゝある有樣の樣に思ひます。

近來各種の勞働組合が設けられますが、重に賃金制度や時間制度に於て結束をすると云ふ方面のみの組合である樣に思はれます、故に各自が自省し今一步修養して向上發展に資する、即ち換言すれば能率も發揮し技術上の責任感念も强くすると云ふ『內實』のある健全なる組合が我建築職工間に設けらるる樣に致したいと思ひます、現今一般に親方株が職工を使役するに非常に苦心せらるる樣ですが、之も畢竟從來の徒弟關係等がだんだんなくなり且又職工の思想の變化する結果と思はれますからどうしても健實なる組合に於て共通的に徒弟を養成する（無論今後は相等の工業補習學校等の卒業者が多くなるでしやうが之も組合員として社界的に勞働者たるの訓練を要しますから）と云ふ事も大に必要と考へます。

如何で御座いましやう愚見を披瀝して皆樣の御敎示を仰ぎます。（終）

凡そ人は己れ自身を知る事最も少し

——ソシセロ——

美的現象としての建築（三）

——シヨペンハウエルの建築美に關する論文——

柊會　伊藤正文

重ねて云ふが、建築の純美の方面は、天然に現はれた意志の客觀化の中で最低度のものから出て來るので、天然の觀念を明白に直觀に持ち出すにあるが、いつも唯一の題目は『支へ』と『重み』とで、その原則は十分に支へのない重みを作らず、相當の重みなしに支へをしないといふ事、即ちこの二つの關係を丁度相當にするにある。此課題を最も純粹に仕上げたのは柱と長押とで、柱の整列は建築全體の云はゞ調音となつてゐる。柱と長押とが全く分かれてこの『エフェクト』と相互關係とが眼に入る。其他色々の『コンソール』や支柱でも此支へと重みの分離を明にしようとしたものである。

別に特質のある構造は『ヴォールト』と『ピーア』との分離である。之は支へと重みが純粹に分離しないで互に移り行つて行き合ふ。いづれの石も皆同時に支へとなり、重味となり又柱にもなる。特に交叉ヴォールトに於ては其向ひ合たアーチの壓力でその位置を保てゐる樣に見える。それから又この横からの壓力がある故ヴォールトだけのみならず只のアーチでも只の圓柱の上に据わらないで、しつかりした四角の柱礎を要する。

柱の列んでゐる場合には、長押は只重味を見せ柱は支へを見せるのみであるからその分離は完全であるその外、支へが重みをやつと支へるだけでは支へは重みに相應じないので、十分樂にゆつたりと支へる場合にはそれを眺めても心を安んで得る。但し支へが餘分にあるのも、一定の度を越えてはならない、度を越すと重味なしの支へを見る心地がして美の目的に背く。

この度合を定める爲に、古代の人は平均線といふ規則を思ひつき、柱が下の方では太く、上になるに從て段々に細くして、その先は鋭角に終る樣にし、立錐形とし何所でそれを横斷しても、その横斷線より下の方だけで、それより上部を支へ得る太さのある樣にした。しかし二十倍だけ餘分にしつかりさせるのを通常にしたので、何れの支へもそれが支持し得る最大荷重の二十分の一だけを上に置いた。伊太利では極めて簡單で裝飾のない建物も、美の印象を與へ、ドイツではさうでないのは、重に彼の國では屋根が平たいからである。屋根の高いのは、支へでもなく重みでもなく、その兩側は互に支へてはゐるが全體の大さに相當する意味がないのでぱつと擴た塊の樣に見える。

美の目的には無緣で只利用になるのみだから支へと重みを課題とする美の目的に反する。

柱の形は、最も簡單で又最もよく目的に合つてゐる支へになるといふ點にのみ基いて居る。

曲りくねつた柱ではわざとらしく鐵面皮に見えていけない。四角のピーアは邊より對角線が長いので方向によつて見える大さが違ふ。之も圓柱程面白味はない。六角八角になると圓に近いだけ面白味を增す即ち圓柱のみが目的で定められたものである。然し目的に應ずるのは、其他の比例にもあることで第一にはその太さと高さとの關係にあり、此は希臘の柱範の中で各々その度合が違ふその細くなるのは全體の高さの三分の一の處で始るもので、又その處で少しふくらんでゐる（即ちヴイトルヴイウスの云ふエンタシス）のはそこで重みの壓力が最も强いためである。（希臘のオーダーの圖に就て思ひ合され度し）

重みは平分に分配してある故支へも又平分である可きで、その爲に柱を集合したのは面白くない。よく出來たドリア風の神殿を見るとその隅の柱と次のとは少し相近いが、それは隅では長押が二邊から出會て重みを增すためである。それで見ても建築の原則は明でその構造の比例、即ち重みと支へとの比例が大切な事が分かり齊均などは之に次ぐものであるから此原則には讓歩しなければならぬ。ドリア風の重いのと他の二類の輕いのとは全體の重みの多少に基くことで、ドリア風はその太さの太い上に尙柱の列

が近くて大きな重みに適し又その柱頭が荒く質素なのもその目的に適する。柱頭は一般に柱が長押を載せて居るので、栓をさし込むのでないといふことを見せるのが目的で又その『アバカス』で載せる面積を大にする。以上の通り、柱の種類に關する法則や、柱の形や比例について、その部分の配合や太さなどすべて皆一定の重みにゆつくり相應ずる支へを要するといふ概念で一分一貫して理會出來る。即ち此點から見て先天的に定てゐるといひ得る。だから柱の手本は木の幹や人間の姿にあつたなどいふ思想は間違ひであるのは明白である。そうとすれば建築に於ける柱は外來の借用物であり、調和や圓滿の感は起り様もないし、建築は音樂と同様、旋律と基音が定てゐれば和音が成立する様に、先天的に定つたものと見ていゝ。

始めに云つた様に建築美術としては最低度の觀念、即ち天然の現れとしての重力と、剛性と、凝集性とを課題としてゐる。比例や均齊のことは幾何學的の事で、空間の性質であつて觀念ではなく、美術の題目に入らない。若し美術として建築の職務が此等の形を表はすのみにあれば、模型でも、仕上げた作と同じ『エフエクト』があるべき筈だ。

然るに事實は全くさうでなく、建築の『エフエクト』はどつしりした大きさを要し、大き過ぎるといふことはないが、小さ過ぎるといふ憂は常にある。

その美の効果は建物の大さに正比例するもので、大きい嵩で重力の効驗を著しく又深く見せる。

又建築は我々の空間的直觀の中にあるから、直觀し易い規則正しい圖形を要求する。窓の形も色々あるが常規としては正方形長方形（それも邊と邊との比の簡單のもの）である可く配置も分り易い比例にしたい。同理由で建物全體やその一面なども、其高さと幅とが分り易い合理數の比例であるのが都合よく、正面の高さをその幅の半分にし、柱は大抵四本集めたその間隔全體が高さと同じになつて正方形になる等がよい。

又直觀し易くすると同じ原則から又見直し易い要があり、その爲には齊均が必要であり建物の境目を劃するに是非必要だ。一見して一箇の統一あるもの、一つの考へを開展したものだと知れるのは齊均のおかげに依る外ない。

上述の樣に建築は模倣の藝術ではないがその精神は天然から汲み出して來べきで、只見えるもの、目的のないものを避け、その一々の見當は利用にせよ構造にせよいづれの目的にしても最も自然で近い道をとつてその作自身にそれを表はさうとする。古代のよい建築式では柱でもアーチでも、戸口、窓何れの局部も各々最近最單の仕方でその目的を達し少しも隱さずにうぶにそれを表はす。

反對に趣味のない建築式はどこにも不用の廻り路をとり、勝手な事を喜び、目的もなしに蛇腹を中斷したり、柱を吹き寄せたり、意味のない過卷や布ひだをむやみにつける。此等は駄作の特質で、小供が大人の器具を持て戲れると同じに、藝術の目的を理會しないで、その手段を弄ぶものである。此自分の學說は『カント』のと全く正反對になつてゐる。扨茲に建築構造を觀察するに當ては古代の建築式のみを眼中において、ゴシクの事は顧みなかつた。此ゴシクはそれに固有の美はあるが古代の建築と對立せしめることは到底容せない蠻勇である。若しギリシャの古代の人をゴシク式の殿堂の前へつれて來たら何と云はう。——野蠻だと云はう。——

此式では重力と支への戰は題目になつてゐない。で變な概念から出た勝手で出來て居ることを直に悟り得る。古代の建築式は純粹に客觀の意味で考へついたものゝゴシク式は多く主觀で出來てゐる。

古代の建築に於て見て來た根本思想を此式に於て見れば、重力が全く剛性に征服されてしまつてゐる。即ち重みの水平線が少くなり重力の働きは、只間接にアーチヴォールトの變態で現れてはゐるが支への縱線のみ秀でむやみに高い控え壁、高塔、尖塔が無數に重荷をぬけ出て聳え、剛性の勝利を示す。剛性と重力の戰は實相で眞實であるが、剛性の勝利は幻覺で作り事に過ぎない。即ち此式は目的に對して調

和のあるを示す可き合理性の代りに勝手が位置を占めて來た事である。之に反して光輝ある方面はその内部で交叉ヴオールトが高く聳えて、重みは消え去り、而も永遠に安固の姿を示しそれが細長く結晶の様に上り上るピーアが之を支へる有様には心持に徹透する様な効果がある。欠點は前に述べた外部にある。古代の建物は良い方は外面にあり、その内部は平たい天井が壓へつける様で、内部の感が狹い。

古代の人民は南方が主で多く戸外に生活し、北方の民はゴシク式を用ふに適したわけだ。若しゴシク式を本來のもの正當のものとしようとすれば而して好んで類縁を求めるならば、之を建築の陰極、又はその短音階だといひ得よう。

建築の美に關してショペンハウエル氏の云つてゐる大略をつまみ出して長々と列べました氏の建築觀から得るものもあり相であります。

□雨の日やむかし顔なる奈良の花

□花に來て御室を出るや宵月夜

表現主義と其の思想の建築に及ぼす影響

杵會　川村種三郎

藝術には只革命者、然らざれば剽竊者あるのみ。

ゴーギャン

『未だ嘗て此の如く、歡びが失はれたことはない。此の如く、自由が死んだことはない。魂を返せ。と人間は叫んでゐる。全時代が叫んでゐる。藝術も聲を合せて叫ぶ。此れが表現主義だ。』

ヘルマン、バールは表現主義を論ずるに當つて、表現派らしい簡勁な叫びをあげてゐる。

第十九世紀の終り頃から勃興した、新理想主義は、哲學、法理學、倫理學等に、非常な影響を及ぼした當時の大勢力であつて、すさまじい隆盛を極めてゐた唯物主義が、實際的運動の上からも、すでに行きづまりの時であつたのであるから、新カント派の影響によつて、漸次理想主義化すると共に温和化されて來たのであるが、更に却つて反對の方向に流れ、大いに過激化せるものも生み出した。此の時藝術のみが、此れ等の運動の圈外にありとは言はれない。此の新理想主義に流れは、シャルンホルストに。よつて再造され、ビスマークによつて鍛え上げられた軍國主義の獨逸にも、充分滲透してゐたのである。獨逸人の奥深く流れてゐた理想主義は、浪漫主義、象徵主義、新浪漫主義を經て、尙新らしい生を求めてゐた。そして第四の醱酵期に到達して、思想のリズムは、終に表現主義を呼び起したのである。尙此れ等前記の諸運動は、多少の見界を異にし、目標を異にしてゐても、皆自然主義脫却の運動であると共に、自我の奥深くから迸り出る、反自然主義、自我主觀の解放へと其展開に外ならないのである。外界の壓迫、物質の機制の爲めに失ひつゝある自我を確立し、精神の力を認識して、これをより強く表現しようと試みたのである。然しながら尙物質的、科學的な唯物思想が、深い根底を有してゐたのであつたが、

世界大戰によつて、より一層力強い自我は非常な勢で爆發し、大きい波を起したのである。則ち表現主義の運動である。そしてそれは、造形美術、特に繪畫の方面から勃興したのであつた。

表現主義は所謂印象主義とは、絶對反對の方向を取つてゐる。印象主義は純粹の客觀を示して、主觀的の附加感情を默殺し、たゞ現實の一片を再造して、幻覺の上に作用せんとするにとゞまつてゐるに反して、表現主義は主觀的附加感情をのみ示して、客觀的な可能性を默殺し、—『現實の外形と、外面的感情の世界に屬するものを、悉く主觀主義によつて、支配しようと試みてゐるのである。則ち精神の眼を以て對象の生命を、最も直接に、最も深く見つめ樣とするのである。そしてそれに對してたゞ自己の內的生命表現を念とするのである。現實を其の現象の輪廓から開放し、尙自身をもこれから開放し、これを包括しつゝ、精神の錐穿力と、運動性と、感情の强度の爆發とによつて、克脫しようとする』—此れが文學、美術音樂等に表はれた、表現主義であると、ピントウスが言つてゐる樣に、彼等の內なる心は解放され、そして彼等自己の感情を表現するが爲めに、現象界はたゞ役だたれてゐるのにすぎなくなつたのである。

眞實は我々によつて創造せられなければならない。對象の意義が穿たれなければならない。現象は純粹に蔽はれず、僞られずに、映發せられなければならない。それは我々の靈性の答の內にあるのである。

表現主義の根本思想は、實に此處に深い根源をもつてゐるのである。

前述の如き自我の自由、主觀の權威、則ち自我高唱の主張は、表現主義たゞ一つにのみ限られたものではない。然しながら表現主義の自我の高潮が、かくばかり强烈であり、極端に走つてゐるのは、要するに輓近に於ける唯物主義的社會主義の理想主義化の一方面、即ち革命的サンヂカリズムの影響を受けたのは、すでに明かな點である。社會運動が、コウェン、シュタムラー等の刺戟により、尙一層深く鋭く進み行きたるが如く、ストリンドベルグ、ゴオホ、ゴーギャン、セザンス、マチス、ホードラー、カン

ヂンスキー等の藝術は、各々其の立脚點の相異せるにもかゝはらず、其の藝術に對する主義、主張に於て人生の諸問題を解決する切望に、偉大な力をつくしたのに刺戟され、摘發さるゝと共に、大戰の火と血との洗禮によつて、尙一層の力を以て痙攣的の勃發となつたのである。そして獨逸に於てははやくも時代は其の主張を受け入るゝまで進んでゐたのであるから、表現主義の根本思想は、當然時代の心理的要求に基づいたものであるとの考へ方は確かに肯定し得るものである。

さてかゝる主觀の尊重自我の主張は、當然外界に對する反抗となるのである。而して表現主義は此の根本思想に表はれたる如く、反民族的、反有產階級的、反資本主義的となり、單に藝術上の革命のみにとゞまらざる狀態に落入つたのである。

極端な反唯物主義は、ヨリ內的な幸福への衝動である。ヨリ強い衝動である。而して表現主義思想の自我の主張は、倫理學上形而上學的の自我である。そして個體的な自我であつてはならないと共に、此の自我の內には普遍妥當性があらねばならない。人類全體の共通な高き自我でなければならない。此の點に於て表現主義は、晩近の社會思想流動の方向と、離るべからざる方向をたどつてゐるのである。

『我等はたゞ體驗する。そして創造する。個々の現象をば、宇宙を構成する偉大なるものへ投入する。——萬物は永遠への關係を得る。かくて我等人間はたゞ單一な素撲な人間、眞の人間、宇宙感覺を有する人間のみがある。

彼等はさらに進んで、此の如くに言つてゐる。

此の素撲な人間、眞の人間、宇宙的感覺を有する人間を要求する心は、原始への復歸の思想となつてゐる。そして其れ等が象徵主義、新浪漫主義思想の自我との相異點である。

表現主義者は此の如くに行ひ、此の如きを求めんとして、喘いでゐる。そして其の思想には動かすべからざる眞實性が含まれてゐる。然しながら總てが絕對でない。完全でない。我等は今『主觀に在る凡て

は客觀にあつて、さらにヨリ以上のものが存在する。客觀にあるすべてのものは主觀にあつてさらにより以上のものが存在する』とのゲーテの言葉を想ひ起さねばならない。

表現主義者はたゞ主觀のより以上を見て、客觀のより以上を見ない。心の口を聞かうと勉めて、聽くことをしなかつた。否聽くことを今も避けてゐる。此處に表現主義の大きい特長があり且それが大きい缺陷となつて存在してゐるのである。然しながら、此の主義に於て最も注目すべきは眞實なるべき根本思想である。そしてこれによつて作られたる、社會的生活に於ける要求は、人道主義的に、民衆的に、反階級的に、愛を求め、尙宗教的心情を力說するに到るのである。

されば此の如き表現主義根本思想の現代建築に及ぼす影響(建築を美的對象としてのみならず)の甚大なるは、すでに充分諒察し得るのである。現代の建築はそのプランに於て、そのエレベイションに於て、表現主義根本思想の眞實性を取り入れねばならない。階級的差別の撤廢、純一にして素撲なる人間、原始に復歸されたる人間を抱擁するに、充分なものであらねばならない。そして尙人間性を向上せしむべき文化運動から、切り離たれたものであつてはならない。普遍妥當性を有する自我に根ざゝざる建築はたとひ此れが如何に高價であつても(その建築を構成する物質價値が)此はれ全く無價値である。民衆的なるべき、高き人間性の表現されたる、プラン、エレベイション及其の建築の細部裝飾、これこそ人間の爲めに造らんとする建築である。素撲な單一に歸つた人、原始へ復歸されたる人々への建築である。各種多樣な建築に於て、考究すべき點は總て此處に歸することである。個體的差別的な自我へ建築家は瞬時も顧みてはならない。此の點に於て建築家は先づ原始人に復歸せねばならない。而してかく建築することによつて、多くの盲目の殘されたる人々を導かねばならない。建築の精華は、物質的條件によつて左右せらるべきものでない。現代の建築家は、新らしく生れ出でた人間の爲めに環境改善の社會運動を起さねばならない。眞實な表現主義の根本思想の上に立つて。

「人間の爲めの建築」其れには尙一層新らしい意味が含まれてゐる。強い人間性に根ざした深い洞察と體驗から生れた建築こそ、我等の切望してやまないものである。(了)

生活改善としての住宅問題

——●問題の中心は何れぞ？●——

「建築と社會」編輯擔任　江村郊邨

所謂生活改善の問題は、「生活」てふ意義が頗る廣汎なるだけ、問題それ自身も、極めて多岐に亘る關係を有してゐる。之を、生活形式の二大別に觀ても、廣義に於ける生活改善問題は、單り、凡ゆる物質を通して營爲する處の表現な生活、即ち外的生活のみが、必ずしも、所謂生活改善の唯一な問題ではない。

其處にはそれ等の表現生活を創造して、之を、洗錬、陶冶し、全體としての生活其ものを、改善し向上する處の基調たる內的生活、Spiritual life も、亦生活改善の一つである。——否な、斯の改善こそ、凡ての生活改善の發足點であり、我等の「人生」其ものを築く foundation である。然り、今の所謂「生活改善」なる建築は、斯の基礎の上に築かれない限り、それは、確に、耐久力の頗る怪い、又實際に、粗造たるを免れ得ない。

けれども今日の所謂生活改善とは、物質を通して營む處の生活即ち外的生活のそれであつて、其 [illegible] を遺忘されてゐるの觀がある。「與へられた物」は、與へられた儘に於て、其物に對する價値觀を生ずるのではない。それを制御（コントロール）し利用する處に、價値觀念が具象化し秤量化される。生活改善とは、之を要約すれば、最も多分にして最も高尙なる生活價値を創造し享受すること、其ものであると私は信ずる。

而して　値の創造及享有をして、多々增々多く、愈々高尙ならしむることは、一つに、懸つて、其生活

生活價　を建築する土臺（ファンデーション）、則内的改善の奈何に在る。内的生活（五）に左までの感興も、素より定見も有たない人達が、縱むば、生活改善を極めて狹義に解して、住宅と衣服と社交と、只是切りなものだ、とするにしろ、其事が、悉く「自我」を物的に、外界に創造し映寫する其幻影である限り、自己の（五）を捨てゝ、自己の幻影を直くし、充たし、美しからしめむとする生活改善呼はりは、蓋し、矛盾ではあるまいか。

家を建　衣服を造り替へる事とは、（五）の建築と改造よりは極めて容易な業である。哲理を思索するよ

る事と　りも、靴の一足も買ふ方が、なんぼうか、人間には容易な業であるかも知れない。一尺の物差しを以て一尺を知る事は、一尺なる現實を以て、幾尺の未知境を模索するよりも、人間の好む仕事である。生活改善とは、葬式の山菓子と、酒間の獻酬と、訪問時刻と、そして、住宅の間取りと、羽織を背廣に變へる事抔に盡きてゐるがように、それ等の事のみに多くの精力を吝まざる、蓋し、當然な成行きであらう。

問題を　てみても、私は、今の議せられつゝある生活改善問題には、甚だ不滿を覺へざるを得ない。そ

制限し　して、其悉くを此處に論ずるの暇を有ってゐないから、就中、住宅に關する改善なるものに就いて今姑く私の所思を述べてみたい。

生活改善にする或團體が、近來、生活改善に就て——即ち狹義の生活に就き、之が改善を議した中に於て、住宅に關するものを見るに、ざッと斯ういふに發表を爲てゐる。

住宅の　（一）住宅敷地は其氣候（溫度、風土、土地の濕氣等）及空氣の良否（敷地の廣狹、地質、植物の

改善　多少、敷地附近に不潔場所の有無等）を研究調査して選擇すること。（二）住宅敷地は其地の文化的設備（排水、給水、瓦斯、電氣等）の有無を調査して選擇すること。（三）間取配置は家族

本位となし、家族用、接客用、各々に便利なるよう配置すること。(四)構造は衛生、便利、耐久、經濟を主とすること。(五)各室の設備は虚飾を避け衛生と實用とを主とし文化的設備を利用すること。(六)庭園は在來の趣味本位にのみ偏せず、子供の休息、運動等に便して且つ保健的に施設すること。(七)借家する時は必ず消毒すること。

以上は其決議された要項であるが、是にそれ々々理由を付せられてゐる。そして是が所謂生活改善の一部としての、住宅改善に對する原則なりとすれば、私は、件の要項を覽て、つく〳〵情けないような氣持がした。

改善は遊樂な

仕事ではない。即ち骨董や畫幅を弄ぶような觀賞的な仕事の一つが、所謂生活改善就中住宅改善の仕事ではない。そして、同時に、少數階級な有産者則理想を容易に實現し得る住宅所有者の問題ではない。斯の問題は、主として都市に於ける問題であると同時に、「近代の都市は借家人の都市」だと謂はれてゐるように、事實、住宅改善の問題は、之等借家人の問題、則ち、經濟的に其趣味性や意思の自由を極めて制扼されてゐる人達の問題である。而して、それ等の人達に供給される住家其ものは、採算の關係が、凡ての施設に附き纏ふてゐる事をも考慮に入れなければならぬ。

以上の決議は出來得べくば

斯の點に於いて、餘程な距離のある事を、まざ々々と示してゐる。要するに、問題の重心が少々傾いてゐるように想はれる。件の改善要項は、凡ゆる住宅建築に通じ、その最も理想的條件であると同時に、それは經濟關係を無視したもの、少くとも、經濟を考慮の外に遺したもの、所詮、落語家の所謂「大名しるこ」式な考へだ、と私は想ふ。

是に越した事はない。凡ての住宅は、斯の理想と條件の下に建設し得るならば、最も可なる事である。併し、「借家人の都市」を對象として、住宅改善を具體化するには、其所謂改善條件なるものが、普遍性を有するもの、即ち凡ての階級を通じて實現し得るものであらねばならぬ。

要するに、今の所謂住宅改善には、凡てを通じて一貫せる基本的方針さへ安定してゐない。只、條項に排列し、考慮され、斯くて、其纏る處は、竟に「借家人の都市」に勿體な過ぎるものが出來上るに過ぎない。

前記の改善事項は、今日の建築設計家に於て、住宅設計に伴ふ重要條件たる事を識つてゐる。若も施主が設計上に兎角の制限を加へずして、設計家の理想を充分に伸ばし得たならば、件の要項は設計家の考慮に當然上り來る。豈にそれ、斯る決議を俟ち初めて住宅建築の改善要項を識るような迂愚ならむや、である。建築設計家としては、建築學、建築技術の要項として、既識の事實に屬する。今斯る決議を示される事は、寧ろ、日蔭に在るものを陽下に曝すの感なきを得ない。

されば問題は

茲に一轉して、所詮、經濟問題則建築費と收利の比率問題となる。云ひ換ゆれば「借家人の都市」民が、借家料として支拂ふべき負擔問題則都市社會問題の一つに歸する。某團體によつて決議された如く、例へば、自由に好適な敷地を選擇し得るかのように、又は、瓦斯や電氣でも欲するが儘に消費し得て、乃至は、間取りを家族本位として而も家族と接客用に配置するとか、庭園を趣味本位から轉換せしむるとか、自宅に浴室を設くるとか、孰れとして可ならざるはなきであるが、同時に、都市社會問題としての住宅改善なる觀念を逸してはゐないであらうか。換言すれば、斯る改善は恐らく多くの人に望み得ない改善である。

住宅改善問題

は單に個々の生活改善なる、謂はゞ、放漫な問題でなくして、最早、都市建設の一要素たる家屋政策として、或は地方的住宅政策として、問題は、公共的範域に入つてゐる。されば之を議する事は、斯の見地よりせなければならぬ。隨つて、少數の人達又は特殊階級の人達によつてのみ實現の可能性を有する處の、住宅改善事項は、未だ觀賞的な域を脫せずして、斯る共公な領域には入つてゐない。

所謂都市計畫

なるものは、之を側面から觀て、所詮は、家屋政策に帰する。之を歐米の家屋政策に觀れば、都市計畫の根蒂より家屋政策が産まれてゐると共に、都市計畫の實行は、家屋政策奈何といふ事に帰してゐる。素より、家屋政策には、諸種の方面がある。例へば、官公衙の如き公共的建築物、公衆を收容する公館、所謂細民住宅、乃至は、職工住宅、而して一般家屋の如きであるが、現代に於ける都市の家屋政策は、之等の凡てを包容しての問題に轉化し來つてゐる。而して、都市計畫は則ち家屋政策なり、といふような重要さを有つてゐる。

されば住宅を

奈何に改善すべか、といふ生活改善策は、家屋政策の一部則ち公共的な問題であつて、實は少數に限られたる問題ではない。折角生活改善を議するの先覺者は、今一段其目標の水準を上げて頂き度い。而して、斯くあらねばならぬこそ、住宅改善問題の、實は甚だ困難なる所以が、此處に存するのである。蓋し、財と閑と趣味の自由を有する住宅改善問題は、或特段なる個々人に於てこそ初めて議すべき問題である。

雜誌の雜誌（一）

庭園の目的は現今社會の各方面から要望を徵したならば色々澤山注文があらうと思ひますが、それ等に構はず、大體を類別して見ると次の通りであると思ふ。第一、觀賞－第二、天候緩和－第三、屏風－第四、防塵と淨化－第五、換氣と迎光－第六、運動及園藝場－第七、火盜防禦－第八、目隱－

（庭園より）



鐵筋コンクリート其の日その日 (三)

會員 工學士 增田清

スラブの正の曲能率に對する鐵筋の位置は下から二センチ米突未滿であつては、ならぬと建築條例に規定してありますが、英國のフエーバー博士の説に據りますと、使用した鐵筋の徑丈、あいて居ればよいと云ふ事であります。是れは、然し意見の相違であつて、我國に於ては條例に從ふのが先、間違のない方法でありませう。何れにしても下り過ぎてコンクリートの充分にまはらぬのは火災の際には意外な珍事の原因となるのであります。

負の曲能率に對する鐵筋といふのは、スラブを梁の上に載せた樣な形に作る時、特に此のスラブが幾つもの徑間に連續して居る場合、その支持の役を勤める梁の上に於て、梁と直角の方向に、スラブの上層に接して配置されたる筋の事であります。一般に申しますと、凡て、スラブに限らず、梁に於てでも上層が延びる、下層が壓力を受けると云ふ樣な點を負の曲能率を受けて居ると稱するので、其處へ入る鐵筋は必ず延びの起る部分、卽、

上層に配置する事を要するのであります。

然るに多くの場合、コンクリートを打つ迄に、スラブの鐵筋は、其の上を歩行する事が多い爲めに、甚しく其の間隔が亂れて困る、特に充分なる歩み板を用ひず、又充分なる結果を施さぬ部分に於て甚しいのでありますが、最も困るのは負の曲能率に對する筋を踏み付けて、其の高さを變せしめる事であります。今、市拾貳吋、有効厚五吋、全体の厚さ六吋のスラブで、鐵筋が上層に四分丸三本としますと、此のスラブの抵抗力率は

$$A_s=0.589 \qquad P=\frac{0.589}{(12)(5)}=0.0098$$

$$k=0.416 \qquad j=0.862$$

∴コンクリートの抵抗力率

$$M_c=\tfrac{1}{2}f_c k j b d^2$$

$$=\tfrac{1}{2}(650)(0.416)(0.862)(12)(5)^2$$

$$=34950 \text{ 吋ポンド}$$

鐵筋の抵抗力率

$$M_s=P f_s j b d^2$$

$$=(0.0098)(16.000)(0.862)(12)(5)^2$$

$$=40.500 \text{ 吋ポンド}$$

即、コンクリートの方の抵抗力率が小さいと云ふ事になつて居ます。今、此のスラブで鐵筋が、壹吋下がつたとして、其のコンクリートの抵抗力率、即、強さを計算しますと、前と同様にして、

$$A_s=0.589 \qquad P=\frac{0.589}{(12)(4)}=0.01227$$

$$k=0.45 \qquad j=0.852$$

$$M_c=\tfrac{1}{2}(650)(0.45)(0.852)(12)(4)^2=23.900$$

更に鐵筋が貳吋下つた場合には、同樣にして、コンクリートの抵抗力率は一萬四千五百吋ポンドとなります。この結果を前のものに比較して、其の影響の割合を見ますと、初めの場合には鐵筋の下りが二割で強さの減少が三割一分六厘となり、次の場合には、下りが四割で強さの減少が五割八分四厘、約六割となるのであります。雷に以上の如き影響許りでなく、コンクリートが下層の部分に於て、甚しき應力の超過を來すといふ事實を考へますと、僅かな差として、大した注意を拂はなかつた事が豫想外に多大なる影響を生ずるのに、

恐らくは一驚を吃せらるゝであらうと思ひます。從つて、壹吋位と輕蔑は出來ないのであります。私は最近市中に建てられた大建築に於て、恐らくは以上の原因に依つて生じたと想像される所の梁の上に沿ふて起つた龜裂を明かに視たのであります。斯る狀態を防ぐ爲めには第一にはスラブの鐵筋の下に適當にして充分なる適所に夫々、前から用意した適當なる高さと大さのコンクリートブロックを入れて鐵筋の垂下を防ぐか、又は他の針金なり板金なりで出來た止め金物を使用するか、或は又、充分厚い歩み板を巾廣く、床の上面に並べて、鐵筋を一旦、結束した後は出來得る限り、これに觸れない樣にすべきであります。垂下した鐵筋を、其の儘にしてコンクリートを打つ位ならば、寧ろ初めから入れて置かない方が宜しからうと思ひます。

第四には梁の鐵筋であります。梁の下端には必ず鐵筋の下に、スラブの場合と同樣、一定のコンクリートを附して火災の豫防に用ゐて居ります。梁に於て、この被覆の厚さは、スラブよりも一般に熱の影響を受け易い形をして居るといふ事から、其の厚さを三糎未滿としてはならぬと規定してあります、故に梁の横にも同樣なる厚さを附けて、置かなければなりません。エッヂー博士の說では倉庫の樣な建物の梁に於ては、火災の損害の激しくならぬ用意に梁の巾を十吋以下としない方がよい。其他の建物にあつても餘りに幅狹く丈の高い梁は火災といふものを考へたら決して宜しくはないといふて居られます。これも充分味ふ可き說でせう。

しかるに實際の場合にはこの通りに行はれる物は少なく大抵は梁の底に密着しかけたり、或は又側板に接した爲めに假枠を外した後に露出した鐵筋を隱す目的でモルタルを塗るといふ樣な醜態を演ずるのが稀ではないのであります。次には鐵筋相互の間隔が亂れる事ですが、この間隔は正の曲能率に對して入れた鐵筋に於て、少くとも鐵筋の徑の一倍半丈明けるか、又は壹吋を離すがよいのであります。特に同じ本數の儘、相當の長い距離を並べて入れる時には、是非共、此の間隔を適當

にしなければ、コンクリートのまはり方がわるい爲めに、鐵筋コンクリート構造に於て強さを保つ爲めに何よりも大切な粘着應力を減殺するのみならず、前述べた假枠に接したまゝで仕上げると云ふ樣な事と伴つて鐵筋の腐蝕を起す原因ともなるのであります。只一言御斷りして置きますが負の曲能率をうける部分の鐵筋はその相互の間隔を、今申しました樣に八釜しく云はぬ事もありますが其の時には鐵筋の延びが充分隣りの徑間に入つて居る時に限るのであります。

次には、スラブの場合と全じく、負の曲能率に對する鐵筋の下り過ぎであります。これは前のスラブの場合を參照して讀むで頂けば充分御解りになる事と思ひますが、スラブよりも梁の方が建物の主要なる部分と見做し得る丈、一層の注意を拂はなければならぬのであります。スラブ許り丈夫に出來ましても梁が弱くつては、スラブに載せ得る荷重も梁には載せ得ないと云ふ結果になりませう。

次には梁に於て見受ける肋筋（スターラップ）の位置の變動であります。これも又頗る冷淡なる取扱を受けるもので、鐵筋として、その重要さに於ては主筋に劣らざるものを、相當なる注意を拂はぬ許りに假枠を外すと共に梁を落すと云ふ樣な事も再々、私共の耳にする事であります。スターラップの本來の役目は主として梁に起る剪力に堪えるもので、例へ、主筋を充分に入れて曲能率には堪える計算をしても、此の肋筋が不充分であるとか、或は折角入れても無用になる樣に倒れてしまうとか、或は一ケ所に集中して、他の部分がら明きになる樣では到底充分な荷重に堪へ得る床は出來ぬものであります。

在來行はれた試驗の結果に依りますと、スターラップを用ひて適當に補強した梁は、スターラップを用ゐない梁に比して、凡、三倍から四倍の荷重に堪えるといふ事であります。只、誤解をしてならぬことは、スターラップを用ひても、荷重を增すと共に、生ずる龜裂は、スターラップを用ひない梁に比して、殆差のない時期に起り始める、即、スターラップを用ゐても龜裂の起る始まりは

用ゐて居ない梁と差はないのでありますが、龜裂を生じてから、スターラップのない梁は、直ちに破壞の狀態に入り易い、特にコンクリートがまだ施工してから間がないとか、或は調合が惡いとか水が多すぎたとか云ふ樣な場合には龜裂は破壞の第一段である事が多い。しかるに、スターラップを用ゐてあると、主筋の量さへ充分にあれば、破壞は龜裂に迄は、伴はない。むしろ、第一の龜裂が始まつてから、スターラップは徐々に、其の効を發揮して梁の失敗を防ぐのであります。從つて普通の荷重の時にはスターラップは働かないかも知れませんが、其の爲めにスターラップは用ゐなくともよい、或は何うなつてもよいとは言へないので、荷重が思ひの外に增大する事も絕無とは云へませんし、或は構造が思つた樣に行かぬ事もあるでせうから、スターラップを輕視する事は、甚よろしくない事であります。

近着の米國の工學新報に、スターラップを無視した爲めに起つた失敗の記事があります。其れは紐育で、或るポンプ室の屋根を受ける目的で作られたもので、壁とは一体的に作り、梁の眞々八呎九吋、長三十二呎、巾八吋、高さは兩端で二呎、中央で四呎即山形に中央程丈が大きいのであります。鐵筋は梁の底から五吋の所に徑壹呎八分の一のものを二本用ひてあります。計算するにこの梁の支ゆべき重さは三萬五千封度であり、鐵筋の應張力は壹平方呎に貳萬壹千四百封度、日本の規定では約一萬六千四百ポンド、コンクリートの應壓力は九百七十五封度、日本では約六百四十ポンドに達し、剪力は全樣一平方吋につき九十一封度餘日本では約六十ポンドといふ結果になるのであります。然るにスターラップを用ゐて居ない剪力が一平方吋に四十ポンドに達したら、スターラップを用ゐなければならぬと米國では定めて居る所が多いのに、其倍にも達して居る箇所に、抗剪筋を用ゐなかつたのは確かに失敗の直接原因であり、鐵筋が梁の下端から五吋も上にあつたといふ事は不必要な事で明らかにコンクリートと鐵との應力を增大して間接に梁の破壞の因をなしたもので、何故もつと早く落ちなかつたらう、と批評してあ

ります。斯の例で龜裂は斜めに梁の支點から始まり上層に達して居ます。上述の例は抗剪筋の有用なる事を裏書きはしませんが、必要缺く可からざるものであるといふ事を明かに示すものであります。

スターラップの位置の不精確を防ぐ爲めには、スターラップの終端を充分主鐵筋（正又は負）に結び付ける事も必要ですが、スターラップを一箇丈用ゐると云ふ事は割合ない事ですから、使用する筋の長さの許す限り連續的にスターラップを作つて、上から入れる方法を取るのが最もよろしいと思ひます。只、此の方法は兩端支持のそれには不向きです。尙、一つ注意をしたい事はスターラップの方一番目のものが柱なり大梁なりから離れる距離であります。往々、この距離を第一と第二との相互の間隔よりも大にして平氣な人がありますが、是れは必ず半分以下の眞に第一のスターラップを納めるのが當然であると思ひます。

スターラップの終端は、必ず壓力をうけるコンクリートの部分に於て其處にある主鐵筋に結び付くべきもので、梁の中央にあつてはU字形となりその兩端は開いてスラブに入るのが普通であり、梁の兩端にあつては、スターラップは、逆U字形になつて下端の壓力を生ずるコンクリートの中に充分入ることを要します。何れの場合にあつてもスターラップに張力のかゝる場合に、充分その張力を受けてもスターラップが抜け出さない丈の餘長がなければなりません。（つづく）

鐵筋コンクリート構造と施工上の諸問題 (三)

會員 T N 生

■材料の研究■

鐵筋コンクリート構造法が施工上に就いて數多の困難が伴ふことは既に述べた。そして我國今日の現狀では到底完全といふ事は殆んど不可能である事といくら設計が整頓して居つても本構造法の運命は一に懸つて施工上にあるといふことをも述べて置いた。

鐵筋コンクリート構造法の長所並に其價値に就いては茲に述べる必要のない程に知れ渡つて居る殆ど平面的戰爭の時代を去つて立體的作戰の時代であるかの如く建築界は本構造法によつて幾多の新生面を開かれて來た同時に飛行機飛行船の實際的試練が尙最も重要である如く、本構造法の將來は實際問題の運用に係つて居ることは爭はれない事實である。今後は優秀なる飛行家の輩出するを期待されると同樣に本構造法の實際家の多數出現を我國建築界は要求して居る事と信じて疑はない

筆者は茲に稿を改めて材料の研究に關する要點を擧げて見たいと思ふ。

鐵筋コンクリートが四つの材料から成り立つて居る以上は此四つの材料についての研究はその科學的性質の研究から始められねばならない。又此等の要素の相對的關係も同時に探究されなければなるまいと思ふ。

近時歐米諸國の專門家が力學的理論を講究するの傍、コンクリートに關する科學的性質に就いて各種の實驗を悉細に研究しつゝあることは注意すべき事項である。殊に砂及砂利に關する研究の如きは最も意を注がれて來た傾向がある。我國に在つては書物に據つて教へられるので、之れを實際

の上に還元して奈得し行く徑路を辿りつゝあるの觀がある。從つて生きた實際の事例から出立して貴重の報告の現はれないのは寔に止むを得ない事であらう。

材料の研究は兎も角も必要である。實際の上に忽せに出來ぬものである、忙がしい建築場に在つてはしかも無頓着に無雜作に取扱はれて居るが爲めに充分なる考案を與へられない場合が多いのを遺憾とする。殊にセメント、砂利等に關する取扱方は最も甚だしいものゝ一つである。

先づセメントに關する問題から初めて見たい。

實際上に於けるセメントの量り方

セメント一立方尺と申せば一尺立方の桝に量つたセメントの容積をいふのであるから何んでもない樣であるが、此簡單なるセメントの量定方が如何に困難であるかは實に意外なる事實である。

米屋の小僧が最もむづかしい修業は米を桝で量る事であるさうな、粒々直立的姿勢を執る樣に米を量る事が出來なければ一人前の米屋にはなれないさうである。これは理外の理である。現時の我國に於てセメントの量り方に理外の理があることは必ずしも意外な事ではないのかも知れない。

セメント一樽は重量にして三百六十封度ある事になつて居る。そして此一樽の容量は約四立方尺ある事になつて居る。セメントは御承知の如く白粉の樣な細粉である一樽に詰められてゐる間は行儀よく四立方尺の容積に收まつて居るけれども此のものを樽から放下して桝で量るときは決して元の四立方尺には中々立歸らない計でなく、其容積を增大して五立方尺近くになる。或る經驗家は之を五、二立方尺迄に量つた事がある。五立方尺以上に迄其容積を增大させるのは少なくとも樽から出したセメント幾を返か掻き廻した上に愈桝に量るとき、要心に要心して輕く量る事を必要とする畢竟セメント容量の增大は其粉末の空間が增大する意味であつて之を重量を測れば明かに一立方尺九十封度のものが七十封度近くに減小する意味に外ならない。

斯くの如く一樽のセメントは之を容量で量る場合に量り方によつて其容積が變化する事實はセメ

ント一立方尺の容量が一定しないといふ事になるのである。セメント一立方尺の容量が一定しない事は實際上に於て色々な影響を各方面に與へて居る事を指摘したい。

■經濟上より觀たるセメントの量り方■

セメント一樽は四立方尺あるべきものが實際に於て四立方尺以上の容量に量る事が出來るのみならず、事實に於て五立方尺近くに量り得るが爲めに普通建築事務所のセメント數量の算定には之れを一樽四五立方尺と換算して豫め其量の增大を見越して居る。これは經驗から割り出された用意ではあるが、同時に經濟上から考慮した用心に外ならない。此の容積增大の事實と此の經驗から割り出された算定法は從來一般建築界の一つの慣習となつてゐて、しかもセメント一立方尺の標準は未だに確定せられて居ないのは頗る不可思議な現象である。

或る會計檢査官は次の樣な話をして居られた。

『檢査官の立場から觀るとセメント一樽の容積算定法を豫め考慮して居らぬ技術家に注意を與へる丈に止めて居るが、實際上セメント容量の算定法の錯誤から屢々問題が起つて困るのである。民間で之を四、五立方尺に算定して居る通り、官途の技術家も同樣に四、五立方尺として居る人が多い、乍併四、五立方尺として居る處では必ずセメント樽が豫想外に殘留して其所置に困つて居る。そこで私は必ず四八立方尺に算定しておく樣に注意を與へて居るが、民間では此所置に困る樣な事はないのですか』

役所で餘つて民間で餘らぬ理はない、民間でもセメント樽の所置に困る人もあらうが、之を經濟的に見て喜んで居る人の方が多いかも知れない、乍併、此事實は其算定法の問題でなくて主として經濟的問題から生れて居る樣に思はれる、セメントを輕く量つて樽數を殘すことは比較的高價であるセメントを經濟的に使せんとするの慣習から生れて來た錯誤である。而して其結果理論上から見たセメント一立方尺の標準といふものが不明瞭になつて居る事は甚だ遺憾な事實である。

■理論上から觀たるセメントの量り方■

セメント一樽を四立方尺とするなれば、一樽を四分したる容量を以て一立方尺とするのが至當である。若し一樽を四、五六立尺と換算するならば之れを四分半して其一を一立方尺とすべきである然るに尙一立方尺のセメントの量り方が慣習上輕く量つたものを標準とする從來の遣り方は決して存續すべきものでなくして同時に一立方尺のセメント容積の標準を建築界全體に亘つて一定にすべきものであると思ふ。何となれば鐵筋コンクリート造に於けるセメント一立方尺は決して不明瞭に之を量るべき性質のものでないからである。

茲に筆者は如上のセメント測量法の成り立に就て考察するの必要を認める。

我國に於けるセメント工業は明治七年に始まつて居た、乍併一般建築界にセメント使用の行き亘つたのは明治二十七八年以後であつてセメント工業の勃興したのは日露戰役以後である。明治前半期には『セメント』其者が知られて居らなかつた位であるから一般建築界はコンクリートの主成分として安價なる石灰を使用して滿足して居つた。然るに明治二十四年に於ける尾濃平野の大地震及明治二十七年に於ける東京附近の强震より得たる經驗は從來の石灰コンクリート或は石灰モルタルの力度に滿足する事が出來なくなつた、則ち建築界はセメント使用を奬勵され、從つてセメント工業界は其製造高を增大して來た。

乍併安價な石灰と高價なセメントとは經濟上に於て非常なる苦痛を味ふ事になる。セメントの險約は同時に建築塲に於ける重要事項の一になつた當時の請負者がセメント量り方を研究したのも之が爲めてある。當時の技術家がセメント一立方尺の標準を不明瞭にしたのも之が爲である。此の習慣は明治時代を經過して大正時代にも及んで居る

然るに明治の末期から大正初頭にかけて鐵筋コンクリート構造法か紹介せられ此十年間に到る處此新構法は實施せらるゝに到つた。此新構造法の主成分はセメントである。從つて煉瓦造石造に用ひられたセメントの使用量から見るとセメントの需用は著しく增大せられて居る。のみならず、セメントの價格は最近に於て著しく暴騰した。

此際に於てセメント使用者の態度は從來慣習久しきに亘つて居るが爲めに決して改められて居らない。況んやセメント界好況の影響からセメントの量り方も經濟上の打算を離るゝ事は出來ない事になつて居る。

鐵筋コンクリート構造法の主要なる材料はセメントである。セメントの量を充分に使用する事によつて本構造法は强固な實體を得られるのであるからして、基礎コンクリート或は煉瓦積用モルタルにのみ使用せられつゝあつた時代とは其趣きを異にして居るべき筈である。從つて設計者の仕樣に示されたコンクリート配合の規定は施工當事者に在りては大いに眞面目に考察しなければならない又設計者に在りては計算上の假定を決定する場合に實際に於けるセメント計量法の如何を考へて貰いたい。

繰り返していふ、セメント一立方尺の容積は之れを一定にするの必要を認める。

法令上より觀たるセントの量り方

如上の記述に依つてセメント計量法を容積に依ることの不都合不確定にして忽せにすべからざる事を明かにした積りであるが、同時に將來重量に依つて計量するの必要なことを注意したい。

米國に在つては樽を使用する場合より風袋を使用する場合が多い樣である。そして風袋には四分ノ一樽則ち一立方呎のものを使用して居るが爲めに實際の便利は此上なく且一立方呎の標準容量が確定して居る譯になるのである。

却て鐵筋コンクリートの標準調合とセメント計量との關係について考へて見るとセメント容積一に對して砂二、砂利又は碎石四の割合を以てするこれは歐米諸國の實驗報告から敎へられたのであるが此のセメント容量一に對して我國現時のセメント計量法は決して正當のものでないと思ふ。例を米國にとつても彼の一立方呎に對して我立方尺は其容積稍小なるに加へて前述の如くに計量法の不安定を以てするならば、鐵筋コンクリート計算上に取扱はれるコンクリートの應壓力、應曲力或は剪力の如きは我國に於ては彼の例を以て直ちに應用し得られぬ事情を認めねばならない。

現に標準調合一、二、四のコンクリートの應壓力に關しても彼の書籍或は報告に記載しある丈の力度は我國の實驗に於ては得られないのである。何んとなればセメント一容量の標準に疑問があるからである。況んや實際に施工せるコンクリーの力度は頗る疑問といはねばならない。

幸にして新建築法令には此點に關して標準とすべき規定を施行規則に掲げられてある。

市街地建築物法施行規則第八十八條第四項には『コンクリート』の調合割合は『セメント』の容積一に對し砂と砂利又は碎石との容積の和六を超過せざること、但し『セメント』の千四百瓩を以て一立方米とす)とある、千四百瓩を一立方米と規定せる以上は重量を以て容積の標準を示したものである。乃ちセメント一立方尺を約八十六封度と規定せるものである。然らば從來漠然と施工せられ來つた、施工上に於けるセメント容量の計量は依る處を示された譯であるから今後は之に依つて計量の標準とすべきである。

同時に建築法令の實施以後に於ては須らく從來の不良なる習慣を打破し、セメント計量法を確實にして、將來此種の不安定より來る缺陷を矯正し鐵筋コンクリート構造法の前途に暗影なからしむるを希望してま止ない。



亞米利加の都市計畫（三）

ウオルター・デイ・ムウデイ著
Z Y 生譯

（一）

著者の都市といふ言葉と、圖書館の都市といふ言葉とは、實際に於て左樣でなくとも、尠くとも表面的には類語の如く思へる。

市俄古市の圖書館は、重要なるものであると同時に、興味深い文化的施設である。その數百個以上に達し（支部を加へて）その有する圖書の數總計三百五十萬冊に及んでゐる。

公立圖書館とその四十五個の支部を除き、米國に於て最も重要にして著名に、且つ價値ある圖書館はジョン・クレラーの科學專門の圖書館、ニユーベーアレーの參考圖館、ライエルソンの藝術圖書館、博物館の中の博物圖書館、市俄古大學の法律圖書館、市俄古歷史協會、市俄古法律院、フランス圖書館、米國のスウエデン歷史協會、獨立戰爭圖書館、ヘブライ學院、聖イグナチウス、カレ

ツヂ、ロヨラ大學、ラッシュ醫學專門學校、市俄古神學院、ガーレット聖書學院、マコーミック科學院の圖書館である。

以上の圖書館の名、その性質を一瞥しただけで如何に之れ等が博い重要なる題目の範圍に亘つてゐるかを證明してゐることが分らう。

（二）

市俄古公立圖書館は、圖書八十七萬五千卷を有し紐育圖書館の百廿萬の圖書を有するを除けば米國に於ける最大なる圖書館である。此れを人口の比例にすれば、市俄古市のそれは、紐育市のそれよりも五十萬冊より多く所有してゐるわけになる。舊世界の大圖書館を數ふれば、大英博物館の四百萬冊、パリーの國立圖書館の三百萬冊、ペトログラード、ヴキンナの帝國圖書館にも劣しい圖書がある。その圖書の種類、數に於て此等の圖書館に比適する、圖書館を米國に求むれば二百五十萬冊を所有するコングレスの圖書館がそれである。

米國の圖書館と、歐洲の圖書館とは、その職能その組織に於て、非常な相違がある。歐洲のそれは學者のために、都合よく出來てゐる。帝室圖書館、國立圖書館は、無數の世に稀なる圖書を所有する、寶玉の家であり博物館である。幾世紀も經た歷史と、有名な學者等の圖書を保存してゐる。而して圖書は圖書館の中に於てのみ讀むを許され貸出しを許されてをらぬ。この外樣々の形式と制限とが加へられてゐる。

公立圖書館の價値は、その書物と書物の流通とにあるので、その建物にあるのではない。その配布に便ならしむるためには、特に支部が重要である。裝置の點に於て紐育の圖書館と市俄古の圖書館との間には大なる相違がある。

（三）

圖書の流通の點に於て、紐育市のそれは、市俄古市のそれを凌駕してゐる。一年の總計を見るに市俄古市の六百萬冊に對し、紐育市は一千萬冊に達してゐる。併しこれを人口の比例にして見ると市俄古市のそれは、二大都市のそれを凌駕してゐる。一九一八年の平均數は、市俄古市の七十一萬九千六百五十六家族に對し、各家族が、八冊宛讀

んだ割合となつてゐる。市俄古市の公衆が如何に讀書家であるかを證明するに、此れに優るより良き材料は他にない。

紐育市は四十四個の美麗な、特別に設計した、建物を有してゐる。アンドルウ・カーネギイの寄贈によるもので、各一個の價十萬弗づゝにあたつてゐる。市俄古市は眞の支部は二個を有するのみである。所謂支部と稱せられてゐる、四十三個の圖書館は、大商店や、公園や學校の中に設け何人をも自由に入れて、自由に讀ましむる設備にしてある。一個の室の圖書室や之れに類似の粗末な間に合せの建物である。夫等の圖書館たる建物に費した金額二百萬弗にあたつてゐる、その支部に於て市俄古市民が利用し得る書物は千二百三十九冊である。その支部の或部分の如きは、書物が少數であつて、或學校内に置てある支部の如きは五十冊に過ぬ。而してその支部の中最も有効なる働をするものは、或商店や或工場の中に置いてある部分であつて、使用人が十分にこれを利用することが出來る。

つまり他の圖書館と同樣に、或觸れて感じ得ざる諸要素が、實際に公衆のための圖書館の、調子と性格とを形造つてゐるのである。

ニューベリー圖書館は、その圖書館員たる、ウヰルアム・エヌ・シイ・カールトンの注意深い、有効な配慮により、最も愉快なる款待の典型となつた。便別な位置にあり、又間斷なく公衆を引着してゐる。ロックフエラー研究所が、その專門の領土に於て研究所たると同樣に、此圖書館は歷史と文學の領土に於ける、特別なる探究者にとつて實驗室である。或尺度を量るに重量器を適用するは全く見當違ひである。故に該圖書館の價値を正しく評價するためには、此事實を心にとめて置いて同一の誤をなさぬ樣に注意せねばならね。

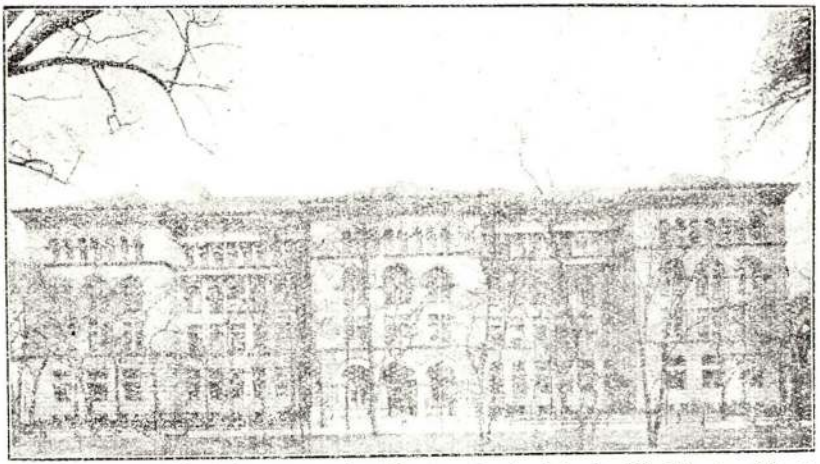
(四)

ニューベリー圖書館は、ウオルター・ルーミス・ニューベリーの遺贈により、一八八七年に建てられた。之れ以來百萬弗の四分の三は、圖書收入の外にその他刋行物、圖書館特有の設備品購入のために費やされた。この始めの基金の收入の外にエトワ

ード●イ●アイヤーの蒐集した貴重なる寄贈があり、立派なるものとなつた。その寄贈書には三萬三千冊の書物、パムフレット、原稿等がある。圖書館の圖書の總數、冊七萬八百三十一冊に達してゐる。主要なる智識の領土學問の範圍は、印刷術の傳記及び歴史、宗教及び哲學、神學、心理學、倫理、歴史、政治學、地理學、傳記、言語學、音樂、文學、美術、等である。以上の各分野に關し、多數の寶とも稱す可き書物をもつてゐる。興味あり何時の時代にも價値ある書物を藏してゐる。

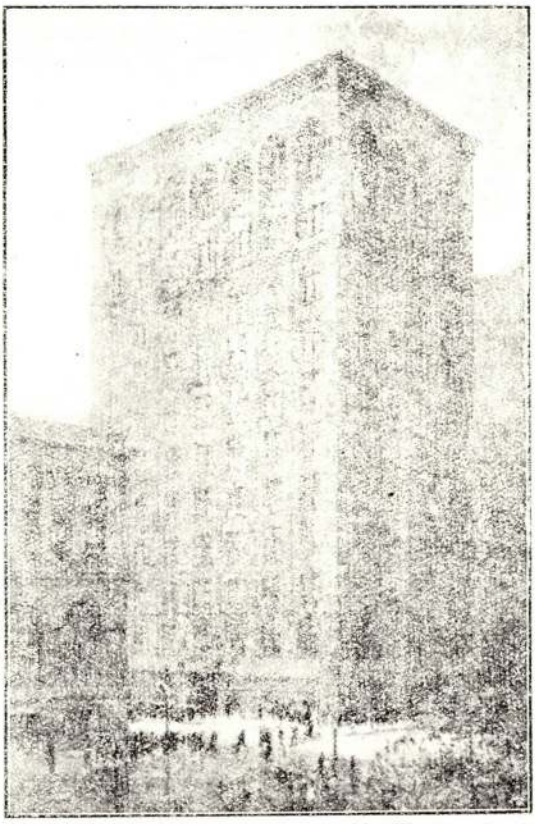
市の附近、又は市中にある、勉學、實施、研究の爲の各建物は、(例へば市俄古大學、ノースウエスターン大學、マコーミツク神學校、市俄古歴史協會、美術院とこの從屬物、市俄古オーケストラとその從屬物、その他數多き他の組織物)は、自然該圖書館と協力し、相互に奉仕しあつてゐる地方の教授や學生と同樣に、遠方より來る學者に對しては特別なる便宜が與へられてゐる。又學者をして不必要なる勞力を節せしめ、その時間の經濟を量り、彼の仕事を助けるやうに、その時の注意と個人々々の場合に、適應する樣に建てることが出來る。たとへば或教授が或題目に就て、少數の自己の教へてゐる、セミナリーの學生に教授しやうと思つた時に、ニユーベリー圖書館は、その爲に必要なる部屋を提供し得るし、又適當なる裝置をなし得るので

市俄古市ジヨンクレラー圖書館



ある。彼等が共に研究し協議せんとして、求めてゐる材料は、それが十巻の書物であつても、又は五百巻の書物であつても、たちどころに持つてくることが出來るのである。

市俄古市にかゝる蒐集の場所のあるといふことは、市とその教養の方面に威信を與へ、市をして引着力ある場所たらしめ（これニューベリー圖書館がかち得んと欲してゐた方針であつた）又或は學者等が一時研究のために來りて假の住所とし、又は全く市俄古には來ない樣な著名の學者が、地方大學の職員會を經てこゝに來ることにもなる。市俄古學院の或有名なる文學の教授を、或地方の大學からその椅子に、彼の現在よりも多額の報酬をもつて、招聘す可くしきりに懇願して來た。彼はその申込みを絶對に拒絶して來た。その理由はその大學の　とその大學の　る市の圖書館　、十分なる價のある蒐集もないから、又現在彼の享受してゐる位置と名聲とを、維持せしむる研究か出來ぬといふことにあつた。ニューベリー圖書館はそれ等の利便を彼に十分程供し得る。隨つて市俄古市は彼を最も多く引着し、市の知的生活が彼の現在にとつて最もよきものとなつてゐる。要するにニューベリー圖



市俄古市ニューベリー圖書館

書館は、專門的に分化した分献の典型、既に特別なる蒐集をかち得てゐるその價値、又他に著名なる點を漸次に建設しつゝある點等により、敎育上、智力上、社會的の價値の點に於て、市に對し又その他の領土に對し、非常なる奉仕をしてゐるのである。

（五）

又小學校の學生、市俄古カレッヂの卒業前の學生、日中は働いて夕暮の時間を利用し、時勢の進運に遲れぬ樣に、努力せんとする人々に對し、圖書館は、諸種の書物と材料とを提供する價値多き奉仕をしてゐる。年中かゝる類の人々が幾千となく圖書館の部屋で働いてゐるが、かゝる人々に正確な又有効な機會を提供してゐる。

ニューベリー圖書館の特色は、諸種の書物、印刷物、地圖、その他或文學上、歷史上、藝術上の題目に就て、繪畫をもつてし、又は圖形をもつてした說明どをもつて、正確に時日を定めて開いてゐる展覽會にある。その題目は時事問題、又は昔の事件や人物などに關した興味深いものである。その展覽會の目的は、要するに、繪畫の方法により、研究、讀者を補はんとするにある。公衆が材料を求めて來るを待つて居れば、何時迄たつても彼等は來ない。故にこちらから進んで、出來る丈け鋭く、出來る丈け引着力ある樣に、彼等の注意をひき、その不斷の興味をひき出さねばならぬ。その展覽物品材料の中に特に注意に價するものは英國劇の蒐集である。展覽會の特別なる報告も印刷されてゐる。

多年かゝる展覽を開き來つた結果、一卷の報告物を發行するに價してゐるヘンリーハドソンの航海發見を說明した東印度の原稿、書物、地圖、アリストファー・コロンバスの亞米利加發見に關係した、書翰、書物等の古き文献、伊太利、西班牙等の原稿、佛蘭西、英國の書物の裝釘、音樂に關する文献、原稿、フヰリッピンのジョセ・ライザル博士の書物、寫眞等、若しこれ等を記すならば、長き紙面を要するが、以上の記述で十分であると信ずる。

又圖書館はエドワード・イー・アイヤー氏によつ

て、確實なものとせられた、世に珍らしき亞米利加人に關する文献を所有してゐる。北亞米利加の印度人に關する、他の何處にも發見することの出來ぬ、文献である。その中には亞米利加印度に捕虜となつた物語や經驗の記錄を含んでゐる。初代の探險者や開拓者等が、家を建て生活し働き、而して不斷に國境の方面に推し進んでゐた狀態を知ることが出來る。當時の歷史の研究者に特に興味深い材料を與へ、又當時の狀態を繪畫に現はすにも、重要なる基礎を與へてゐる。

（六）

右と同じ方針の下に處理されつゝある市俄古大圖書館は、ジョン・クレラー・圖書館である。これは特に科學の方面に集中しつゝある接觸學、法律學、機械學は、特にその勢力と探究の點に大きい市の自由圖書館の中最も若年であつて、一八九四年市の著名なる商人であつた故ジョン・クレラー氏の遺贈によるものである。氏は近親者を有してゐない。私産として六百萬弗を遺した。そして市の慈善事業のため殆ど百萬弗を、財産の殘部二百五十六萬弗よりも尠なからぬ金額を圖書館のために殘した。而して經濟界の順調のために、此二百五十萬弗の遺産が、三百五十萬弗に增加した。クレラー氏によつて指名された管理人局では、その局を組織した後に、直にかく決定した。寄附資金そのものには手をつける可きでない、圖書館のための永遠の家となる可き建物の、建築基金はその寄附資金の收入から集積してある可きであると、一九一八年一月に、その基金は百二十六萬五百四拾三弗三八仙となつた。而してその一部は敷地購入のために費した。選定されたその位置は、市俄古公立圖書館のすぐ北のミシガン・アヴエニユーにある。特に事務家と醫家のために便宜の位置にある。而して此位置は將來市の計畫の下に、世界に於ける最も印象深い美はしい街路の一となる可き大道である。

市俄古公立圖書館は、貸出大圖書館として前に建てられた。而してニユー・ベリー圖書館は、參考圖書館として發達してゐた。故に新に建てらる可き圖書館に殘されてある可き領土は、科學の方

面である。管理人等は科學及び工藝文學の方面に關する自由公衆圖書館を建てる可く決定した。かくして市の圖書館の分野は有効なる道によつて完備された。自然科學、社會科學及びそれと關聯した方面の書物を集めてゐる。而して全體が、一般科學、物理學、自然科學、社會科學、醫學、應用科學の六分科に分れてゐる。應用科學には應用美術をも含んでゐる。併し音樂、彫刻、繪畫は含んでゐない。科學と言語學を除いては、凡ての問題に關しての、書籍をその圖書館に求めることが出來る。

又該館には四つの蒐集が加へられてある。醫學に關するゼエンス氏の蒐集（書籍一萬卷、ハムフレット一萬五千卷）、憲法に關するハンチントン・ヴキ・デャクソン氏の蒐集（殆ど六百種）醫術に就てのヘンリー・クレエードル・メモリアム氏の蒐集飛行に關するオクタブ・チヤユート氏の蒐集がそれである。又購入した數種の蒐集の中で、最も重要なのはゲーリツトセンのそれである。書籍一萬八千卷と社會問題、經濟問題に關するパムフレット一萬五千冊ある。特に財政學、銀行學、勞働問題、社會主義に關する書籍をもつて滿されてゐる。殊に社會、政治、に關する、特に秀れた文獻六千卷とパムレツトとを蒐集してゐる。その他の顯著なる購入をあぐれば、一八九八年にニユーベリー圖書館から移して來た三百卷の鳥禽學に關する書籍。敎授アール・チイ・エライの圖書室にあつた、大抵米國勞働問題、社會運動に關する六千卷の書籍と四千冊のパムフレツト。故エドワード・マーチン博士とその子息アウガスト・マーチン博士の所有であつた、婦人科、産科に關する八千卷の書物、四千卷のパムフレツト。ワルツブルグの故カール・エーレンブルグ博士の圖書である地質學に關する一千卷の書物、一千冊のパムレツト。ボムコムバグニイとビエレン・デ・ハーンの圖書館からの、數學に關する書物の競賣に出た際、購入した書籍。ミルネーエドワードからの動物學の競賣に出た書籍。

（七）

一九一八年にクレラー圖書館は、三七萬三千三

百五十六卷の書籍、一四萬六千以上のパムフレット數千の地圖、版圖等を所有するに至つた。或領土に限りて丹精して用意したる、入念の蒐集である幾千といふ定期刊行物の外に、年報、叢書等の連續して發行されつゝある、發行物を入手してゐる。それを直ちに、公衆の利便に供しつゝある。かゝる類の發行物を、製本したるもの、一九一八年の七月には、社會學十萬三千三十五冊、物理工學三萬三百四五冊、自然科學三萬七千七九冊、醫學七萬一千八百六九冊應用科學七萬七千七百九五冊一般の書籍五萬三千二百三三冊。全收入二三萬五千弗その中四万一千弗は建築基金のためにとりのけ、三萬三千弗は圖書館を成長せしむるの費用に當てゝゐる。

かゝる圖書館が、休養のために讀書するよりも報告のために探究する讀者を引着するは明である機械技師と醫者は此ライブラリーに來るの最も大きい二の階級であつて、化學者及び教師の階級がこれに次ぎ、その事務家は事務上の智識を探究するために、機械學者、多くの熟練なる勞働者、社會運動政治運動等の奉仕者、小學、中學等の教師その他著しい多くの研究者が觀覽に來りつゝある

(八)

世界大戰に際して、クレラー圖書館は大に努めた。正確に而して迅速に研究者將校等の要求に應ずる專門の書籍を購入した。就中軍醫學、外科學等の書物を購入し、それ等を卅五個の戰地圖書館を設けてそこに送つた。而して夫等の書物の抜萃報告物を準備し發行した。貸出者の便利のために同一の書物を二冊宛用意をしてゐた。合衆國の將校のために準備してあるので、戰爭に關する問題の圖書目錄、又その他同一種類の多くの書物を貸出した。此軍用圖書館のために特に圖書館員をも設け、費用一千弗を支出してゐた。

全く市俄古市は市の一般公衆の智識を強固にし圓滿ならしむべく、又專門の分野に於ける智識を完全にす可く、特別に企圖した、諸種の類の圖書館を十分用意してゐる。又この立派なる圖書館の研究から考へらるゝことは、市俄古市は地方にとりて眞に有用なる智識、又廣い專門的領土の研究の

中心となつてゐる。市の夜には市中及びその附近五千三百萬の人が住んでゐる。而して圖書館は、彼等の利用のために、便利に提供してあるのである。

かくも勝れて便利な圖書館を利用するの機會ある都市に於ては、圖書館が優秀な歷史的圖書館であり博物館であり、過去の收獲せる文化の一般的貯蓄地であり、保管者である處の、歷史協會と密接なる關係を結んでゐるとは似合しいことである

市俄古歷史協會は一八五六年に建設せられた。その目的は歷史的探究をなし、歷史的探究を奬勵し史料を保存し蒐集し、西北の諸州特にイリノイス州に關する歷史的智識を普及するにある。而して該協會は財政上、又その事業の方針の點に於て市の最も代表的な又公の精神ある人々の援助を常に得てゐる。此協會は市俄古市の、米國化の最も有効な鎔解爐である。市民の八分の五は外國生れ又は外國人の子孫であるが、該協會は彼等の米國化に多大の力を發揮してゐる。優れたる又その力の及ぶ範圍の廣い事業を營んでゐる點で、該協會は市の公の建物の中最も記憶さるべきもの、一である。

○深く掩へる火は最も
好く燃ゆ

○希望は思想の父なり

——セークスピーア——



住宅と色彩（三）

會員　工學士　建築士　葛野壯一郎

三　伊太利の黄金閣

吾が國にも京都に金閣寺が有る。是れは改めて申すまでもなく、西紀第十四世紀の末葉、足利義滿將軍の建造で、壁といはず天井といはで內外金箔を施したる點に於て、將軍豪奢の片身として有名で有るが、標題の伊太利に於ける黄金閣も、亦畧同時代即ち第十五世紀初期の產物で、當時の一貴族の計畫で有る點に於て、其外部に金色及其他の强い色取を使用した點に於て、建物に對する色彩應用の最興味有るものゝ一例で有ります。

由來各種の彩色、繪畫彫刻等の裝飾の建築其物に對する關係如何は　考究を要する問題で有りますが、英國のゼームスウヮード氏は是を母と其小供の如きものだと說明して居ります。是らは頗る面白いたとへ方で、即ち建築自躰は母に相當し、彩色及び其他　裝飾は其小供に當るとするので有ります。お母さんが小供を連れて居らないのは非

常に寂寞を感ずると同様、母たる建物が、其息子や娘である小供即ち彩色及び其他の裝飾を同伴しないのは、恰うど小供の無い女を觀て居るようなもので、非常に淋しい何だか物足りない、觀る者をして一種の悲哀を感せしめる。殊に住宅の如き種類の建物に在つては、一層其感を強くするので有ります。

同氏は更らに別の譬として、以上の關係をまた書物に於ける記事と裝幀及びさし繪の問題にもたとへて居ります。即ち建物自躰は書物の記事の如きもので、是れに適當する彩色及び裝飾は、恰うど其中に挿入するさし繪だの裝幀の如きものだとするので有ります。さし繪が無くとも、また裝幀が如何に貧弱でも、書物は書物として其内容さへ良ければ價値は有るでは無いかといふのが、無色無裝飾建築の主張であり、若し出來るなれば充分なる押繪だの說明圖を押入し、裝幀をも立派にするのが圖書としての價値を一層有効にする所以では無いかといふのが、其反對の意見となる譯で有ります。圖書に於ける裝幀や說明圖の挿入は、書物を一層良く觀せるといふ事のみでは無く、其内容を說明する上に於て、非常な効果が有るが如く書物にたとふ可き建築に、其押繪たり裝幀たる可き彩色並に各種の裝飾を施す事は、單に是を美化するといふに止まらず、其建築の内容構造を一層明瞭に說明すると共に、建築全體として完全なる威容安定を附與する點に於て、是亦大切な役目を分擔するもので有る事が認められるので有りますたゞ吾々の爰に最も注意す可きは、押繪や裝幀のみのために書物が存在するのでは無いと同じく、建築の性質材料及び其構造を無視した彩色並に其他の裝飾の亂用は、決して好ましいものでは無い是非避けなければならぬ事で有ります。

さて本題の黃金閣即ちゴールデンハウスの說明で有りますが、此建築は伊太利ヴェニスの大運河岸にある邸宅で、カドローの名によつて廣く知られた建築で有ります。元來の建物はズット古く中世の建築に屬するので有りますが、それが西紀第十五世紀の初期、即ち千四百二十四年、吾が邦の金閣とは　る事三十年の頃に、其前面に大改造

を加へると同時に、黄金色を初めとして頗る大膽なる彩色を施したので有ります。吾が邦の金閣は木造で、其規模に於ても決して大きなものでは無いが、此カドロー即ち黄金閣は可なり大きな、全體石造の建物で、其設計及び石工事を擔當したのは、ギオヴァニブオンと其息子のバートロメオで是れが改造をやつた當の建築主は、大運河セントソフイアに於ける當時の貴族マリノコンタリニと呼ぶ人物で有ります。今から觀て面白い事には、其改造當時に於けるマリノコンタリニの手記の一部が現存し、それによつて頗る明瞭に、改造當時に於ける彩色其他裝飾の命令が、一々詳細に知らる事で、此記錄と一千八百八十五年にシグノルジーボニーといふ建築家が、實物に就てやつた實地研究とを比較すると、ピツタリ符節を合する如くよく明瞭に、此彩色石造建築の眞相を知る事が出來るので有ります。

それによると、イストリア產の石材で造られた軒上鋸壁上の球形（パヴトルメント　ボール）だの、コルニースだのキャピタル（アバカス）の頂板だの、裝飾として附けられた獅子だの楯だの花だの蔓草だの垂木形だのと云つた部分及び各種浮彫の凸出部が、すべて美くしく鍍金せられて、金色燦然とかゞやいや居つたといふ事で有ります。黄金閣の名のよつて來るところは、そこに有るで有りますが、單に石材を金色化したのみならず其れと共に、青とか赤とかの強い色を思ひ切つて使つて居る。即ちキャピタルだのアーチの下端、楯飾及び帶飾の或物等の凡てバツクグラウンドに當る部分を、眼のさめるような青色、即ちアルトラマリンブリユーで塗つて居ります。例の記錄によると『出來るだけ剝落しないような方法で晴れやかな空色のアルトラマリンを使用する事』と有るのがそれで、青色のアーチの下端には、金色の星飾を配したる飾釘が打たれて居ります。また正面の垂木型及び其他に使つて居る赤色の石材に、更らに赤色油とワニスを塗つて一層赤く光らせる事を命令し、また實行して居るのも面白い事實で、赤いヴエロナプロカテロ大理石の色村、即ち新らしく切出した石の石面と古い石と石との色合の揃はないのを統一して、一層強い赤色の感じを

出すために塗ッたのだといふ事で有ります。また最上にある軒蛇腹だの蔓草模様を白色に塗り上げ其バックに當る部分及び窓組子の茨形（クラスプ）だのコルニースの木葉飾の如きものの下地を黒色に塗ッて、白と黒との強いコントラストを使ッたといふ事で有ります。元來此イストリア産の石材は、當時盛んに建築材料として使ッたものでは有りますが、ヴエニス人は其中性的な淡青或は淡黄の自然の色合には感心しなかッたらしいので、盛んに此イストリア石の上に彩色を施したので有ります。記錄によると軒上鋸壁（パラペット）の如きも、大理石を模して着色したといふ事で有ります。すべて大理石や木材の着色による模倣は、古今を通じて盛んに行はれまた現代も行ひつゝ有る事では有るが、其適用の精神に至ッては、古と今とは全然異ッて居たので有ります。即ち全然異ッた木製シックイ塗の張子の柱を石に見せたり、また非常に劣等な木材に着色して、全く種類の異なる他の上等木材の如く見せかける様なヤリ方は、古は決してやらなかッたので、同じ模倣をやッても其方法が非常に正直なところが有ッたので有ります。

とにかく黄金閣即ち吾がカドローは、其建築としての性質に於ては復興期の内でも其頽廢期に屬せしむ可きもので、餘りに人工を勞し過ぎたる點に於て、單なるビザンチン風の精神の復活と稱する外には、大した値價の有るものでは有りませんが、建物の外壁に於ける大膽なる配色の一例として、且ツ又石造に於ける着色裝飾の最特長ある實例として、非常に面白いもので充分研究に値するばかりで無く、其改造當時に在ッて、五彩粲爛とグランドカナル河岸にそびえて、水面に映じたる美くしさは、今日からしても容易に想像される事實で、此點に於ても充分特筆の價値が存するので有ります。





都市保健問題としての

塵芥處理に就いて

（下）

（本編は「大阪市」の調査に負ふ處多し）

玄黄子

前號に於ては、都市塵芥の概念と、紐育市に於ける塵芥を標準として、都市塵芥の成分と、大阪市に於ける、塵芥成分の選別成績、分析、其他に就いて概說した。されば、次いで問題となるべきは、其處理方法如何、といふ事に歸する。是に就いては、凡そ三大別にして考ふる事が出來得る。

第一は　原形の儘で利用する事である。

斯の處理方法は、既に倫敦サウスウアーク、メトロポイタン區に於て採用されたる如く、塵芥を或裝置によりて粉碎と成し、之を肥料として賣却する方法、其他、埋立に用ひ、或は其中より有價物を撰採するが如き、種々なる方法を存するようであるが、原形の儘利用を講ずるのは、都市人口の膨脹と發展に伴ふて、塵芥問題の一層複雜を告

ぐる折柄、最も無策の方法なると同時に、原始的な處理法である。

第二は　化學的に依る處分と利用方法である。

即ち變形的處分方法の一つであつて、斯の方法は、例へば、藁類を製紙原料に供し、集積中の醱酵を利用して、其中より酒精を採取する乾溜法の如き、或は其中より硝石を回收し、又は、油脂を回收して、其殘物を肥料に供する還元法の如きである。

第三は　斯の法は、今一般に行はるゝ方法であつて、塵芥處分としては、先づ第一に考想せられる自然な方法である。大阪市は、現に、斯の方法を採つてゐるが、問題は、單に、燒却による容積の減少、といふような單純なものでなく、年々人口の膨脹其他の事情と共に產出量を增せる塵芥を燒却するに方りては、燒却能率と其裝置に關する經濟問題如何といふ事に歸する。そして、同時に、燒却によつて、僅かに殘灰の化學的成分を利用するか、又は殘灰を適當な場所に投棄する如き單純な方法よりも、今一段と、それより何か有要物を抽出する事即ちモ少し經濟的處理方法を要しまいか、といふ事が問題と成る。記者は斯の意味に於て、塵芥の合成物及ひ化學的成分を識る爲、左に二三の表を掲げよう。

第十六表　大阪市塵芥撰別表

（大正八年八月七日以降調査）

月日	撰別分類	第一類 紙、藁、綿布、木片竹片等		第二類 魚類殘骸、革類、海草類、獸骨類		第三類 硝子、陶器、金屬類、貝殼類等		第四類 土、砂、石塊		第五類		各類總重量	方面	備考
		重量貫	%	重量貫	%	重量貫	%	重量貫	%	重量貫	%			
八	七	八四・三	四四・六	一一・六	六・一	四・一	二・八	一一・〇	五・八	七八・五	四一・五	一八九・五	綿屋町筋の濱	
八		九三・一	三六・五	三二・三	一二・七	一一・九	四・七	一・〇	〇・四	一二六・五	四五・七	二五四・八	南炭屋町	
九		九〇・四	五〇・四	九・五	五・三	八・五	四・五	二・〇	一・一	五七・七	三二・八	一七九・一	久左衛門の濱	
一〇		一三一・六	五六・五	一三・七	五・九	一一・九	五・一	一・一	〇・五	八〇・七	三四・六	二三三・〇	塩町の濱	
一一		八六・六	四二・〇	五七・四	二八・〇	一一・〇	五・四	一・六	〇・八	四八・九	二三・八	二〇五・五	井池の濱	
一二		一五〇・三	四九・五	—	—	—	—	—	—	—	—	三〇三・九	天滿橋北詰	
一三		五六・六	三〇・二	—	—	—	—	—	—	—	—	一八七・三	入堀橋東詰	
一四		六一・四	三四・七	一九・三	一〇・九	—	—	—	—	—	—	一七六・八	新川大倉橋	
平均		—	四三・一	—	一一・五	—	四・〇	—	二・八	—	三五・七	—	周防町	一、七二九、七
九	一二	四八・六	四五・五	一七・五	一七・六	二・五	二・四	〇・五	〇・五	三五・一	三四・四	一〇二・二	鹽町	
一三		七七・一	四八・一	二〇・二	一二・六	五・二	三・二	〇・三	〇・二	五七・六	三五・九	一六〇・四	三番町	
一四		八三・三	五七・二	一三・七	八・七	四・〇	二・七	〇・四	〇・三	四五・二	三一・一	一四五・六	六番町	
一五		九九・八	五三・二	一五・〇	八・〇	七・二	三・八	一・〇	〇・五	六四・二	三四・二	一八七・七	難波、木津	

一六	九五●四	五五●一	二二●二	一二●八	八●三	四●八	〇●八	〇●五	四六●六	二六●八	一七三●三
一七	八五●四	五一●七	三一●二	一九●二	三●六	二●二	〇●四	〇●三	四一●六	二五●六	一六一●二
一八	九四●二	四四●四	一四●二	六●七	七●一	三●四	〇●五	〇●二	九六●五	四五●三	二一二●一
一九	七三●七五	三九●五	—	—	—	—	—	—	—	—	一八六●八
二〇	七四●四	四三●四	—	—	—	—	—	—	—	—	一七五●一
二一	五八●一五	二九●二五	—	—	—	—	—	—	—	—	一九二●八
平均	—	四六●八	—	一二●二	—	三●二	—	〇●四	—	三三●三	—
九二三	六二●一	三四●六	一三●九	七●九	五●七	三●二	〇●五	〇●三	九五●七	五四●〇	一七七●〇
二三	六四●九	三三●八	二〇●六	一〇●七	七●四	三●九	一●六	〇●八	九七●五	五〇●八	一九二●〇
二五	六一●七	三五●八	二八●二	二二●二	五●八	三●四	〇●七	〇●四	六五●八	三八●二	一七二●二
二六	六四●二	三一●二	一四●〇	六●八	四●一	二●〇	〇●七	一●三	二三●三	五九●七	二〇六●三
二七	四八●七	三一●〇	一三●三	八●四	二●九	一●八	二●九	一●八	八九●八	五七●〇	一五七●六
二八	七一●二	三八●〇	九●〇	四●八	三●二	一●七	二●〇	〇●一	一〇二●二	五四●七	一八七●六
二九	七一●一	三六●五	一六●一	八●四	二●九	一●一	一●〇	〇●五	一〇三●八	五二●五	一九四●九
三〇	三四●〇	二六●八	—	—	—	—	—	—	—	—	二二六●八
三一	五八●五	三五●八	—	—	—	—	—	—	—	—	一六三●二
二	四九●四	三五●〇	—	—	—	—	—	—	—	—	一四一●〇
平均	—	三三●九	—	九●九	—	二●四	—	〇●七	—	五三●三	—

五百井橋

西道頓堀深見橋

入堀橋

安土町西横堀

久寶寺町

瓦屋町、一番町

九之助橋

道修町、西横堀

塩町西横堀

深里橋

汐見橋

北久寶寺町

東横堀、道修町

玉江橋

百間堀

九之助橋

道修町、西横堀

第十七表　大阪市塵芥撰別表　（大正八年十月以降調査）

月日	撰別分類 第一類 紙、藁、綿布、木、竹、等 重量	%	第二類 魚類、獣骨、革類、海草類、貝殻類等 重量	%	第三類 硝子、陶器、金屬類土、砂、石塊 重量	%	第四類 重量	%	第五類 重量	%	各類總重量	方面備考
一〇	一六	八一●三 瓩	三八●〇	一六●八 瓩	七●九	六●六 瓩	三●一	〇●六 瓩	〇●三	一〇八●七 瓩	五〇●七	二一四●〇 瓩	深見橋	晴
一八	八二●九	四一●九	二一●五	一〇●九	五●五	二●八	二●九	一●四	八五●〇	四三●〇		一九七●八	鹽町	晴
一九	五四●五	二五●五	一〇●五	四●九	四●八	二●二	二●二	一●〇	一四二●三	六六●四		二一四●三	汐見橋	晴
二〇	六八●八	三三●四	一三●七	六●二	二●七	一●三	一●〇	〇●五	一三一●二	五八●六		二〇六●四	百間堀	晴
二一	七三●一	四一●五	一五●九	九●〇	四●〇	二●三	三●六	二●一	七九●二	四五●一		一七五●八	北久寶寺町	晴
二二	六六●一	三二●四	一九●二	九●四	三●九	一●九	一●九	〇●九	一一三●七	五五●四		二〇三●八	道修町東横堀	晴後曇
二三	六五●八	三五●七	二七●四	一四●八	四●一	二●二	一●七	〇●九	八五●四	四六●四		一八四●四	玉江橋	曇
二四	四九●九	二三●〇	—	—	—	—	—	—	—	—		二一七●四	九之助橋	曇り但し少雨
二五	四〇●九	二七●四	—	—	—	—	—	—	—	—		一四九●五	道修町西横堀	晴
二六	四〇●九	二一●四	—	—	—	—	—	—	—	—		一八八●一	入堀橋	晴
平均	一三五●五		一九●〇		一二●四		一●〇		一五一●一		—			

第二十八表　米國ワシントン市に於て採集せる厨芥物の化學的成分（一九一五年調査）

採集日	水分	灰分	脂肪	加里（K_2O）	燐酸（P_2O_5）	窒素（N）	可燃性物質
一月十三日	七五・三五	三・六一	五・一〇	〇・二九	〇・七三	〇・六一	二一・〇三
二月十一日	七四・一九	三・六七	五・四〇	〇・二九	〇・五八	〇・七六	二三・一四
三月十三日	六九・〇四	三・〇七一	七・四〇	〇・二二	〇・三七	〇・七九	二七・二四
四月二十二日	七二・七二	三・九五	五・七五	〇・三二	〇・四六	〇・八二	二四・三三
五月二十二日	七二・七七	四・一三	五・七六	〇・三五	〇・五〇	〇・八五	三一・一〇
六月二十一日	七四・二一	五・一〇	四・〇〇	〇・二九	〇・二七	〇・五四	二一・五二
七月二十二日	八〇・八八	二・四三	二・八二	〇・二六	〇・二三	〇・四四	一六・六五
八月二十一日	七七・五八	三・〇九	四・一六	〇・二一	〇・三七	〇・五九	一九・三三
九月十四日	七一・八〇	四・〇六	四・九三	〇・二八	〇・二六	〇・六九	二四・一三
十月十四日	七三・七五	三・一八	四・六六	〇・二三	〇・一八	〇・七〇	二三・八六
十一月十一日	七三・七五	三・四二	四・八二	〇・二六	〇・四五	〇・六九	二三・八五
十二月十五日	七〇・四九	三・五二	五・三五	〇・二七	〇・四四	〇・七四	二五・九九
平均	七三・七八	三・六〇	五・三二	〇・二七	〇・四三	〇・七〇	二六・三三
數	—	一三・七七%	一九・九七%	一・〇五%	一・六二%	二・六九%	八六・三五%
數	—	—	四・八五	〇・三三	〇・五九	〇・九四	—
數	—	—	四・〇〇	〇・三〇	〇・二四	〇・六四	—

乾物換算數
ニューヨーク市
クリーブランド市

第二十九表　米國都市塵芥組成例（一九〇七年調査）

都市名	厨芥%	屑物%	灰%	%	金屬其他%
シアトル	二四・二	二一・四	四一・七		二・七
ミルウォキー	四一・三	四六・〇	—		二・七
クリフトン	二三・八	二三・〇	二七・八細灰		二・九
ポストン	二三・五	二三・八	一五・五石炭及爐屑	七・二	六六・五

第三十表　米國クリフトンに於ける混合塵芥一封度組成並に發熱量

細燼	水分	四●一	厨芥物	水分	二●七	硝子金屬其他灰燼	水分	〇●〇	石炭及燼屑	水分	二●〇
	揮發性可燃物質	一●一		揮發性可燃物質	五●七		揮發性可燃物質	〇●〇		揮發性可燃物質	〇●五
	炭素	五●九		炭素	一●四		炭素	〇●〇		炭素	一●二
	灰	二〇●〇		灰	一●〇		灰	七●五		灰	三●七
	發熱量(B.T.U.)	八七●五		發熱量(B.T.U.)	六一六		發熱量(B.T.U.)	〇		發熱量(B.T.U.)	一七七九
灰滓屑	水分	〇●一	屑	水分	〇●〇	合計	水分	〇●〇			
	揮發性可燃物質	〇●〇		揮發性可燃物質	〇●〇		揮發性可燃物質	〇●〇			
	炭素	〇●三		炭素	〇●〇		炭素	〇●〇			
	灰	一●七		灰	一●〇		灰	七●五			
	發熱量(B.T.U.)	四〇		發熱量(B.T.U.)	一四●五		發熱量(B.T.U.)	〇			
					二〇●四						
					三五●〇						
					四一四一						

而して、大阪市に於ける塵芥の化學的有價物に就いては、未だ其全體としての價値を識り得ないが、庖厨より生ずる芥物のそれに就いては、多少の材料を有するが故、左に、米國のそれと比較したものを掲ぐる。

	米國厨芥平均	大阪市厨芥平均
水分	七一・〇〇	六五・〇〇
粗脂肪	四・五四	一・三
蛋白	四・二四	五・〇〇
灰分	二・一七	一六・三（多量の砂を含む）
纖維		三・三〇
蔗糖		〇・七七
轉化糖		〇・五〇
澱粉及糊精等		一〇・四六
酒精		〇・三三
醋酸		〇・一七（酸を總て醋酸と假定して）
精油		——
エーテル		〇・一一
		〇・四三（澱粉）
		——
		——
		——

更に、參考として、大阪市に於ける塵芥乾溜によつて得た成績を左に掲ぐる。

第四十四表　（1）　大阪市塵芥乾溜成績表

屑物類	屑物類	塵芥	塵芥	芥塵芥
月日	一〇月一五日	一〇月二二日	一〇月二九日	一一月五日	一二月二日
實驗場所	工業研究所	工業研究所	工業研究所	工業研究所	工業研究所
試料採取量	五〇〇匁	五〇〇匁	三〇〇匁	三四〇匁	三七〇匁
乾餾溫度	二四五°C)三八〇°C)	二三五°C)三四〇°C)	二五八°C)三九〇°C)	二四五°C)三四〇°C)	二八二°C)二九五°C)
乾餾時間	六時間	六・五時間	六・五時間	八時間	一〇時間
燃料（種類及使用量／試料一〇〇匁に對する使用量）	瓦斯	瓦斯	瓦斯	瓦斯	瓦斯
	—	—	—	—	—

瓦斯	發生容量	〇・四六六立方呎	—	—	—	三・五立方呎	—	—	—
	試料一〇〇匁に對する量	〇・〇九七立方呎	—	—	—	〇・〇三立方呎	—	—	—
	發熱量	二五一B.H.U.分析による	—	—	—	—	二一九分析による	三一九分析による	
タール	餾出量	三四・九三匁	三八匁	三〇・七匁	二〇匁	二〇匁	一・二匁		
	試料一〇〇匁に對する量	六・九匁	七・六匁	一〇・三匁	五・八匁	三・〇三匁			
殘餾炭	成生量	二三〇匁	二四二匁	—	—	一四〇匁	一八〇匁		
	試料一〇〇匁に對する量	四六・四匁	四八・四匁	—	—	四一・八匁	四八・六五匁		
	發熱量		五九五〇				七九二〇		
餾出液	餾出容量	六五〇立方糎	五五五立方糎	三五五立方糎	四九八立方糎		四三八立方糎		
	同上比重	一・〇二八	一・〇三	一・〇三	四一五%タールを含む一・〇二六三		一・〇二五二		
	試料一〇〇匁に對する量三五・三匁		—	三二・一九匁	三九・六三匁		三一・九四匁		
メチールアルコール	粗製メチールアルコール	三一・五立方糎	四五立方糎	四五立方糎	七九立方糎		四六立方糎		
	同上比重	〇・九七八五	〇・九七六	〇・九七八	〇・九四四立方糎		〇・九八八五		
	同上メチールアルコール含有容量(%)	一三・六七%	一三・六七%	一三・六七%	三一・六九%		六・九%		
	純メチールアルコールとして換算量	四・一三瓦	六・〇一瓦	六・〇二瓦	八・五六瓦		三・一八匁		
	同上試料一〇〇匁に對する量	〇・八二瓦	一・二〇瓦	二・〇〇瓦	二・五三瓦		〇・八六瓦		
醋酸	粗製醋酸回收容量	三八五立方糎	七二・五立方糎	七二五立方糎	六八立方糎		三八・五立方糎		
	同上一〇〇立方糎中の醋酸含有容量	三・二八瓦	一一・七瓦	一一・七瓦	一二・五瓦		一二・〇瓦		
	純醋酸として換算量	一一・三三瓦	八・五三瓦	八・五三瓦	八・二瓦		八・二瓦		
	同上試料一〇〇匁に對する量	二・四六八瓦	二・四瓦	二・八四瓦	二・五瓦		二・三瓦		

斯くの如く、元還方法によつて獲られる化學的有價物を顧慮せず、纔に殘灰の化學的價値をのみ見て、單に燒却方法を採ることは、勿論完全なる處理方法とは云へない。大阪市は、現在燒却法によつてゐるものゝ、理想的處理方法に就いて、種々に調査研究を重ねてゐるようである。殊に、依

然、燒却處分法を採るにしても、例へば、其熱を利用して發電を爲すが如き、或は、煙を利用して其中より化學的或るものを採取せむとするが如き其他、燒却後の灰滓利用を最も有効ならしむる方法の如き、今尙は懸案中であつて、下水道と共に大阪都市の衛生的施設として、隨分重大な問題である。終りに、參考として、塵芥處理方法に關し世界主要國特許權を有せるものを左に掲げよう。

塵芥燒却處分に關する我國特許一覽

塵芥燒却裝置
塵芥燒却竈
塵芥燒却竈
塵芥燒却爐
塵　上
塵芥煉燒窯
塵芥焚燒爐
塵芥燻燒竈

塵芥燒却爐に關する英國特許一覽

塵芥の燒却法並に燒却爐の改良
塵芥を處理する燒却爐より蒸氣を取る裝置
塵芥燒却爐
瓦斯發生機又は塵芥燒却器
塵芥燒却爐の改良
塵芥處分の爐に關する改良
塵芥處分の爐に關する改良
塵芥燒却爐の改良
同　上
塵芥燒却爐
都市の塵芥燒却
塵芥及塵芥の如きものを燒却する爐の改良
都市の塵芥を處分する爐の改良
家庭塵芥を處分して可燃瓦斯即燃料瓦斯を發生せしむる方法並に裝置に關する改良
塵芥を燃燒せしむる方法及裝置の改良
都市の下水及塵芥處分裝置の改良
塵芥燒却爐
同　上
塵芥燒却機其他の爐に於ける堆裝々置
都市塵芥燃燒裝置の改良
塵芥燒却爐の改良
燒却爐又は燒却暖爐の改良
塵芥及塵芥の如きもの、燒却爐の改良
塵市塵芥の還元及殺菌を行ふ爐
塵芥燒却裝置及之に關する改良
塵芥並に下水より肥料を製造する裝置に關する改良

塵芥燒却爐又は塵芥燒却爐の如きものより得たる蒸氣の取扱方法
並に其裝置の改良
家庭塵芥の處分に於ける改良
厨芥處分に對する浸漬器及類似品に關する改良
灰溜中の塵芥より人造燃料を製造する方法
厨芥及其類似物より揮發性溶劑を以て脂肪を抽出する方法の改良
塵芥を處分し其有用成分を回收する方法及設備
諸種の塵芥より肥料を製造する方法
家庭及市街の塵芥處分方法の改良
可熔性塵芥より鋪石及建築用プロックの製造法
下水及之に類似せる有機性廢棄物の處分方法の改良
動物の屍體又は魚類を處分し有價物を製造する方法並に裝置の改良
塵芥を以てする肥料製造の改良
有機性廢棄物より脂肪アムモニア等を抽出する方法
塵芥纖維物及其類の處分法の改良

塵芥燒却に關する米國特許一覽

塵芥燃燒場
塵芥燒却裝置
塵芥燒却爐
同　上
塵芥燃燒法
塵芥燒却爐
塵芥物質燃燒裝置
厨芥燃燒法と其裝置
塵芥燃燒爐

燒却法に依らざる塵芥處分に關する米國特許一覽

厨芥より脂肪を抽出する裝置
厨芥よりグリース及油抽出法
塵芥利用法
厨芥物より肥料の製造裝置
厨芥物處分裝置
溝泥と塵芥との分別裝置
厨芥處分法
厨芥利用術
厨芥及溝泥の處分法
厨芥物より酒精の製造法
溝泥塵芥其他此と類似せる物質の處分法
有機性廢棄物質より有價物を製造する裝置
厨芥處分方法
厨芥より酒精を製造する方法並に裝置

塵芥處分に關する佛蘭西特許一覽

厨芥燒却殘滓より人造石を得る方法

可燃物及其屑の瓦斯化と下肥處分に對する瓦斯發生器
塵芥を處理して肥料を作り不用物を動力發生に應用する裝置
汚物燒却法に就て
倉庫の塵芥下水の汚物其他四種の塵芥を紙又は板紙の製造に應用する法
蒸氣發生の目的に於ての塵芥類燒却方法及裝置並に此種裝置中に失はるゝ瓦斯の利用方法と裝置
泥及塵芥を燒却又は乾餾したる殘滓とセメントとを以て石灰を製造する方法
都市塵芥燒却處分に對する燃燒瓦斯發生器
塵芥燒却法

塵芥處分に關する獨逸特許一覽

道路汚物及家庭塵芥燒却爐
塵芥燒却爐
道路汚物及家庭塵芥燒却爐
同　上
同　上
塵芥亜に其類似物燒却爐
塵芥燒却爐の火床裝置
汚物燒却爐
塵芥燒却爐
塵芥亜に其類似物燒却爐
汚物消毒處分法
塵芥燒却爐
塵芥燒却爐より發生する瓦斯をして無害ならしむる方法
塵芥燒却爐
同　上
塵芥其他汚物の燒却爐
通飾したる塵芥と紙糊を以て美術的人造石製造方法
粘土、砂、石　鑛滓及塵芥灰等に少量の粘着劑を使用して瓦斯其他類似の物を製造する方法
人造石製造に對し塵芥溶滓より細粒を得る方法
灰滓鎔融爐を兼有する塵芥燒却爐に關する特許第二一四七九九號の追加
家庭塵芥及汚物の利用
同　上
塵芥燒却爐
同　上
塵芥燒却爐の熔滓を冷固せしめて熔滓煉瓦を得る裝置を有する灰出機械
油又は瓦斯を以てする補助焚火を有する瀘罐裝置附塵芥燒却爐
塵芥燒却爐
塵芥燒却爐より發生する瓦斯を蒸氣發生に使用する方法
塵芥燒却爐
住宅並に商業區の塵芥を疎なるものと細微なるものとに分別して利用する方法

多量の褐炭又は褐炭製練炭の灰を含有せる塵芥を處分して建築材料殊に細工用輕石を製造する方法

塵芥燒却爐投入方法

家庭塵芥を圓壔形回轉篩を通して纖維質可燃物と鑛物質不燃物とを機械的に分別する方法

塵芥燒却方法

各部回轉裝置を有する塵芥燒却爐火床

塵芥中の可燃部分を除き其殘滓を分別して美術的石材製造方法

槽形火床を有する塵芥燒却爐

□

□

□

□

□

塵芥及其類似物燒却爐

塵芥熔滓の粉碎

塵芥燒却爐又は其類似物の灰出方法

特に塵芥燒却爐に適する隻杆灰出裝置

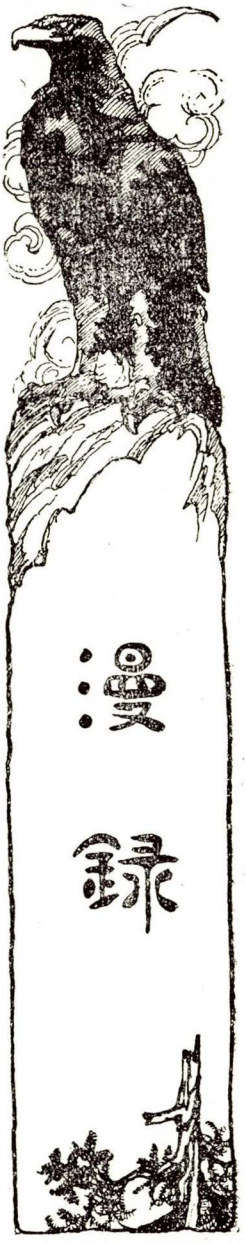
同上　追加

塵芥燒却爐より發生する瓦斯を蒸氣發生に適用する事

回轉爐格を以て供給する單一爐室の塵芥燒却爐焚火法

住宅地並に商業地區の塵芥利用方法

塵芥燒却爐々格



借事務所に就いて

會員　建築士　津田鑿

住宅と別にして都市の繁榮なる場所に能率を增進させる爲め萬事に都合の好い働く場所を設け相當の賃料で貸すものを貸事務所と謂はれる、此種の建築に對する要求は日一日と盛んになつて來る貸借人双方の便利である事が認められ居るのは周知の事である。自分は漸く一室之れも僅か五坪を借りて生活して居るので借事務所黨の一人である處から少し感じた點を述べて見る事にする。

借事務所は何處が一番進歩して居るかと云へば勿論米國であらう、尤も米國でも處によりて非常な相違がある、又最近のものと古いものとは設備の點に於て優劣を免れない、紐育のイクヰタブルビルジングの如きは先づ設備に於ては昨今最上のものであらう、且つ地價の最高の場所でよくあれ丈けの敷地を得られた事を驚く次第である。

借事務所の性質から云へば凡てが便利でなくてはならぬ、紐育の大きな此種の建物には大抵交通機關と大關係を有つて居る卽ち地下鐵道が建物の下

を恰度通行して舘内から直ちに使用が出來る、又ステーションの建物二階以上を貸事務所に取つて汽車の昇降は元より地下鐵道も同じ建物の中を通行する、飲食、雜貨、理髮、書籍、煙草其他一と通りの便利なものが備はつて居る。

或る建物は裏に出ると高架電車の乘降場と連絡が附いて居る、然かも其電車へは單に其建物の人許りでなく一般の人も建物の中を通り拔けして差支へない樣に出來て居る、之れが不便とは誰も言ふ人はなからう。

限られた敷地の爲め紐育の商業地域は自然高層建築とせねばならぬ、そうして殆んど其總てを貸事務所であると言つても差支へはあるまい。一階に於て必ず起る混雜を防ぐ爲めには入口の附近は餘裕ある面積を取らねばならず尙ほ大抵の建物が一區劃とすれば四方に出入口が設けられる爲め其交叉する處は非常な人込みで實際萬〻云ふ人が其建物の中に執務して居る舘では朝夕の混雜は想像以上でエレベーターの位置賣店の樣子は能く研究されて居る之れが市俄古になると非常に緩つたりした平面を持つて入口の中に惜し氣なく大きなホールを取り二階迄打ち拔いて周圍に內部と外面に商店を共通に使用出來るように配置して大階段は各所にエレベーターは幾十となく運轉して居る、此の緩つたりした感じは紐育では到底味ふ事は出來ない何となく狹つくるしい、其れは無理もない事で限られたる敷地の爲め贅澤が出來ない次第である。

そうして建物が新しいのと、建築材料、氣候との關係で米國のものは明るい。倫敦の中點附近にある此種のものも甚だ盛んなもので澤山の室數を持つたもの階數も相當に設備も相應に完備して居るがどうも暗い感じがする、落付いて事務を執るにはよさそうであるが一寸見は米國の方が派手やかである。巴里其他各地にも此種のものが勿論澤山あるが到底米國の設備には及ぶ可くもない。

設備として貸事務であるから別に之れと云ふ程のものはなさそうであるが却々そうでない、新しい良い建物が段々出來て來るから經營者はいつも頭痛の種で大入口廊下は廣く分り易い樣に番號を打

たねばならず、非常口の位置、暖房裝置、電燈設備、掃除、塵芥捨場、便所、却々に工夫が必要である、室内に手洗を取り付け夏は飲料に特別冷水を噴出さして居る、米國の貸事務室もある窓には換氣の設備も必要となる室の粧飾は全くないが大入口、廊下は相當に飾られて居る。

倫敦の或る貸事務所で便所化粧室を屋上に配置したのがある、勿論往復はエレベーターを使用するから何でもないが之れは餘程研究した結果であらう。

能率を上げる爲め事務も凡て規律正しく行はれ米國では自働通信器はこつ〳〵と活字を打出して世界の重大事件を時々刻々紙に印刷して居る、電話をかければ電報は取りに來る、凡てが此調子で執務して居る人も無暗に煙草をふかして居る譯にはいかぬ、次から次と仕事は機械的に運ばれて行く實に氣持がよい、そうして忙しい割合に非常に靜粛である、建物の掃除は行き屆き氣持ちよく美しい事は羨ましい限りである。

自分の今居る附近の借事務所の樣子を一通り述べる昨今有利な事業と資本主が睨んだか到る處に此種の建物が現はれる尙は又建築中の物も澤山ある。どれが一層完全した設備と氣持のよい事務所が出來るか是れ迄の分を一と通り眺めると勿論貸料も安からうが甚だ不潔である折角出來た時は綺麗な室でも使用する人が汚くして仕舞ふ室内で食事をする習慣の爲め自然或る處では炊事場に近いものか又は流し場も必要となる。防火構造になつて居ても特別一號などの金庫を持ち込む。折角の西洋便所があつても腰かける事を知らない人々には上つて用を足すには閉口する。不用の電燈はかん〳〵と日が射し込んで居つても誰も消す事を知らない、窓から物を投げる事をどうしても止めない、ひどい輩は靑痰を吐きかけられる心配がある到底上を見て歩いては居られぬ。

公共的の設備がしてあつても、假りに室數でも多く借りて居る所は自然勝手な事をする一例を引くと共通たる可き廊下に無暗に道具を出す、廊下の入口に小窓を明け受付とする爲め其附近は甚だ歩くに差支がある月末の支拂日には一層混雜して吾

々の迷惑此の上なしである、我國特有の草履下駄と云ふ音のするもので小使が橋の上でも渡つて居る積りで調子を揃へて調練して歩るく、押賣の商人は受付の隙を見て建物の内を彷徨き廻る、廢兵は來る、富山の藥賣、麵麭に牛乳、サンドイツチ人蔘賣、いやはや實に賑かな事である、加ふるに入口の唐戸開閉に大きな音を平氣でさせる外開き戸は廊下に開き放し通行人の迷惑はお構いなし之れでは到底落付いて事務が執れる理由がない、歐米風に折角出來た貸事務所も借り手が之れでは住宅と事務所を分ける必要は更にない、情ない次第である、一部の外人は小使部屋の魚を焼く臭氣や洋食店の惡臭を上層に達せぬ樣八釜敷い小言を云はれると云ふ事を聽くが實際之れは不快なもので取締れば出來る事である。

借事務所の大入口の感じは大切である、一角を取つて居る立派な建物が玄關と左右と連絡が附て居らぬ爲め目的の場所を見出すに大骨折りをせねばならぬ、前に述べた通り尋ぬ可き室を早く見出す事が出來る設備が最も大切である其れには入口の配置廊下、階段、エレベーターの位置が關係する取締はなくても用を辨ずるやうに設備すべきである分り易いのが第一の要點である、そうして慾を言へば入口は充分廣く取りたい事である、そうして床の高さは道路と大差なく一段位に進み入らるべきである。

玄關の入口には普通二枚開きの自由蝶番の戸が附いて居る之れは中央に方立を建てゝ出口と入口を仕切る可きで混雜する中に危險である、若し面積があれば少しく距離を置いて區分すれば體裁より實用向になる事であらう。

ノートルの種類は壁の内に入れて蓋をして體裁をよくしたいラジエーターも成る可く其通りである。

晝飯の店は可なり澤山出來て居るが未だ吾々の生活に適當なる店が見當らない、無暗に上等と下等はあるが丁度中等がない、之れは無理な注文かも知れぬが出來そうなものである。

事務室を殆んど倉庫同樣に使用して居るのは考へものである、幾ら商品とは云つても過重は建物の

爲めに考へもので萬一の事があれば一室では濟まない周圍の人が迷悉を感ずる。

非常設備が甚だ缺けて居る市俄古の建物は裏側に鐵階段が五月蠅過ぎる程澤山に取り付けられて居る二階以上の建物では必ず相當の坪數に應して非常梯子を取り付ける事を條令で嚴重に取り締る可き事である、例令それが防火構造であつても地震又は其他の事故に多數の人が到底僅かなエレベーター又は階段から外に出られるものでない、勿論此の梯子の個所は非常の場合何人にても戸を開いて目的を達する設備の必要が肝要である。

履物の問題が建物には付き廻り七分通りは靴の人二分は下駄の人一分は草履又は土足の人之れには殆んど閉口する事で折角油で拭き込んだ敷物はめちや〳〵に汚され甚だ面白くない。

舘内に飲食店があるのは表面都合がよさそうであるが設備と位置の惡しき爲めに不潔であり且つ價格が割合に安からず却つて不便である爲め自然外から見苦しきおかもちを携へた安辨當屋が入り込む事になる甚だ不快である。

以上の外に尙ほ多少の不滿はあつても日々の事務を執つて先づ見ると一寸具合が良い、向ふ三軒兩隣の人に挨拶をしてもせぬでも別に惡口を言はれる心配もなく未だ一回も言葉をかはさぬ隣の人もある、自分勝手な時に鍵で開けて室に入り歸りには締めて來ればそれで充分で、未だ泥棒のお見舞を受けた事もない實に暢氣である、唯時々閉口するのは前の事務室の會計が生活難らしい、皺枯れ聲を張り上げて算盤を彈くのを聽くと、すまじきものは宮仕へだと心窃かに微笑む、又或る時は之れが睡む氣醒しになる事もある、四時に近づくと婦人連の歸り仕度で化粧塗の混雜が始まり書類の運搬は烈しくなり、中庭の自働車はエンジンの音を立て始め舘内の空氣は自然に其日の終りを告げるやうな心持になるエレベーターボーイは急に忙しくベルの烈しく鳴ると共に段々人を外に運び出して居る、こうして同じ事を日一日と繰り返す借事務所も亦時代の文化に伴ふ一つの新しき産物である。

獻堂式所感

バジリカに始まつた會堂の建築其處は崇高なる神の教を受くる聖堂の献堂式時は大正十年十一月六日場所は大森日本基督教會に於て。

宗教と建築其關係を喋々する迄もなく佛教に於ける寺院基督教に於ける會堂、建築士として經驗の淺き自分に其職責を盡す機會を與へられたる事を深く感謝せねばならぬ。

會堂は天に向つて高く聳えて居る十字架の示すが如く佛寺と構造格好共に相違がある一つは在天の神に禱を捧ぐ可く一つは座して釋尊の法の道を聽く可く、重き屋根は殆んど地に軒先を垂れなんとして居る。自然に顯はるゝ建築の樣式よ、

宗教と文化も亦重大なる關係を吾人に思はしむ…旅する人の眼に先づ始めに見出すのは其國の都市に於て特長ある宗教建築である。そうして、それに依りて文化の程度も略ぼ推定し得らるゝであらう京都や奈良の町は寺院の多い佛徒の隨喜の涙を絞る處である。

回々教のモスク是れ亦壯麗な特種の塔を有する建物である宗徒は決して他宗のものを近けぬ最も神聖な場所として信者は大理石床の上に土下座禮拜して居る。

歐洲各地如何なる寒村でも民家あれば其處に會堂あるを見受ける尖形の屋根一目神の道を說く人あるを知らしむる、伊太利に於て一層多い昔維馬の文化は如何に隆盛であつたか旅人に回想の念を起さしむる且つ宗教に關したる建築の遺物又決して僅少でない事を證明して居る。

歐米の學校には會堂が附屬されて居る處が多い甚だ奥床しい感じがする。

佛間神殿と同樣に邸宅内にも會堂に宛てた一室が設けられてあるのを見る事が出來る繰返す迄もなく世界の文化を導く此の意味多き會堂の落成例令其れが小規模であるとしても設立する迄の當事者の心勞は蓋し甚大であらう幸に多くの信者の衷心から聖き献金と關係者の熱心なる盡力との賜である自分は設計を擔當して始めて會堂建築を學んで大なる責任を感じた幸に無事盛大なる式を擧げ得られたる事を神に感謝する次第である。

㊀㊁東京『門』行脚（一）

——名士邸の門と玄關——

梅谷孫吾

近ひ評判になつてゐる　松平賴壽伯の門

嘆美の聲を洩らさせる門行脚の第一筆の大門

建築專門家の間では如何であるか知らないが、華族社會の氣まぐれな人達やら、我々仲間のこんな方面には全然門外漢な者達の間にもよく何かにつけ噂に上るのは松平賴壽伯爵の本邸の新しい門の話である。新しいと云つても出來上つたのは去年のことで——それ以來いまだに噂に上る事を以て見ても、先づその門を此東京門行脚の門出の第一に書くべき價値は充分にあらうと思ふ。

神田水道橋停留場の乘換場で夕方などはごつた返す處だが、本郷方面へ向つて右側、お茶の水から流れて來る溪谷に沿うて電車道を狹んで紺土の土塀で圍んで其左端から一寸斜に門で、また袖につゞいて土塀は左手へ走つてく。即ち眞四角な邸の東南の隅を三角形に切り取つて評判の門を建てたといふ風になつてゐるのである。始めこの邸の門はほんの詰らぬもので、無造作な切り石かなんかで出來てゐたやうに記憶する、變れば變るものである、電車の中からこれを見て『ほう——』といふやうな嘆美の聲を洩らす人をよく私は見る事がある。

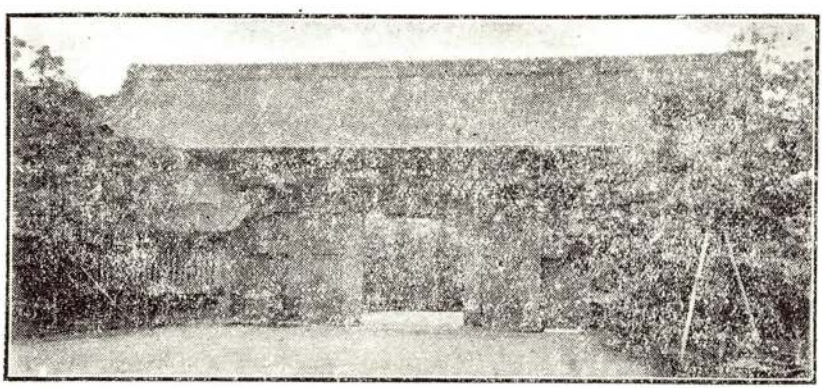
門もまた其家風や格式や嚴格味の象徵として

門は純日本風で總檜造りだが、あれなら二萬圓はかゝる、否一萬圓で出來るといふやうなことも

また物好きな人達の話題に上るが或る人の話で一萬圓は出ぬ迄も七千圓以上は確かにかゝつてゐるといふことを聞いた。門一つに七千圓、考へて見れば贅澤な話だが、其處に松平伯のお大名らしい氣分が浮ばうといふものである。

『徒然草』の兼好流に云はせれば門や垣根なんてもの人間の淺ましさを見せられるやうだといふが人間の家庭は入口の戸を開くと大體の見當がついて主人の性格といふやうなものも薄んやりとでも想像されるやうに、門もまた其家の風や格式や嚴格味を象徴するものとして見れば、これもまた客間へ金屏風を置き床に秘藏の軸を掛けると同じ意味で、決して『どうでもよい』とは云つてゐられぬ洋風滔々として神國を襲ひ、人は叫ぶに階級打破を以つてする世の中に、德川の連枝として格式高い松平家が、新たに巨金を投じて純日本式の堂々たる門を建てるそこに人間界の面白味があるのではないか。

✻ 間口六間奥行三間二寸角の荒格子に二尺角柱



門の間口約六間奥行三間、玄關迄周圍一帶砂利を敷詰めて、いまだに新しい木の香が匂ふ。門の兩端には二寸角の荒角子の門部屋があり中には新しい障子の白い紙が見えて廣々とした部屋がある右側のものは洋風の卓があつたりして伯松平家の事務室といふ樣子、左手の處には誰か住んでゐるやうである。中央に十尺位であらふ二尺角の門柱から横六尺の

扉が一枚板に素晴らしさを見せて閉ぢられるやうになる、その兩側に小さい門、昔なら侍くゞりとでもいふのであらう。どれもこれも一枚の檜板、屋根物から下十尺以上もある堂々たる有樣は、一寸屋敷の門といふよりは城の門といふ趣が強い。

今の華族會館の門、即ち舊島津邸の裝束屋敷の門よりは、氣品に於てはどうか知らぬが、その宏莊な點に於て、堂々峨々たる點に於て、遙かに一頭地を拔いてゐる。帝國大學の赤門は堂々味に於ては或はこれより以上ではあらうが寺の山門の趣があり、他の德川一門諸華族邸、各々特異の門を持つが、何等裝飾なく、朱黑一點の漆も用ゐず、單純にしかも堂々に、しかも峨々に、しかも何等人間の住む邸の門として風趣なく人間味無き點、確かに他の追隨を許さゝるものであると思ふ。蓋し邸の門にあらずして城門の觀ありとは我ながら適評である。

✻頭の大きな不調和さが持つて行つた建築威嚴

尺角位の屋根下化粧棰の木口は唐金で張りすゝりと六本首を並べ、その上に細かな瓦を並べた屋根が乘つてゐる、殊に棟の化粧瓦は美事にして堂々たる事、この門の二枚の扉の如くである。門の兩側には各三間許りの袖屏があつて、それから邸を包む、土塀へつゞく。此袖屏迄が門と同時に出來門と同じやうな白木であり形式であるので、門が一層に引立つて堂々としてゐるのである。

殊に此門と共に更に其堂々味を力づけるのは伯爵松平賴壽の名札で、私はかつて赤阪青山一丁目侯爵中山孝麿の大名札を見て吃驚したが、これはまた好一對を通り越してより以上吃驚させられた勿論これは此六間に三間といふ門によつて生れた大名札なのだが、厚さ一寸五分位、長一尺七八寸巾七寸以上は確かにある、二尺角の門柱にぴたりと打つた樣子は、先づ他では餘り見られまい。

此立派な門を電車道の方へ四五間距つて、さて總體的に門全體を見て見ると、妙に押しつけられるやうなのんびりとしない息苦しさを感ずるのは此門が福助式に出來てゐるからである。門の基調と屋根の調子とが調和されてゐない、餘りに屋根

が大き過ぎる、餘りに頭が重すぎる、この爲めに即ち城門を見るやうな感じがするのではあるまいか。

門の兩端の門部屋の調子を全然度外視して、室は室、門柱は柱、屋根は屋根と、ばら〳〵にしてやつてのけた感じがある。如何にも建築上の科學程式では、この門に此屋根あるべきものであるかも知れないが、素人の我々が見てはどうも頭負けがして、堂々に比して權威がない、切角の門を此屋根が大きすぎた爲めに總べて打壞してゐるやうに思はれる。

✻ 此門が堂々峨々として人目を驚かしながらに

すべて邸宅の門といふやうな斯うした建築物の權威は人間味を離れぬ圓熟した調和から生れ出るのではあるまいか。立派な門だ——たゞそれだけでは物足りない、材料は檜の木地物を用ひ、しかも大名風の日本建である、捨てやうとしても捨てうべからざる一種の權威が添ふべきではあるまいか、門外漢の私がこれは建築家の失敗であるとは盲斷しない、がも少しあの調和がとれたらなあ——と泌々感せぬでもなかつた。

不調和は其處に何物かを失ふ。即ち此門が只堂々峨々として人目を驚かし乍ら、當然伴ふべき何等の快感をも與へないのは、この福助式に屋根許りが大きい爲めであり、從つて一見何かこう上から押しつけられるやうな息苦しさを感じさせられるのである。科學は必ずしも物のすべてゞはない此土臺に此屋根、これにはこうと建築上の一定方式内習慣は人間味の風趣を基礎として適宜に斟酌すべきである。此門の如き、只、大きく堂々とやれといふ以外、其處に捨て難き風趣を捨てゝ仕舞つたものであると思ふ。私はそれが日本風の大名門であるが故に痛切に一層これを感じたのである

✻ 宗教山師の處へ來たやうな感じがしてならぬ

洒落な華族仲間が倶樂部邊で茶喫み話に出た處によると、松平伯は此門を造つて失敗したと云つてゐたそうである。それは別段深い意味ではなく造つて見たら餘り大きくて堂々としてゐるので、

今度は本邸が馬鹿に貧弱に見えてならないからだそうだ。御尤な事である、私が先きにも書いた通り城門式な此門には少なくとも小さなお城位な建物か或は天主閣といふやうな城としての條件とする物の附隨した本邸でなくては面白くない筈である。

門を潜ると、ざく〳〵とした砂利で玄關へつゞく。左手は漉を塗つた粗末な板塀、その中にお長屋が見えてゐる、樹も少なし植込みも貧しい、門内は先づ大名といふよりは小旗本位の格式である右手はお茶の水側の土塀の内側、そしてこれに添ふた突當りに玄關車寄せが出てゐる。

前に粗末な門のあつた頃の玄關で、柱なども細そく、萬事、現在の門とは不調和で、松平伯の何者なるかを知らず、門乃至玄關の關係をのみ云て見れば、先づ大本教の玄關構、以前盛んに後藤新平男などの隨喜した巢鴨の神樣の玄關といふ風に宗教山師の處へでも來たやうな感じよりはしないであらう。私は幸にして伯を知るが故に、此本邸も早晩堂々たるものに改築せられるであらふと想像して微笑しながら、山の如き門と、貧しい玄關とを對照して見てゐた。……寫眞參照……

東京には江戸時代から傳つた色々な面白い門が殘つてゐる、私はこれから引續いて現代のもの近代式のもの間に織交ぜて傳説的に餘りに有名なもの外は、出來るだけ行脚してみたいと思つてゐる。殊に專門建築家諸氏にお頼みしたいのは其設計乃至工事せられたものに就て御好意を得たい事であるほんとの素人は自分の造つたものをどんな風に見るだらう、盲蛇におぢず、彼奴の批評もきいてやれと思召す方は、協會の江村氏迄御一報を給りたいのである。

梅谷孫吾

××大阪の外廓を歩して（上）

市の周圍に分ける雲煙過眼
その眼に觸れた諸種の觀察と感想

齋藤憙太郎

某月某日、茶臼山住友男爵邸の門前で、通行中の四輪馬車の轍に觸れて爆彈が破裂したが、間もなく幾日かを經て同男爵家では、あの宏大な茶臼山の莊園を擧げて大阪市に寄附を申出た。爆彈の破裂と莊園の寄附とはそこに何の因緣もないかも知れぬが、併し同莊園は大阪の歷史と重大な關係のある土地でもあり、且つ天王寺公園と隣接した場所であつて、常に市民瞻望の眼をあつめてゐた處であるから、まづ大抵の人はこれと住友家の富とを結びつけて何か因緣がありさうに解釋したがる。けれどもそれは何れでも宜しい、男爵家今回の擧は社會的に頗る機宜を得た措置であつて、大阪市民の最も感謝する處であらうと思はれる。

元和元年五月某日、大阪城陷るの日、德川家康は今のこの住友男茶臼山莊園に本陣を据えた。恰ど今の公園内トラクのある東手の高みあたりである。此日彼は金扇馬連の馬印を白と淺黄を三段に綴き合せた幕の裡に立てさせ、兼松某、水野某は鞘を拂つた薙刀を携へてその後ろを護り、森澤某は無銘正宗の彼の愛刀を納めた黑地に金の紋を散した佩刀を右に捧げ、家康の左側に在つて左の手を大地につき、片膝ついて其處に侍してゐた。兼松と水野は頭形の兜、前者は蟠龍に銀の素劍の前立、後者は金の月星、森澤は兜を背後の高紐に懸け、亂髮を柿色の鉢卷を以てしかと結へてゐる家康は鎧は着ずに赤地の陣羽織を引かけて黑い床

凡に熊の皮を敷せてそれに懸けてゐた。

家康は此日此處で悲喜樣々の出來事を見たり聞いたりして、泣いたり笑つたりした。而してその中で最も彼の老の胸を波立たしめ、悲痛な涙を絞らした事は彼の最も愛顧してゐた譜代重臣の一人たる本多忠朝が、奮戰重傷を被り、氣息唫々として楯の板に乘せられて舁かれて來たことである。忠朝は最早やかなはずと覺るや、俺は大御所に最期のお暇乞をする、息あるうちに舁いてもつて參れと家來に命じた。忠朝の身邊に在つて命を敵に致したものは、名ある者十數名、他は悉く淺手深手を受けぬはない。全身血を被むる者、全身血を被むつた主人忠朝を舁いて家康の前に出た時、家康は大聲を揚げておい〳〵泣いた。但し忠朝の戰死は家康これを爲さしめたもので、是より先忠朝去年冬の陣に城兵と水を挾んで駈引思はしからず家康の前で「何うも河があるために」と辯疏した。家康は「お前は駄目だ、お前の父忠勝が戰をする時には、山にも河にも目をくれた事はない」と云つたので忠朝は一圖に戰死を心がけて此結果を見たのである。

それから家康が飛上つて喜んだことは、彼の娘で豐臣秀賴の室たる朝日姬——天樹院が此日城中から首尾よく救ひ出された事である。初め家康城中にある姬の事を思うて非常にこれを痛心し、身分の高下は問はぬ、誰でもいゝ、此際無事に姬君を救ひ出したものには姬君を遣してて我が婿とせん、如何に〳〵と四邊を顧みたが、城中に入れば生きて再び還る目當がないので、誰あつて即答する者はなかつたが、獨り坂崎（一に坂碕）出羽なる者あつて即刻玉造門から城中に入り、何う手段を廻らしたものか兵火の間を潛つて姬君を擔ぎ出して來た。家康これを見て欣喜雀躍して大いに坂崎の功を賞し、前約の如く件の朝日姬を賜はらうと思つたが、坂崎は二目と見られぬ稀代の醜男兒であつたに引かへ、折柄家康の陣所に伺候した本多忠刻（後に中務少輔）がなほ前髮立で緋絨の鎧を着白鞘の采を執つて進退する美しい男振に魂を奪はれ、姬は頑として坂崎に嫁する事を聽かぬ、家康も亦たいくら約束とは云へ、坂崎の所謂八三化七

の容貌に愛想を盡して姫を嫁す事を躊躇し、つひに姫は戀人忠刻のものとなつたから、坂崎は失戀と憤恨とで稀代の醜貌を一層醜惡にして腹を立て謀反を企てゝ後誅戮されて其家が亡んだ。住友男の茶臼山は寔に斯ういふ悲劇喜劇の挿話をも有する莊園である。

茶臼山の莊園に關聯して思ふ事は、四天王寺境内があの邊で非常な宏大な地面を有してゐる事である。尤も同境内は一つの遊覽地のやうなもので且つ人の信仰にも繋がつてゐるものであるから一概には云へぬが、それでもあの城東線の天王寺驛構内よりは確かに廣い、天王寺公園にも匹敵すべき大地域を大阪の住宅區域に有して居然と澄してゐるのは、一般社會施設の上から何う云ふものかと考へさせられる。この四天王寺にいつて境内を一べん巡つて見るものには誰にも合點される事であるが、それは同寺境内には市民の遊覽場、或は信仰の巡拜所としての外にまだ〳〵澤山の餘地が存在してゐる事である。是らは遊覽者、信仰者に窮屈も感せしめず、壓迫をも感せしめずして巧みに整理をするとそこに頗る有利な地面を得るに難くない。當局が大阪のやうに寺院が比較的に多い土地に於ては、一日も早く其の境内の地域を整理して市民の利便に供して貰ひたいものである。

市電玉造と霞町車庫の間を繋ぐ所謂東上町線の近傍一帶は、市に於る住宅地域で、殊に近來やゝ見るに足るべき建築物——住宅としての——も殖えて來たやうである、けれどもその間には例のマッチ函式の倭屋が、隨分な勢ひで增加してゆくのは聊か心細い譯で、このマッチ函の出來る處は必ず道路が滅茶苦茶で、殆んど人間の足で歩く事が出來ないやうになつてゐる。總て住宅區域などは殊に心持よく住まなくてはウソであるから、大地を快適にすべく先以て道路の整理を第一とし、而して次に家屋を建つべきものだ。當局は建築制規にさへ適してゐればドンナ處にでもドシ〳〵マッチ函を建てる事を許してゐる——また許さゝるを得ざるものだらうけれども、これは社會政策や施設の上に重大關係、影響がある事を想はなくてはならぬ。東上町の或場所などには、もう何年間か

同し空地に道路修繕に用ゐる機械が雨晒しになつて放抛されてある處がある。斯う云ふ點から見ても當事者の冷淡さ加減が分るといふ者がある。

廣い空地に於て普通の日本家屋を建てるに就て一等困つてゐる事は土砂の不足にあるらしい。土砂の缺乏は勢ひその價格をして莫迦に騰貴せしめた事で、到底これで低地を埋める事は出來ないから、多く下には石炭ガスか塵介を入れる。所謂アンコ入りの土壤にしてその上に家を建てる事にする。用材などは一定の物があつて、許可の通る程度のものを用ゐればいゝが、家の土臺を置く底の方までは檢査を受ぬでもいゝから隨分思切つて粗末にする。吸收力のない石炭ガスは、それが浸潤地ならば何年經ても下に溜り水を湛へてゐる塵芥は量が減る。上に在る家屋は狂ひが來る。早く壞れる。無論不經濟だ。石炭ガスならば、庭木のやうなものは長持がしない。だから此際いづれにしても——殊に日本家屋の場合——土砂の供給を豊かにしもつと價格を安くする工風もしたいものである。それは大阪の河々の底を浚つて、細かに篩つた砂を洋館の腰張りや人造石の材料に用ゐる位ゐの小規模な事では駄目である。舟輯の便を藉るか、手近の高地を切崩して來て大阪の或箇所には土山を築いて見せるほどの思ひ切つた施設なのである。若しそれが出來なければ現行の建築法規を替へて、もう少し家屋の狂ひの來ない方法を講究してこれに改めるのである。これはマッチ函の濫立を防止する一の手段ともなるだらう。

城東線及東上町線に沿つてゆくと、個人の住宅として宏壯なものが追々と殖えてゆく。少し線の内部に入つてゐるが廣岡氏、喜多氏、藤野氏、岡橋氏などの邸宅も北山、眞法院などにある。堂ケ芝には林市藏氏の邸宅が東上町線の東側にある。洋館は別として日本家屋の建築構造は、何れを見ても一定の型に捉はれてゐて、これと云つて個人々々の趣味も色彩も出てゐない。家は斯う云ふ風に建てるもの、斯うして住むものと云つたやうな風に見える。その内觀は悉しく知らず、外觀などは略ぼ一樣である。それが大きい家になればなる程似通つてゐる。庭園の築造なども略ぼ同一手段

であつて、實に何うしてこの人達はこんなに趣味嗜好が似通つてゐるのだらうと思はれるやうである。

故藤野龜之助氏邸の外觀は、その中に於て一寸變つてゐた。表門は寺院の大きな藁葺のもので骨組のあちこちには丹碧の痕が見えて、邸の周圍は悉く生垣を以てめぐらしてゐた。それが龜之助氏が逝つた後、同邸の地内は二つに切斷され、前の方は高塀で圍まれ、後の方のも確か生垣の一部分は堺になつて門が別に設けられたので、例の特色を發揮してゐた山門は何うにかなつてしまつたらしい。邸の地内を二分した事は例の間地稅といふ事などを顧慮したか、或ひはあゝいふ宏大な地面を獨占するは然る可らずとして他に利用したのかそれは知らぬが、兎に角あの邊で異なつた色彩のあつた邸は、やはり今では他と同樣平凡化してしまつたのは事實である。

去年改築された大阪の桃山避病院は、今の東上町線細工谷停留場上の高丘上に宏大な地域を占め巨大な體軀を横へてゐる事は、實際をいふと少し眼障りでもあり、亦た附近の住民に取つても全く迷惑な事である。成程前年までの避病院は設備の上からも建築の上からも不完全であつたので、これを改築した事は當然な事であるが、あの病院が尙ほ永久に此處に居座つてゐるといふ事は何うかと考へられる。縱へ如何やうに傳染病者が送りこまれようと、今の新設備の病院であつて見れば、附近に惡い影響などを及ぼす事のないことは誰でも承知であるのだが、しかし人間の感情といふものはさういふ理屈一遍では通らない。將來此の邊は市の住宅區域の方面に方らうといふ場所であるのに、避病院が此處に在るといふ事は、何う考へも宜しくないやうだ。此處は大阪市と郡部との接續地點に近く、元は田畑に取圍まれた場末であつたけれども、今では全く爾うではないから、避病院などは他に適當の地を撰擇すべきである。或ひは後日他に移轉するといふ豫後をもつてゐるにしても斯ういふものに使用した建物は他の物には利用しかねる事が多からうと思ふ。如何にしてもこれはこの附近の住民にとつては眼の上の瘤である

玉造の心齋橋と稱せらるゝ中道黒門町は今妙なものになつてゐる。何故かといふと東上町線がその西裏を引つ剏つたり、玉造終點に至つて遂に黒門町の通りと鋭角に合して、黒門町の北端はペンの先のやうに尖んがつて、街衢として體裁を臺なしにしてゐる事である。若し町の美觀といふやうなものに注意する必要があるとしたら、この黒門町などは市電の爲に餘程蹈付にされてゐるものである。電車がそこに通じて町の繁昌を助長してくれるといふ事は、町民として當然受くべき仕合であつて、決してその報償として町の美觀を殺がれるといふ不幸を忍ぶべき理由がないからである。考へて見ると此邊の住民は餘程斯う云ふ事には從順なものと見える。當事者も亦此點に於ては最初の考が甚だ不親切ではなかつたか。世の中には色々不思議な格好した町もあるものだが、この黒門町の北寄りの體裁ほど怪らぬ不格好なものは、他の都市には餘り見當らないやうである。思ふに最初こゝに停留場を設ける時に、實はもう少し——間數にしたら切めて十間でも十五間でも、これを西りにする筈のものであつた。若しそれが出來ないとすれば、街衢の體裁を顧慮して、ペンの尖んがりをもつとずつと切斷し、以て不格好を幾分でも減ずべきである。

右のペンの尖んがりを有する個所は、實に大阪の端々の町には非常に多いのである。爾う云ふ所は追つて整理もされるだらうし、格好も直るやうな事になるかも知らぬが、それが直ぐ實行され得べきものでもないらしい。所謂「追つて」である。それでは當にならない事だ。假にも大大阪などゝ稱すべきものが斯んな不體裁な町を其儘にしておいて「追つて」では濟まされまいと思ふ。これは一日も早く何うかしなくてはならぬ。交通の上から考へて見ても、斯樣なペンの尖んがりは危險を誘致するに遮幾いものである。市では時々政府當局から交通の事について突つこまれてゐるやうだがこれなども當然政府當局から交通上の安全を保障する爲めに、警告を與へて改めさせてよい點である。

玉造驛から汽車で京橋驛にゆく。更に西して網

島に入る。此邊は大阪にやゝ永く住んだ我々でも何んだか郡部に來たやうな心持になるが實は大阪市内で北區東野田町である。網島といふと直ぐ思ひ出すのは藤田男爵邸であり亦た近松の淨瑠璃にある「心中天網島」紙治の大長寺である。大長寺は實は今の藤田邸内に呑込れたもので、其代り同寺では今の處に新しく大長寺を建てゝやつたのである。然るに十數年前藤田邸で大長寺を呑込だが如く大長寺では百數十年前の享保年間に紙治の小春治兵衛を呑込んで、その代り石の地藏さんを建てゝやつてゐる。大長寺が何うして小春治兵衛を呑込だかといふと曾根崎の小春といふ女と、天滿(これには異説がある)の紙屋治兵衛とは男が網島の某所で心中して死んだ。それが近松の筆によつて淨瑠璃になり操り人形にかけられ、又芝居にも仕組れた。世上コレ沙汰である。そこで網島の大長寺では、彼の二人が心中の前夜から十夜の回向に說敎を聽聞にきて寺内で心中をしたといふ刷物を其後になつて刷り出して、まんまと心中をお寺に呑込んでしまつだのだが、この坊さんの書いた狂言が不思議に當つて、紙治と云へば誰でも大長寺を聯想する次第である。けれども少し芝居道の黒人になると、今ではそれをさつぱり信用してゐない樣子である。

附近の澱川橋が最近まで純日本風の橋で、板で張つたギボシユ欄干の橋梁であつただけに、この邊には古い匂ひのする話が多少殘つてゐる。第一に藤田男爵はまだ我國に於ける唯一の骨董抱藏家である。骨董なんてものはこれを有利に鑑賞し、美術上、考古上などの資料にもし、自他その趣味を治く其物に求めてこそ初めて難有味のあるものであるが、何十年何百年も一定の邸の中の藏の中の外箱の中の中箱の中の奥箱の中に、而して絹か古錦襴の中に收めてあつては、一向これほど無益な非實物はないのであるから、賢明なる男爵はいづれその内に斯う云ふ物に趣味もあり實益を享受しようといふ人に一般公開して見せてくれる時機があるものと期待してゐて多分間違ひはないであらうと思はれる。

私の經驗した住宅建て方の失敗

辯護士 廣瀬德藏氏夫人　廣瀬益江

私はこの頃の喧しく唱へられる生活改善問題、――延いては住宅改良問題を殊に興味深く拜聽します。それは私が實際過去に於て『住宅』に就いて可なり惱まされたものゝ一人で、そしてその時は相當考へた積りのものが立派に失敗してしまつて今なほその苦痛に困難してゐるからです。何事も『體驗』といふ事が何んなに必要なかは云ふまでもない事ですけれど、本當に實際に自分で當つてみなければ何事も痛切に感じ、又改良といふ事も自然出來難い事だと思ひました。私は今度こそ、若し自分の家として建てるならば、悔のない完全な、それこそ本當の理想的なものに致したいものだと考へてゐます。

主婦の力――或は考へ、創造力と云つたものが何んなに廣く一家の生活を愉快にも、不愉快にも、或は便利にも不便利にもするものか、私はそれを思ふと恐ろしい位なのです。それは家ばかりでなく、當然亦社會にも廣がつて行かなければならないからです。

私の宅は辯護士といふ職業を持つてゐますので自然その立場から私の家の生活――住宅といふものも考へました。考へた事は考へた積りですけれど、矢張り理論と實際とは中々に都合よく一致するものではない事が分つたのでした。私共は只今の家――木幡町に住んでから最早十年近くになりますが、職業上市内の雜沓の場所に住はねばならない結果、それから來る喧騷や空氣の不潔や塵垢やは已むを得ません。家族と云つては只今は主人と私の二人切りのところに預つた書生達が大勢なものですから、他人頼みにして住宅と事務所を別にするといふ事も出來ないのです。それで仕方なく一所に致してゐますが、それが又滑稽な程家の

間取りにいろ〳〵のくひ違つた不便を生んでゐるのです。

私共は以前は北濱の方の借家に住んでゐましたそれが、昔風の建方で、所謂大阪式のあの暗い家なのです。そしてその間取りは只直線的の、表の玄關から中の間茶の間居間座敷といつた風になつてゐました。それで數多いお客樣を一々座敷にお通しすると勢ひ家族の者はその室に居ながら取り散らした仕事も出來ず、何んなに夜遲くなつても雇人達は寢むといふ事も出來ないといふ風でしたそれで今度の家を建てる時には全然その形を變へてしまつたのでした。それは表に面した幾坪を全部二階建の洋館にしてそれが即ち事務所になるのです。そして家族の住ひはそれから奥に續いて日本風の小さな居間を二つ三つ取つてゐます。しかし全體が何しろ土地に餘裕が無いために非常に無理をしてゐる上に又その當時建築の場合に思ひきつた改良も爲し得なかつた爲めに只今は非常に不便を感じてなりません。

洋館は門を入り表の扉を開けると直に土間から板の間に續いて二階に登る階段が面してゐます。そしてその階段の中頃、一段上つた曲り角にお客樣のために帽子掛けや外套脫ぎの場所を拵へてゐますが、斯うした家の構造が、人の出入りの激しい、又無人數な私の家庭をねらつたものか、掻つさらひの盜人が晝の眞中に平氣で入つてどう〳〵お客樣の外套を盜まれたのには驚きました。階段の向け方等も內側の反對の方からすればよかつたと今になつて心付いてゐる始末なのです。其他私の家は非常に窮屈な、狹い坪の上に建てられてゐますから家具等は到底置く事も出來ず他家へ預けてゐる始末なのですが、當時は、私はこんな事も豫想していゝ〳〵苦言や注文もしたのですが矢張り『變な注文』で採用されず終つてしまひました臺所なども又その通りで、私が經驗の上からいろ〳〵思ひつき等を申しましても『そんな笑しな臺所の造り方はない』等と大工等は笑つて相手にしませず、又老人等も居た關係から自然恵方だの、祟りだのを八釜しく氣に掛けてどう〳〵變な、不便なものに致しました。それ等も私が今少し强く

自信と以つて當ればよかつたことゝ思つてゐます

又家の間取り等も以前の借家に懲りて今度は私の家の職業上、待ち合せた客等の折りに密談の洩れるのを防ぐ爲めに、或る一室を來客等の爲めに使つても隣りの室をちやんと獨立した一室として家族の雜用のためにも使へるやうにと思つて、全部一室毎に仕切つて襖を廢し壁に致しました、つまり日本室を西洋風の心持ちで使ふ積りだつたのです。ところがそれ迄はよかつたのですけれど、さて今度偶に純然たる日本式で、少し澤山のお客樣でも招かうといふ時は、何しろ室數が大體に最初から尠いものを、その上に襖を取り拂つて二つ三つの室を一緒にすることが出來ず初めてその場合も困難を感じました。斯うした場合に私共はもつと何等かの工夫をしなければなるまいと思ひます。或は、矢張り斯うした式の失敗を數へますならまだ澤山に有ることです。住居の日本室の方を表の洋館の高さに合せる爲めに、それも只外觀上ばかりでなく、然うしなければ勢ひ他の部分も平均が取れず建築のためにも不便でした。それで日本室の階下と階上の床までに猶人が中腰になつて立てる位ゐの空間を設けてありますが、其處等も少し手を入れて上手に工夫すれば立派に押し入れの代用になる處でした。又臺所とてもその通りで只僅かの道具を置いたのに過ぎませんが、もう一寸の空地もないのです。それで毎日樣々な不便を感じてなりません。私はこれからの都會の住宅は是非共地下室を拵へて大抵の應用を計る工夫をしなければならないと思ひます。それも最初建てる時には左程に狹さを感じない家族の生活振りでも五年十年の後には必ずいろ〳〵の交際で以て何程でも需用の必要を感じますから最初新しく建築する時などは、餘程遠いことまで考へて、充分必要な工夫を凝らさねばならないと私は私の經驗から感じたことでした。

× × ×

『時』と生活改善

小幡大阪府内務部長夫人　小幡きみ子談

生活改善の叫び、――それは、主として、衣食住の改善、いや、寧ろ、衣食住と、そして、社交上の改善を叫ばれるのであつた。何んの事はない、土細工の或ものを叩き壊はして、モ少し理想なものをでつち上げよう、とするのだ。それが、魂ひ抜きの土偶であらうと、升麼事はお構ひなし、といふのだ。何にしても、斯る改善を、男子よりも却つて目醒た婦人方によつて議せられてゐるのも、現下の面白い風潮である。

記者は、堂島河畔に車を飛ばし、先づ、小幡大阪府内務部長夫人を訪ふて、斯の風潮の、どれ程な速度と、怎ういふコースを有つてゐるかを測定するのなすがにした。〔一記者〕

○左様でムいますネ、お尋ねのように、近來、大分に、生活改善といふことが問題となつてゐるようでムいますが、私としては、別段お話する程な意見を有つて居りません。（と如何にも謙遜してゐらつしスたゥそして、記者の重ねての問ひに對し）生活改善と一口に申しますけれども、問題の範圍は却々廣うムいます上に、餘程複雜な問題でムいます。

○隨つて、改善爲さねばならぬ點も却々な事でムいましようが、其中で、私の思ふて居ります一つは、日本人に、今少し時間の觀念を深刻にして頂き度いといふ事でムいます。

○時間を尊重する、時刻を嚴守する、斯ういふ事は、纔に生活の一部のように思はれますが、眞實くそれであつて、實は、生活の全部を支配してゐる問題ではあるまいか、と存じます。

○何故かと申しますと、生活は――殊に外に現はれる生活は――御承知の通り、寔に千差萬別で頗る複雜したものではありますけれども、それ等を

一貫して、それ等を活かす事は、只一つのものが有ります。それは、要するに『秩序』といふものだらうと存じます。

○でムいますから、時間とか時刻といふものにだらしない様では、生活上の秩序といふものゝ有りようがムいません。凡ては『時』の支配に在り、凡ては『時』によつて働いてゐるのでムいますから、時即ち秩序のない人達の生活は、根底に於て間違つて居りはしないか、と存じます。

○生活改善――それは形に現はれた生活其ものゝ改善を要すべきものは、多々ありましようけれども、何の慣習が悪いとか、怎ういふ點がいけないとか、一々箇條書の改善も左る事ながら、先づ以て、日本人の得てふしだら勝ちな、時間の觀念を改善して行く事が急務ではなからうか、と思ふて居ります。

○近い例が、私達、或る會合抔に出ましても、案内の時刻は過ぎて尚ほ餘り入らつしやらない、時刻を正確に守つた者は、却つて、時間を無沙汰せねばならぬ、といふような事になります。一家の内でも、それ〳〵きゝちりと仕事を運ぶように秩序を立てゝ行く事は、何んとしても、時間といふものが先に立ちますから、是さへ精確に守り、又巧妙に利用出來得ますならば、只今の生活を何んぼうか改善される事と存じます。

○生活を幾等改善しようとて、其處に、考へや仕事の餘裕といふものがなくては、とても出來得るものでない、と存じます。其餘裕を生むとは、軈て時間の確守と、利用に在りは致しますまいか。是が、私共生活其ものの凡てゝはありませぬが、少くとも、生活を支配する凡てゝはあるまいか、と存じます。

○――衣服に就いて怎ういふ考を有つてゐるか、と仰しるのですか？、……左樣でムいますネ、只今頻りに唱へられて居ります處の、私達日本人の衣服の改良殊に婦人のそれが、何處まで具體化されつゝあるか、といふ事は、まだ何とも承知致して居りませず。又、如何樣にしたらば可いか、是も差當り纏つた考へを有つて居りませんけれども、現在の婦人服は、經濟の上から申しても、動

作の側から考へましても、眞實不便にして不利なものだ、といふ事は異論あるまい、と存じます。

○一例が、冬季抔に外出致しますときの婦人の服裝を御覽なさい、下から上まで、隨分と重ねた上に、日本式な帶と來てゐるのですから、其上に足駄抔履いて、是が經濟にも動作にも、理想なものであるか怎うか、お話するまでもない事だらう、と存じます。

○でムいますから、現在の日本服殊に婦人服は、何とか改善を要するは、殆むど問題ではムいますまい。

○けれども、其改善の怎う嚮くかは、豫め判りませぬが、婦人服に就て申しせば、假りに、外國婦人の服裝に似寄つたものになると致しまして、茲に問題と成りますは、それが、ほんとうに經濟に付くか、といふ事でムいます。

○服地は、或は日本服よりもずつと利巧に付くかも存じませぬけれども、殿方の背廣一着ですら、十圓も十五圓も裁縫料を取られます、況して、婦人服になりまと、それ相當に裁縫料を取られる事と思はれます。從來の日本服一着拵へるに立派なものでも、裁縫料拾圓以上出すのは格別なものでムいます。

○さるに、婦人服一着へ拾圓以上の裁縫賃を投せなければならぬ、といふ事は、まあ一般の家庭に望み得べき事ではムいません。外國婦人抔は、特殊な階級又は特段なものゝ外、大概、家庭で作られて居るようでムいます。日本でも、服裝改良と同時に、一般の家庭が斯ういふ有樣になりませぬ限り、衣服の改善も、却々な難困事ではムいますまいか。

○お話は前後致しますが、生活の秩序、又は衣服を家庭で作る、といふような事柄に關係致しまして、お話申上げ度い事は、私が、先年、名古屋に居りました當時、獨逸の俘虜を收容してゐる場所を參觀致しましたが、私は、其人達の生活が、奈何にも、秩序といふ事と、物の利用といふ事に巧みなのを見せられまして、寔に科學的な國民だとつく〳〵感じました。

○それは、先づ斯ういふ譯なのでムいます。一體

收容所には、俘虜達に對しても、日本の疊敷に起臥させてゐたのでムいますが、斯ういふ慣習に馴れない彼の人達は、銘々自身に、一つの寢臺を拵へて、之に臥つて居りました。其寢臺といふのが俘虜に對して、本國や其他から種々なものを送つて來た際に用ひられた蜜柑箱のような、小さい古箱が澤山集つてゐるのを利用致しまして、荒削りではムいますが、丁度集せ木細工のようになつて立派に寢臺が出來上つて居りました。

○それ許りでなく、寢臺の上には、棚を拵へ、又は寢臺の下を利用して、其處にも、物納れを拵へてある抔、如何にも、僅かな古箱や板切れを巧に利用し、そして、秩序よく物を取り扱つてゐる事に感心致しました。

○又、其人達は、僅かな切れッ端の板切れでも、斯麼物が有りさへ致しませば、それを以て色々な玩具を拵へ抔致しまして、其器用さと、利用の巧みなるに驚かざるを得ませんでした。

○そして、其人達の日常の生活振りが、收容所の規則に强いられてゐなく、何事にもキツチリと時を追ふて行動するのでムいますから、凡てが秩序其ものと申して宜しい位でムいました。

○何んでも、其收容所に、俘虜自身の手拵なテニスコートが立派に出來て居りましたが、それへ水溜りが出來ますと、雨の日抔には、其コートを凝ツと見て居るそうでムいます。そして、水が溜る處へは、其處へ何かの印を致して置きまして、後に、近所から粘土か何かを持つて來て、其處を突き固めるそうでムいます。

○そして、閑さへあれば、日本人のように寢轉むだり無駄時を過すような事をせず、其處等邊りを歩き廻すそうで、如何にも、活動的な、そして、建設的な、疾序ある生活振りに、感服の外はムいませぬ。

○日本人の生活改善、それは、奈何にも問題でなければなりません。秩序、活動、建設、利用、何から見ましても、改善すべき事は其處等中に在ります。併し問題は、生活個々の條件が主でなくして、生活を一貫し、生活を統御する根本問題から掛らねばなるまい、と存じます。

○其處には、私共の外に現はれた生活として、時則秩序、是が根底の問題ではムいますまいか。私共人間の動作や外形に現はれるものは、とても數限りもない變化あるそれでムいますから、一箇條書きに、何々すべからず、とか、何々せよ、とか申しました處で、到底追つ付くものではムいません。

○其處になると、それ等の凡てを支配し、凡てに通ずる或るものから改善して掛らねば駄目でムいます。其一つは、前申しました時の觀念其ものから改善を要しようと存じます。

□花ながら春の暮るゝぞ便りなき。

泡沫錄

それがし

▼Socrates の建築論　人間思想歴史の發展に礎石を据へた大哲人ソークラテースは、千古の昔に於て、今日の住宅建築論をやつた。曰く、（記者註、終りまで讀んで貰い度い）

『家屋を建築する人は、怎うしたならば最も快適にして最も便利ならしむるか、といふことに注意せなければならぬ』

『凡て家屋は、夏に涼しくして、冬に暖なることを以て便利とする。斯る便利は、南面せる家屋に於て味ひ得る。蓋し、南面の家屋は、冬季に於て、日光斜によく各室に射入し、夏季に於ては唯其屋上を照すに過ぎない。されば、南面の家は、冬季に深く光線を射入せしめむが爲に高く建築することを要する。北面の家は、之に反して、冬季に朔風の衝抗を少くせむ爲に低く建築することを要する。換言すれば、四季を通じて最も快適なる居住を爲し、而も、屋内の什物を安全に保持し得るの人は、最も美麗にして而も愉快なる家屋を有せる人である。』

更に寺院建築を論じて曰く、

『遙に人境を距つて、而も明に遠方より眺望し得るが如き地境は、聖壇を築き、寺院を建つるに好適である。蓋し、吾人は、遠方に在りと雖も其聖壇を遙拜して、——自ら恭敬信仰の念を生ずるが故である。』

どうです？、是が、大哲の建築論殊に住宅建築論である!!。今日の所謂住宅改善論者乃至建築家は大哲ソークラテース以上たるを祝福すべきか。

▼履を頭に冠を履く人　仕入物のご安値な勞働服一着を張り込むさへ、腰帯一本購ふにさへも、半日掛りのあれか是れか、却々以て小むづかしい理想とやらを有つてゐらっしやる。——さるに、其洋服も、腰帯も、何も彼も、然り、**自己の「人生」**

其ものを容れる家屋の建築には、何の創造力も批判眼も有つてゐない人、精々小器用な處で、間取り位ひが關の山、あとは他人委せのお仕着せとは、扱ても『矛盾』其ものゝ標本である。

▼**活荷重と死荷重**　基礎（ファンダーメント）の荷重は、建築家の問題である。斯の問題の幅を廣げたのが、地殻と山岳や大陸の荷重問題。ヂー・エッチ・ダーヴヰンは、ゲルヴイインの『地球剛體說』を基礎として、其荷重力即ち地殻が山岳や大陸の重量に耐ゆるには、幾何の深度と硬度を要するかを說いて、現在地球に存する程度の山岳抔から起る地球内部の歪力は、普通の金屬中で錫位なら十分に耐力を有するが、鉛の如き物質ならば忽ち陷潰して了ふ、と云つてゐる。近年に到つて、エー・イー・エッチ・ラヴは、實際に山岳抔が地殻を壓して起る歪の程度は、鉛より僅に強い物質で、充分に支持し得る、と云つた。處が、最近に於て、地球の構成に關する一新說が現はれ、地殻の荷重力に關する從來の學說に對して、少々革命を來した。曰く『山を成す處の物質は、平地や谿谷よりも輕い物から成つて居り而も高い山は低い山よりも一層輕い物質から成つてゐる。隨つて、高い山を支へてゐる地殻は、平地や谿谷を支へてゐる地盤よりも、決して重い壓力を受けてゐない。要するに、高いのや大きな地瘤は、地球生成の進行に、其表面から漸次内部へ沈澱し、それが、高熱に逢ひ、膨脹して輕くなつたのである。何んの事はない、あの砂糖を燒いてふくらかしたカルメラだ。

▼**軍國と藝術國**　日本の朝野に大持てゝ歡迎責めに逢つてゐたジョッフル元帥を送り來れる佛艦モンカルム號。豫定滯泊を過ぎて。尚ほ横濱港頭に錨を投ずる一週日、艦員上下に鯨飲さるゝ葡萄酒の缺乏に原因するとは、日本人として嘘のような話頃來漸く屬領地よりの補給を得て、滿艦の元氣頓に揚り、早々抜錨とは、是も噺家の種になりそうである。十中の九迄も、所謂『生還を期せず』で、命下忽ち破れ飛行機でお構ひなしに飛び上る日本軍人の元氣と、葡萄酒で出發延期の藝當とは、這麼事まで、建築其ものゝ上にも翳をかざすから面白い。

▼**申分なき家庭改良案**　何處かの『生活改善協議會』とかで、家庭改良案なるものが出來上つた。寔に申分のない涙の溜れるような案である。曰く『家庭ハ常ニ清淨和樂ヲ保持スルコト』曰く、『朝夕二回少クトモ毎朝家風ニ應ジテ精神ノ修養ヲ爲スコト』曰く、『使用人ニ對シテハ温情ヲ旨トシ秩序ヲ紊サザル限リ家族ト同樣ニ待遇スルコト』曰く、何、と。有り難い事だ。それは誰も望むこと。敎へられ來つた事だ。――誰だい！、そこらで『家庭の和樂や精神の修養や温情抔を怎うしたら出來るかの大問題にお搆ひなしだ』と混ぜッ返す奴は!!。

一體誰れ人の改善？　其又、曰くに、『家庭曆家具衣類ノ目錄、獻立表、家庭日記ヲ作ルコト』曰く、『臺所ニ時計ト計量器ヲ備ヘ置クコト』曰く『主婦ハ講演會其他有益ナル會合ニ出席シ又努メテ讀書スルコト』曰く、『音樂、文藝、繪畫等ニヨッテ趣味ヲ豐富ニスルコト』曰く、何、と。どうぞ、幵うなり度いものだ、衣類の目錄を持つように、そして、獻立して飯を頂くように、そして、本の一冊も讀める樣に生活の閑を欲しいものだ――待つて呉れよ！、ラスキンカが『現代の生活に餘りに單調で凡てのよき時間は之に吸收される』とか云つたッケ？。――オイ！、循環小數は怎解くのだ!?。

▼**何れが是**　繪畫でも、建築でも、それによりて表現された型式を美觀化するは、要するに曲線美に在る、と云へる。併し、希臘流の所謂觀念哲學抔の立場から觀ると、一體曲線といふものが有り得るのか、ちよっと疑はしい。曲線は之を實質的に觀て何處迄も直線であり、即ち直線の連續である。觀念哲學が、自然の變移は瞬間の止點を連續したものだ、といふ寸法から行くと、所謂曲線も、直線の無窮に分割されたものゝ連續である。そうなれば、結論は斯うだ、曰く、直線なく曲線なく終は線のみ、只兩極間の量的變異あるのみ。故に曰く、曲線美とは、兩極間の變異美に外ならず。――、うです？！。、ショペンハウエルさんも、嘆聲を擧げるでしよう。

▼**幾何級數と算術級數**　年々洋化し行く建物の工合ひから云つても、人に膨脹の比率から觀ても、我經濟の中心地としても、大阪は、追々と紐育市に似通ふて來るが、實は、例の一等國式で、名と實との距離が大分にある。其處へ行くと、世界一の大都市たる估券を誇つてゐる倫敦市と、紐育市との對照に面白いものがある。或切抜き子曰く、『紐育の現在包容せる人口は約六百萬で、都市としては世界最大のものである。其最大同志の倫敦との比較を見ると、其膨脹の割合が、倫敦の一に對して、紐育は約二に當る。云ひ換ゆれば、倫敦の人口は三十年毎に倍となるが、紐育は十八年毎に倍になる。紐育の一日の交換高現金帳尻は三千萬拂以上で、世界中最も富める都市である。其富は、ミスシッピー以西の全部の富を超へ、其收入は、二十州以上のそれを合したものよりも以上である。米人の十九分の一は紐育市に住み、米國の凡ゆる生産の十分の一は此の市で作くれる。倫敦に於けるよりも二倍の劇場數と、三倍の旅館數を有つてゐる。』と。東洋の紐育市、今頃都市計畫が早尚だの何んのと、一理屈でもあり、ないようでもある。

『科學』より『藝術』へ　大須賀さんの『都市計畫劇』に書かれた題目を失敗する。科學と藝術、それは言葉の相違で、見樣によつては、科學の中に藝術があり藝術の中に科學がある、とも云へる。なぜ？、科學は特異な現象から普遍則を抽象したもの、藝術は、——藝術の定義を下すのではないが——少くとも、自我の創造則表現が其要素だ。前者は靜的、後者は動的である。一見氷炭並架の感あるが、表現によつて獲るものの創造されるものは何にでもあれ、創造の行爲自躰は科學の領域である。そして科學を科學として活用する其ものには、必ず個性の閃き自我の現はれがあり、要するに創造がある。私は建築家を、必ずしも藝術家と謂はず、さりとて、科學者とも目せず、所詮は、科學を藝術化する人、又は藝術を科學化する人、とも云ひ度いのは此處に在る。

▼**住宅公營主義**　通信機關や、主もなる交通機關から、日常の給水事業に到るまで、國又は市坏の所謂公營主義に據つてゐること、先刻ご承知の通りだ。公營主義にも、純粹な收入主義、又は收入

及公利併行主義から成つたものもあるが、其實質は、何處迄も、社會主義的又は社會改良主義的なものである。所謂住宅問題の中、供給問題に到つては、例の『住宅組合法』や『借地借家法』や、是から制定される筈の『借家主借家人調停法』とか、いふようなものが、追々と住宅、公營主義のOut lineを畫かれつゝあるのだ。何れ落ち付く處は、公營主義の外はあるまい。但し、公營主義と云つても、補助主義と純然たる公營の二つある事をお目留められたい。

○長閑さは障子のそなたこなた哉



○大阪府下住宅公營

大正八年六月大阪市が社會事業の施設として北區中野町及西區鶴町に市營住宅を建設し低廉なる住宅を提供して多少の効果を納めてより住宅難の緩和策は公營住宅に如くはなしとせられ到る處之れが經營を見んとする時適々政府に於ても低利資金の貸付を開始する事となり此事業を益促進せしめ府下に於ても公營住宅續出するに至つたが大阪府管内のものは市部に於て大阪市北區中野町の二百戸、同西區鶴町一丁目百八十七戸、同二三丁目の六百五十二戸合計一千三十九戸同建物面積合計九千三百五坪、敷地面積二萬三千五百七十三坪にして建物面積と敷地面積の割合は三割九分強である又堺市は戸數七十戸、敷地面積一千七百卅一坪建物面積七百九十五戸其割合は四割五分強にして東成郡鶴橋町、同郡平野鄉、西成郡玉出町のものを總計すれば戸數百八十八戸敷地面積四千八十六坪、建物面積一千六百八十四坪で其割合は四割強である然るに都市計畫的見地より大阪市營住宅の狀況を見るに

	戸數	宅地面積と建築面積の割合	一人當り空間面積（立方尺）
全經營地	六五三	六六%	五六〇、五
特號區	二	六一%	五三四、九
甲號區	四	六七%	七四一、八
乙號區	九五	五六%	六八二、八
丙號區	二三五	五六%	四八七、七
丁號區	二六	六九%	四七二、六
戊號區	二二〇	八〇%	四五三、九

市街地建築物法に依れば宅地面積と建築面積との割合は六十八パーセントを最少限度として居るのであるから同法に則る事となれば市營住宅中乙號と丙號との二區に過ぎない且又一人當り空間面積は英國住宅法によれば最少限度は五百立方尺を以て定めて居るのに之れにすら充たぬものが未だ多々あるのである此の如く見て來ると市營住宅は先づ第一に其敷地の撰擇に於て第一歩を誤り居る上に法律上種々なる點に於て牴觸を見るは市として大いに考慮すべき問題ではあるまいか。

○府住宅資金貸與

政府が本年度に於て住宅資金として大阪府

の手を經て貸與をなす金額百五十萬圓に關し府當局の意嚮は府債を起して之を借受けたる後更に市町村に貸付け市町村より住宅經營を爲す組合に貸付くる方法を執るを至當としてゐる。夫は組合が住宅經營をなすべく資金の借入を希望するに方りては回收不能に陷るが如き不安なき樣當局に於て豫め其組合の實體、資力等に就き十分調査を遂げ危險なき場合に限り貸付ける事とはなつてゐるが大阪府の狀態は他府縣の夫と異なり組合の內容も雜多にして其經營振等に至りては府が直接監督の位置に居る事は實際上不可能であるから平素組合に最も接近してゐる市町村に於て之を行ふが確實且便宜であるからと云ふに在る。然るに內務省は當初から府縣を通じて組合に貸付け府縣をして直接其責に任ぜしめるのであつて府縣が市町村を通じて組合に貸付ける事とすると頗る複雜な手續を要し勢ひ資金融通の趣旨を殺ぐ樣になるからと云ふので府縣直接貸付けを妥當としてゐる爲府に於ては更に內務省と交涉を重ねつゝあるが若し府の意見通りの手續に由ること、なれば組合に對する直接責任者は市町村となるから府は急施參事會に起債及市町村へ貸出の件を附議し其の承認を得て實行するに至るべく若し內務省が此方法に同意を與へぬとすれば府は直接責任を負はねばならぬ事となりて府會の議決を必要とするから臨時府會を招集するに至るであらうと。

○舖裝と特別賦課

市電堺筋線の北濱二丁目より本町二丁目に至る道路舖裝工事は客臘竣工せるを以て道路法による特別賦課の規程に據り沿道地主に舖裝工事費の一部を負擔せしむる事となり二月三日附を以て之が徵收令狀を發した「此の堺筋の道路舖裝工事費は總額十一萬千六百五十九圓で一坪當り車道三十八圓二十七錢歩道十八圓七十九錢を要した、特別賦課の方法は堺筋は車道五間歩道三間なる爲め車道舖裝費歩道舖裝費を各車歩道の幅員に乘じて更に其の和を八間で除して車歩兩道一坪當り工事費の平均額を算出し之れを特別負擔の規程に依つて右平均工事費の六間分を間口並に面積（奥行二十間を限度とす）に比例して賦課したるものであるが」道路に面する土地で奥行九尺に滿たなゝ狹小な地域は間口負擔を二分の一に減額した其結果間口負擔で一萬七千六百八十七圓餘面積負擔に於いて一萬八千二百五十四圓總計三萬五千九百四十二圓を市は新たに徵收する譯である尙將來本市都市計畫事業等の進捗するに伴うて新設並に擴築街路の都市計畫法による特別負擔も略前記の方法で賦課する事となるべく我國で道路舖裝費の特別負擔を課したのは之れが嚆矢である

□

□

□



會合

○會場委員會

△日　時　一月二十七日午後五時—六時半
△會　場　本協會會議室
△出席者　小笠原、舟橋、池田、小川、呼子、福永、長田、西谷（書記）
△記　事　一、博覽會々場配置圖に就き協議す。

○臨時理事會

△日　時　一月二十八日午後五時—七時半
△會　場　本協會々議室
△出席者　横濱、內藤、舟橋、瀨戸、野呂、波江、西谷（書記）
△記　事　一、各委員會幹事更迭、二、博覽會部に關する諸事項　三、大阪計量博覽會へ木材及煉瓦規格見本出品等につき協議す。

○法制委員會

△日　時　二月四日午後七時—八時
△會　場　本協會々議室
△出席者　舟橋、中西、吉木、宮本、森本、片山、光安、內藤、西谷（書記）
△記　事　一、建築工事請負契約書及同規程統一草案につき協議す。

○理事會

△日　時　二月四日午後五時半—七時
△會　場　本協會々議室
△出席者　片岡、横濱、內藤、小笠原、瀨戸、舟橋、中西、吉木、竹腰、波江、西谷（書記）
△記　事　一、會員の銓衡　二、講習會開催の件、三、博覽會部諸事項等

○第三回懸賞圖案審査會

△日　時　二月六日午後六時—九時
△會　場　大阪倶樂部
△出席者　片岡、葛野、吉木、波江、阿部、長谷部、宗、横濱、內藤、山崎（書記）
△記　事　一、審査長及幹事を推擧し審査方針を樹立す。

○第三回懸賞圖案審査豫選會

△日　時　二月八日午後三時—九時半
△會　場　本協會々議室
△出席者　宗、吉木、葛野、西谷（書記）
△記　事　一、圖案全部を豫選し甲乙丙に分類す。

○第三回懸賞圖案審査會

△日　時　二月十日午後三時—八時半
△會　場　大江ビルヂング大廣間
△出席者　宗、吉木、武田、阿部、長谷部、葛野、松井、西谷（書記）
△記　事　一、前回豫選にて分類したる全部につき引續き審査す。

○第三回懸賞圖案審査會

△日　時　二月十五日午後五時—九時半
△會　場　本協會々議室
△出席者　宗、吉木、葛野、波江、松井、阿部、長谷部、西谷（書記）
△記　事　一、前回に引續き審査す。

○例會

△日　時　二月十七日午後六時—八時半
△會　場　大江ビルヂング大廣間
△出席者　佐伯、森、宮本、波江、谷、林、阪井、呼子、德政、小松、中川、西野、久保田、光安、中川、大原、村野、藤井、森田、吉井、池村、原科、鈴木、片岡、横濱、吉木、野呂、中西、瀨戸、小笠原、内藤、大須賀、高村、山本、西谷（書記）
（來賓）直木博士
△記　事　一、内藤主記の會務報告　二、横濱理事長の博覽會に關する件外雜件報告　三、都市計畫大阪地方委員會技師工學士内山新之助氏の歐米に於ける都市計畫に就ての講演等ありたり。

○法制委員會

△會　場　本協會々議室
△出席者　吉木、大林、渡邊、島田、森本、光安、西谷（書記）
△記　事　一、建築工事請負契約書及同規程草案につき前回に引續き協議す

○理事會

△日　時　二月二十日午後五時—七時
△會　場　本協會々議室
△出席者　片岡、内藤、野呂、竹腰、瀨戸、小笠原、吉木、西谷（書記）
△記　事　一、講習會開催に就ての諸事項　二、會員の銓衡　三、細則の一部變更其他

○博覽會幹事會

△日　時　二月二十日午後七時—九時
△會　場　本協會々議室
△出席者　片岡、波江、小笠原、瀨戸、吉木、西谷（書記）
△記　事　一、博覽會々則中の協議事項　二、名譽顧問並評議員を推舉する件　其他

會務

△一月二十五日　臨時博覽會部設置及組織の件、博覽會々則制定及實施の件を理事會に一任するの可否につき發したる通信決議は全員の贊同を得て可決す

△一月三十一日　正午を以て第三回改良住宅設計圖案懸賞募集を締切る　應募總數百二十四通

△日本建築士會より照會せられたる建築工事請負契約書及同規程統一聯合調査會に本協會より派遣調査委員として左記三氏を推薦し各快諾を得たり
吉木久吉君　舟橋喜一君　濱邊節君

△眞水三橋建築事務所は左記へ移轉せられたり、
大阪市北區中島二ノ五二ノ合田ビルヂ

ンク三階、電話本三八六、五六五三(合田礦業會社取次)

○新入會員

(會員) 白石藤四郎君、松本儀八君、藤井茂美君、森本順三君、西照秀太郎君、橋本舜介君、小島淳吉君、太田正之君、松本宇吉郎君、熊谷泰次郎君

(特別賛助員) 內山新之助君

(普通賛助員) 長山與吉君、岩柳三郎君、及川藤四郎君、加藤善吉君、苅田菊太郎君、道田泰三郎君

○住所移轉

西田榮一君 神奈川縣三浦郡浦賀町 浦賀船渠株式會社工作課

吉木久吉君 大阪市外天王寺村東天下茶屋一七五四

伊東武夫君 岐阜縣加納町西丸ノ內師範校

西山根方

小田周次君 大阪府西成郡津守村字下島四〇八

好岡 享君 大阪府西成郡鷺洲町南浦江五一二

野村紋次郎君 大阪市東區備後町三大日本紡績株式會社作業課

清原佐市君 大阪府東成郡喜連村

籠田宅憲君 大連市滿鐵本社社長室建築課

伊藤正文君 大阪市南區天王寺勝山通三ノ一八

桑名泉太郎君 富山市清水町二〇六

田中豊太郎君 北海道札幌北四條西十五丁目

○寄贈圖書

庭園	二號	同協會	
住宅	二號	住宅改良會	
建築雜誌	二號	建築學會	
委員會報告		建築學會	
農家の友	二號	同社	
材木新聞	每號	同社	
金屬工業新聞	每號	同社	
經濟資料	二號	東亞經濟調査會	
都市公論	二號	都市研究會	
住宅研究	二號	住宅改良會	
土木建築	二號	同社	
建築世界	二號	同社	
通商彙報	二號	大阪府立商品陳列所	
工業評論	二號	工業評論社	
帝國鐵道協會々報	一號	同協會	
建築畫報	二號	同社	
國民經濟雜誌	二號	神戸高等商業學校	
家のしるべ	二號	同社	
通俗衛生	二號	大阪府衛生會	
電氣學會雜誌	二號	同學會	
工業の友	二號	工手學校	
滿洲建築協會雜誌	一號	同協會	

役員及職員

副會頭片岡安
理事　小笠原鈔
理事　橫濱勉（理事長）
理事　吉木久吉
理事　竹腰健三（編輯）
理事　中西基作（編輯）
理事　內藤太郎（主記）
理事　野呂長四郎（編輯）
理事　松本禹象
理事　舟橋喜一
理事瀨戸文吾（主計）
書記（編輯擔任）
江村郊郁
西谷節
武波泰
山崎萬壽太

住宅改良臨時博覽會部
理事　葛野壯一郎
理事　波江悌夫
理事　小笠原鈔
書記　西谷節
事務員　大谷政藏
事務員　三谷良造

會員	二一四	會員（地方）	七九
名譽贊助員	七〇	終身贊助員	五二
特別贊助員	一八	普通贊助員	三六一
合計（二月二十日現在）			八〇四

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	金五拾錢	貳錢
	十二册	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓

特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ

大正十一年二月二十八日印刷（毎月壹回）
大正十一年三月一日發行（一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一
大阪市東區內淡路町一丁目卅一番地
印刷人　大阪活版所
大阪市北區絹笠町九大江ビルヂング三十七號室
發行所　日本建築協會
電話北四一一九一番
振替口座大阪三九九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀一四四〇番）
振替口座二〇八四番

（改正）大阪府建築取締規則

家住及物建用衆公

○一尺五寸15　○高八尺16　○雨水溝深、材料、巾17高下18　○表軒

（餘地）19

○軒層　高2J數21

地面高22　內地地盤23　板床24　土臺、基礎25　擁壁26　床下天井裏27

通風孔28　界壁29　（窓面積、鴨居開放）30　窓面積、鴨居開放換氣孔32

床高34　天井高35　掃除口35

階段敷37　階段巾38　蹴上踏面39　踊場41

屋上42

棟高、避雷設備43　軒先高44　軒、螺羽、庇45　雀口46

軒樋、竪樋47

厨房48

燃料、煙突高49　○煙突位置50

煙突高51　煙突伸長52　煙突屋内部53　○支線54

避雷設備55

水場56

溝渠材料、勾配57　蓋、金網

（便所數）58　便所窓、換氣孔、臭拔59　溜材料、口徑、深60　周圍、移動器60　○便所、障塀61

木造間口長距離62　屋防火壁

通路數巾63　通路材料

○道路通路關係（）住家ノミ

15
06
17……63條

(改正)大阪府建築取締規則

(明治四十二年八月十八日大阪府令第七十四號
大正七年二月二十八日府令第九號第一部改正
大正九年十二月廿八日府令第百〇一號一部改正)

○印ハ市街地建築物法適用區域内ニ於テモ適用スルモノ

第一章 總則

○第一條 本則ニ於テ建造物ト稱スルハ住家、倉庫、其他各種ノ建物、隧橋、塔、煙突、牆壁、門戸ノ類ヲ謂フ

○第二條 本則ニ於テ住家ト稱スルハ主トシテ住居ニ供スル建物ヲ謂フ
他ノ建造物ノ一部ヲ住居ニ供スルトキハ其ノ部分ヲ住居ト看做ス

○第三條 本則ニ於テ公衆用建物ト稱スルハ禮拜所、教會堂、學校、圖書館、病院、銀行、商舘、事務所、公會堂、集會所、劇場、寄席、觀物場、遊覽所、遊技場、勸商場、博物場、湯屋、寄宿舍、宿屋、料理屋、飲食店、席貸、芝居茶屋、貸座敷、待合茶屋、工場、市場、火葬場、屠場、牛乳搾取場、其他主トシテ公衆ノ用ニ供スル建物ヲ謂フ

○第四條 本則ニ於テ倉庫類建物ト稱スルハ倉庫、納家、上家、荷扱所其他住家又ハ公衆用建物ニ屬セサル建物ヲ謂フ

第五條 本則ニ於テ道路ト稱スルハ公有タルト私有タルトヲ問ハス公衆ノ交通ニ供スル土地ヲ謂フ
通路ト稱スルハ交通ニ供スル土地ヲ謂フ

第六條 本則ニ於テ表屋ト稱スルハ道路ニ沿フ建物及之ニ付屬スル建物ヲ謂フ
裏屋ト稱スルハ表屋ニ非サル建物ヲ謂フ

○第七條 本則ニ於テ長屋ト稱スルハ二戸以上連續スル建物ヲ謂フ

○第八條 本則ニ於テ外壁ト稱スルハ建物ノ周圍ノ壁(之ニ代ルヘキモノヲ含ム以下同シ)ヲ謂フ
界壁ト稱スルハ他ノ建物トノ共用壁及長屋各戸ノ境界壁ヲ謂フ

第九條 建造物ノ測算法ハ左記各號ニ依ル

一 建造物ノ面積及建坪ハ壁又ハ柱ノ眞々ニ於テス

二 軒高ハ雨水溝(第十七條ノ雨水溝ヲ謂フ以下同シ)外側緣石ノ上端ヨリ軒桁上端(之ニ代ルヘキ部分ヲ含ム)ニ至ル垂直距離ヲ以テス但シ雨水溝ナキ場合ニ於テハ建物前面ノ地面ヨリトス

三　棟高ハ雨水溝外側縁石ノ上端ヨリ棟桁上端（之ニ代ルヘキ部分ヲ含ム）ニ至ル垂直距離ヲ以テス但シ雨水溝ナキ場合ニ於テハ建物前面ヨリトス

四　床高ハ其ノ直下地面ヨリ床上端ニ至ル距離ヲ以テス

五　天井ノ高ハ床上端ヨリ天井廻縁又ハ蛇腹ノ上端（之ニ代ルヘキ部分ヲ含ム）ニ至ル垂直距離ヲ以テス但シ天井ナキ場合ニ於テハ梁下端迄トシ登梁ニ在リテハ其ノ室内ニ於ケル低部ノ下端迄トス

○第十條　本則ニ於テ防火材料ト稱スルハ石（人造石ヲ含ム以下同シ）、煉瓦、陶磁器（素燒ヲ除ク以下同シ）瓦、厚三寸以上ノ「コンクリート」、厚二寸以上ノ「モルタル」、厚厚二寸五分以上ノ漆喰、石綿盤又ハ金屬板ヲ謂フ

防水材料ト稱スルハ石、煉瓦、陶磁器、瓦、厚三寸以上「コンクリート」、厚二寸以上ノ「モルタル」厚五分以上ノ「アスファルト」（其ノ下ニ二寸以上ノ漆喰ヲ施スコト）厚三寸以上ノ漆喰又ハ石綿盤ヲ謂フ

防風材料ト稱スルハ石、煉瓦、陶磁器、瓦、厚三寸以上ノ「セメントコンクリート」、厚三寸以上ノ「セメントモルタル」、厚五分以上ノ「アスファルト」（其ノ下ニ厚三寸以上ノ漆喰ヲ施スコト）石綿盤又ハ金屬板ヲ謂フ

石、煉瓦、陶磁器、瓦ノ接合ニハ「セメント」「入」「モルタル」ヲ使用スルコトヲ要ス但シ第一項ノ場合ニ於テハ「セメント」ヲ混用セサルコトヲ得

火山灰及水硬石灰ハ之ヲ「セメント」ニ代用スルコトヲ得

○第十一條　建造物ノ構造設備、地盤ノ築造ニ付テハ第二章ノ制限ニ從フヘシ

當該官廳ニ於テ危害豫防又ハ衛生上必要ト認ムルトキハ第二章制限ノ外特殊ノ構造設備ヲ命スルコトアルヘシ

○第十二條　地勢ノ狀況又ハ建造物ノ性質ニ因リ若ハ特殊ノ構造設備ニ係リ第二章ノ構造設備ニ依リ難キモノハ其ノ制限ニ適合セサルモ特ニ之ヲ認可スルコトアルヘシ

○第十三條　建築ニ腐朽又ハ脆弱ナル材料ヲ、地揚ニ塵芥其ノ他汚穢物ヲ使用スルコトヲ得ス

○第十四條　建造物ノ採光、換氣、防火、避難、防風其ノ他除害ニ關スル構造設備ハ常ニ之ヲ有効ニ保持スヘシ

第二章　構造設備

第十五條　道路又ハ通路ニ沿フ建造物ハ道路及通路トノ間ニ一尺五寸以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス但シ他ノ建造物トノ間ニ設ケル防火壁ニシテ第六十二條第二項ノ構造ニ適合スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ距離ハ建造物ノ外側ヨリ道路又ハ通路ノ境界線ニ至ル間ヲ以テ之ヲ測算ス

第十六條　雨水溝外側縁石ノ上端（雨水溝ナキ場合ハ建物前面ノ地面ヨリトス）ヨリ高八尺以上ニ在ル軒、蛻羽、庇及其ノ持送ハ前條第二項ノ外側ト看做サルヽモ道路又ハ通路ノ部分ヲ侵スコトヲ得ス外開扉亦同シ

○第十七條　建物敷地カ道路又ハ通路ニ沿フトキハ其境界線内ニ雨水溝ヲ設クルコトヲ要ス但シ之ニ代ルヘキ公共溝渠ノ施設シアルトキハ此ノ限ニ在ラス

雨水溝ハ幅内法六寸以上トシ溝側ハ石材、溝底ハ防水材料ヲ以テ之ヲ構造シ適當ノ勾配ヲ付スルコトヲ要ス

雨水溝ノ深五寸以上ナルトキハ覆蓋ヲ設クルコトヲ要ス

雨水溝ノ内側縁石ノ上端ハ外側縁石上端ノ水平面ヨリ高キコトヲ要ス

○第十八條　第十五條第二項ノ外側ヨリ道路境界ニ至ル地盤ハ防水材料ヲ以テ之ヲ築造シ雨水溝内側縁石上端ニ向テ百分ノ一以上ノ勾配ヲ付スルコトヲ要ス

建造物カ通路ニ面スル場合亦前項ニ同シ

第十九條　住家各戸ニ其ノ建坪四分ノ一以上ノ餘地ヲ存スルコトヲ要ス

建物前面外ニ於テ道路、通路、河、海、池、沼其ノ他建造物ヲ建設シ得サル餘地ニ接スル場合ニ於テハ其ノ接スル部分ノ長ニ付其ノ幅二分ノ一以下ヲ前項ノ餘地ニ算入スルコトヲ得

第二十條　軒高ハ前面又ハ側面ニ於ケル道路又ハ通路ノ幅員ノ廣キモノヽ二倍ヲ超ユルコトヲ得ス

道路又ハ通路ニ接續スル付屬ノ空地、河、海、池、沼其ノ他建造物ヲ建設シ得サル餘地ノ幅員ハ前項ノ幅員ニ之ヲ算入スルコトヲ得

軒高三十五尺以上ノ建物ハ之ヲ木造ト爲スコトヲ得ス

裝飾塔ノ類ハ軒高ニ算入セス

第二十一條　四階以上ノ建物ハ之ヲ木造ト爲スコトヲ得ス

地階、裝飾塔ノ類ハ層數ニ算入セス

○第二十二條　住家又ハ公衆用建物ノ地面ハ敷地面ヨリ二寸以上高キコトヲ要ス但シ地階其他使用上止ムコトヲ得サル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

○第二十三條　木造建物ノ地盤ハ防水材料ヲ以テ之ヲ築造シ若ハ厚一尺以上ノ敷砂ト爲スコトヲ要ス但シ使用上止ムコトヲ得サ

ル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

○第二十四條　前條又ハ第五十六條ノ地面又ハ床面ニ板床ヲ設クルトキハ取外シ容易ナル構造ト爲スコトヲ要ス

第二十五條　木造ノ外壁及界壁ニハ下部ニ土臺ヲ布設シ土臺下ニ石、煉瓦又ハ「コンクリート」ヲ以テ構造シタル幅五寸以上深五寸以上ノ基礎ヲ設クルコトヲ要ス

第二十六條　地階ノ擁壁ハ石、煉瓦又ハ「コンクリート」ヲ以テ之ヲ構造スルコトヲ要ス

○第二十七條　外壁及界壁ノ床下、天井裏ニ屬スル部分ハ防鼠材料ヲ以テ之ヲ構造シ若ハ之ニ金網（三分目以下ノモノヲ用フ以下同シ）ノ類ヲ張ルコトヲ要ス

床ノ間、押入ノ如キ二重床又ハ土間床ノ周圍亦前項ニ同シ

○第二十八條　外壁又ハ仕切壁ノ床下、天井裏ニ屬スル部分ニハ適當ナル通風孔ヲ設クルコトヲ要ス

前項外壁ノ通風孔其ノ他ノ空隙ニハ金網ノ類ヲ張ルコトヲ要ス

○第二十九條　界壁ハ基礎ヨリ屋根裏ニ達スルコトヲ要ス

界壁ニハ出入口、窓、通風孔其他ノ空隙ヲ設クルコトヲ得ス

第三十條　住家ノ採光面積ハ各層床面積ノ五分ノ一以上トス但シ採光設備ニ硝子ヲ用ウルトキハ八分ノ一迄ニ之ヲ減スルコトヲ得

一層二室以上ニシテ採光不充分ナルトキハ二方面以上ニ適當ニ窓（之ニ代ルヘキモノヲ含ム以下同シ）ヲ分設スルコトヲ要ス

窓ノ鴨居下端ノ高ハ床上端ヨリ五尺七寸以上トス

窓ハ各其ノ面積ノ二分ノ一以上ハ之ヲ開放シ得ルコトヲ要ス

第一項低限外ニ設クル窓ハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十一條　公衆用建物ノ採光面積ハ各室床面ノ六分ノ一以上トス但シ採光設備ニ硝子ヲ用ウルトキハ十分ノ一迄ニ之ヲ減スルコトヲ得

前條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ亦之ヲ適用ス

○第三十二條　住家又ハ公衆用建物ノ各室ニハ上部ニ欄間其ノ他換氣孔ヲ設クルコトヲ要ス

○第三十三條　惡臭、有害瓦斯ハ粉塵ヲ發スル物品ノ收藏若ハ取扱ヲ爲ス倉庫類建物ノ出入口、窓其ノ他ノ空隙ハ道路、通路、公衆用建物又ハ他人ノ住家ニ接近シテ之ヲ設クルコトヲ得ス但シ適當ナル除害裝置ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條　住家又ハ公衆用建物ノ各室ノ床高ハ一尺五寸以上トス但シ店其ノ他使用上止ムコトヲ得サル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

木製ノ以外ノ床ハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十五條　住家又ハ公衆用建物ノ各室ノ天井高ハ七尺以上トス

○第三十六條　床及天井ニハ適當ナル掃除口ヲ設ケ又ハ之ニ代ルヘキ設備ヲ爲スコトヲ要ス

○第三十七條　住家又ハ公衆用建物ノ階段數ハ其ノ層ノ面積ニ應シ左記各號ノ標準ニ從ヒ且適當ニ之ヲ配置スルコトヲ要ス

一　木造ニ係ルトキハ二十五坪以下ニ在リテハ一箇所以上、五十坪以下ニ在リテハ二箇所以上、百坪以下ニ在リテハ三箇所以上、百坪ヲ超ユルモノニ在リテハ四箇所以上

二　石造又ハ煉瓦造ニ係ルトキハ三十五坪以下ニ在リテハ一箇所以上、七十坪以下ニ在リテハ二箇所以上、百五十坪以下ニ在リテハ三箇所以上、百五十坪ヲ超ユルモノニ在リテハ四箇所以上

三　耐火構造ニ係ルトキハ五十坪以下ニ在リテハ一箇所以上、百坪以下ニ在リテハ二箇所以上、二百坪以下ニ在リテハ三箇所以上、二百坪ヲ超ユルモノニ在リテハ四箇所以上

室ノ配置簡單ニシテ階段ヲ輻特ニ大ナル場合ニ於テハ前項階段數ノ遞減ヲ認可スルコトアルヘシ

公衆用建物ニ於ケル第一項低限ノ階段ハ螺旋狀ト爲スコトヲ得ス

第三十八條　階段ノ幅ハ住家ニ在リテハ二尺五寸以上、公衆用建物ニ在リテハ三尺以上トス但シ前條低限外ニ設クル階段ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

公衆用建物ノ階段ニハ扶欄ヲ設クルコトヲ要ス

第三十九條　階段ノ蹴上ハ七寸以下、踏面ハ七寸以上トシ各段均一ナルコトヲ要ス但シ住家及倉庫類建物ニ在リテハ蹴上ヲ七寸五分以下、踏面ヲ五寸以上ト爲スコトヲ得

曲線階段ノ踏面ハ階段幅ノ中心線ニ於テ之ヲ測算ス

第四十條　銀行、會社、商舘又ハ事務所ニ限リ前二條ノ規定ニ拘ラス階段ノ幅、蹴上及踏面ハ住家ノ制限ニ依ルコトヲ得

第四十一條　高十二尺ヲ超ユル階段ニ在リテハ高十二尺以下毎ニ踊場ヲ設クルコトヲ要ス但シ銀行、會社、商舘、事務所又ハ住家ニ在リテハ十二尺ヲ十五尺迄伸長スルコトヲ得

踊場ノ長及幅ハ階段ノ幅以上トス

第四十二條　屋上ハ防火材料（漆喰ヲ除ク）ヲ以テ之ヲ覆葺スルコトヲ要ス

第四十三條　棟高六十五尺ヲ超ユル建物ニハ適當ナル避雷設備ヲ爲スコトヲ要ス

第四十四條　屋根又ハ庇ノ軒先ハ第三十條第三項ノ鴨居下端ヲ下ルコトヲ得ス

初層ニ於ケル屋根又ハ庇ノ軒出ハ軒先ト第三十條第三項ノ鴨居下端トノ垂直距離ノ三倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十五條　軒、蛻羽又ハ庇ノ隣接建物ニ對スル距離二尺未滿ナル部分ハ防火材料ヲ以テ之ヲ構造又ハ被覆スルコトヲ要ス

○**第四十六條**　許先瓦下ノ空隙ハ「セメント」又ハ漆喰ノ類ヲ以テ之ヲ塗塞スルコトヲ要ス

○**第四十七條**　道路又ハ通路ニ沿フ建物ノ屋根ニハ適當ナル金屬又ハ陶磁器製ノ軒樋及竪樋ヲ設ケ雨水滯其ノ他適當ナル場所ニ之ヲ接續スルコトヲ要ス但シ小庇ニ付テハ此ノ限ニ在ラス道路又ハ通路ニ沿フ竪樋ハ建物ニ附着スルコトヲ要ス

○**第四十八條**　厨房ニハ上部ニ換氣窓ヲ設クルコトヲ要ス

第四十九條　石炭、薪木又ハ骸炭ヲ多量ニ燃用スル火爐、竈、曝爐ノ類ニハ煙突ヲ設クルコトヲ要ス

煙突ノ高ハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外左記各號ニ依ルヘシ

一　石炭ヲ燃用スルモノ　　高六十尺以上

二　無煙炭ヲ燃用スルモノ　　高五十尺以上

三　薪木ヲ燃用スルモノ　　高四十尺以上

四　「コークス」ヲ燃用スルモノ　　高三十尺以上

○**第五十條**　高二十五尺以上ノ煙突ハ道路トノ間ニ三尺以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

第五十一條　煙突ハ屋上二尺以上（最短部ニ於テ測ル）突出スルコトヲ要ス

左記各號ノ一ニ該當スルトキハ前項ノ突出ヲ上層ノ屋上ヨリ測算ス

一　煙突ノ頂部カ軒下ニ係ルトキ

二　煙突ノ頂部ト上層ノ軒先垂直面トノ距離三尺未滿ナルトキ

三　煙突ノ頂部ト上層軒先トノ距離三尺未滿ナルトキ

前項ノ規定ハ蛻羽ノ場合ニ亦之ヲ適用ス

軒、蛻羽又ハ庇カ防火構造ニ係ルトキハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五十二條　煙突ノ高ハ其ノ附近ノ狀況ニ因リ近接建物ニ對シ直探ニ害ヲ及ホサヽル程度迄之ヲ伸長スルコトヲ要ス

第五十三條　金屬製煙突カ木材ト五寸以内ニ接近スル部分ハ防火材料（金屬板ヲ除ク）ヲ以テ之ヲ構造又ハ被覆スルコトヲ要ス

煙突ノ接合部カ天井裏ニ隱ルヽトキハ厚二寸以上幅五寸以上粘土又ハ漆喰ノ類ヲ以テ其ノ周圍ヲ被覆スルコトヲ要ス

○第五十四條　煙突類ニ用ユル金屬製支線ハ架空電線ト三尺以内ニ接近シ又ハ其ノ上部ニ於テ之ト交叉スルコトヲ得ス但シ高壓電線ニ在リテハ護謨被覆線、低壓電線ニ在リテハ木綿卷線若ハ之ニ相當スルモノヲ使用シアルトキ又ハ電線ノ上部ニ於テ適當ナル電線混觸豫防裝置ヲ施ストキハ此ノ限ニ在ラス

道路ニ接近スル高三十尺以上ノ金屬製支線ニハ完全ナル電氣的接地ノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス

第五十五條　高六十五尺ヲ超ユル煙突ニハ適當ナル避雷設備ヲ爲スコトヲ要ス

○第五十六條　流元、井戸端、風呂場其ノ他常ニ水（其ノ他ノ液體亦同シ）ヲ使用シ若ハ放流スル場所ハ其ノ地盤又ハ床面ヲ防水材料ヲ以テ構造シ之ヲ溝渠其ノ他適當ナル場所ニ接續スルコトヲ要ス但シ第二層以上ニ於ケル水場ノ床及附屬裝置ハ鐵管其ノ他金屬製ト爲スコトヲ得

○第五十七條　溝渠（第十七條ノ雨水溝ヲ除ク）ハ防水材料ヲ以テ之ヲ構造シ百分ノ一以上ノ勾配ヲ附シ其ノ上部ニ覆蓋、元口ニ金網ノ類ヲ裝置スルコトヲ要ス

便所

○第五十八條　住家ニハ各戸ニ便所ヲ設クルコトヲ要ス

○第五十九條　便所ニハ窓及上部ニ換氣孔ヲ設クルコトヲ要ス但シ床下ヨリ屋上二尺以上ニ達スル臭氣拔ヲ以テ換氣孔ニ代ユルコトヲ得

臭氣拔ノ高ハ其ノ附近ノ狀況ニ因リ近接建物ニ對シ直接ニ害ヲ及ホサヽル程度迄之ヲ伸長スルコトヲ要ス

○第六十條　屎尿溜及其ノ附屬裝置ハ防水材料ヲ以テ之ヲ構造スルコトヲ要ス但シ第二層以上ニ於ケル便所ノ附屬裝置ハ鐵管其ノ他金屬製ト爲スコトヲ得

屎尿溜ハ口徑二尺以上乃至二尺五寸トス

屎尿溜口ノ周圍ハ防水材料ヲ以テ漏斗形ニ之ヲ構造シ煉瓦、瓦、漆喰ニ在リテハ表面ニ厚一分以上「セメント」又ハ「アスファルト」ヲ塗布スルコトヲ要ス

移動屎尿器ヲ据置クヘキ場所及其ノ周圍ハ防水材料ヲ以テ之ヲ構造スルコトヲ要ス

○第六十一條　便所ヲ道路又ハ通路ニ沿フ場所ニ設クルトキハ障壁ノ類ヲ設クルコトヲ要ス

○第六十二條　木造長屋ハ間口十五間ヲ超ユルコトヲ得ス

木造長屋ノ兩端ハ屋上二尺以上（垂直ニ測ル）ニ達スル石、煉瓦、「コンクリート」又ハ鐵筋「コンクリート」ヲ以テ適當ニ構造シタル防火壁ト爲スコトヲ要ス但シ他ノ建物トノ間ニ三尺以上ノ距離ヲ保有スルトキハ此限ニ在ラス

前項但書ノ距離ハ隣地ト所有者ヲ異ニスル場合ニ於テハ境界線ヨリ一尺五寸ヲ限ニ減スルコトヲ得

第二項ノ距離ニ建物外側間ニ於テ之ヲ測算ス

第六十三條　裏屋（倉庫納屋ヲ除ク）ニハ通路ヲ設ケ二方面以上ニ於テ之ヲ道路又ハ通路ニ接續スルコトヲ要ス但シ六戸以下ノ場合ニ於テ他ノ方面ニ交通シ得ル非常通路ヲ設クルトキハ一方面ニ減スルコトヲ得

通路ノ幅員ハ九尺以上トス

通路ノ地盤ハ防水材料ヲ以テ之ヲ築造スルコトヲ要ス

第三章　申請手續

第六十四條　左記各號ノ一ニ該當スル建造物ノ工事（新築、增築、改築、大修繕又ハ變更ヲ謂フ以下同シ）ヲ爲サムトスル者ハ當廳ノ認可ヲ受クヘシ、但シ學校、圖書館、銀行、會社、商館、事務所ニ限リ第六十八條ニ準シ當廳ニ届出ヘシ

一　公衆用建物（木造ニ係ル建坪五十坪未滿ノ平屋建物三十坪未滿ノ二層建物ヲ除ク）

二　三層以上ノ建物

三　當該行政廳ノ公示シタル豫定道路敷地ニ該ル建造物

第六十五條　前條ノ認可ヲ受ケントスルトキハ願書ニ左ノ書類及圖面ヲ具シ建築設計者及監督者之ニ連署スヘシ但シ監督者ノ届出ハ起工五日以前ニ爲スモ妨ナシ

一　摘要書（建造物ノ使用目的、位置、敷地、坪數、建造物ノ概要、竣功期日）

二　仕樣書（規定ノ事項、其ノ他圖面ニ明示シ難キ材料ノ種類、尺度、構造設備）

三　圖面（平面圖、斷面圖、床伏圖、小屋伏圖、正面又ハ側面圖（縮尺百分ノ一又ハ五十分ノ一トシ方位尺度ヲ詳記シ仍ホ平面圖ニハ敷地ノ境界線及四隣ノ狀況竝面圖ニハ各材料ノ種類尺度ヲ明示スルコト）

當廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ外書類圖面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

大修繕、變更又前條第一項第三號ノ場合ニ在リテハ關係ナキ部分ノ仕樣書圖面ヲ省略スルコトヲ得第七十條ノ場合亦同シ

第六十六條　工事竣成前ニ於テ前條第一項ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係ノ書類圖面ヲ具シ更ニ認可ヲ受クヘシ

建築監督者ヲ變更セシトキハ五日以内ニ當廳ニ届出ヘシ

第六十七條　建造物内點檢容易ナラサル場所ニ電燈電力線ヲ施設セムトスル者ハ工事方法書及圖面ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ願書ニハ擔當技術者ノ連署ヲ要ス

第六十八條　第六十四條ニ該當セサル建造物ノ工事ヲ爲サムトスル者ハ第六十五條第一項第一號及平面圖ヲ具シ起工五日以前ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ但シ其ノ工事ノ爲メ第六十四條ノ範圍ニ屬スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ屬スルモノト雖工場ニ在リテハ第六十五條第一項ニ準シ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條第二項第三項及第六十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ亦之ヲ準用ス

第六十九條　低地區域内ニ建造物ヲ設ケムトスル者ハ當廳ニ顯出其ノ地揚ノ高ニ付指定ヲ受クヘシ

低地區域ハ之ヲ告示ス

第七十條　建造物ノ使用目的ヲ變更セムトスルトキハ第六十四條又ハ第六十八條ニ準シ手續ヲ完了スルニ非サレハ兩後之ヲ使用スルコトヲ得ス

假設建造物ヲ常設ニ變更スル場合亦前項ニ同シ

第七十一條　左記各號ノ一ニ該當スルトキハ當該官廳ニ届出ヘシ

一　低地區域内ノ地揚ヲ終リタルトキ

二　基礎ヲ組成シタルトキ

三　上棟ヲ爲シタルトキ

四　避雷針ヲ取付ケタルトキ（地中銅板ノ埋沒前）

五　第六十七條ノ工事ヲ爲シタルトキ

六　工事竣成シタルトキ

七　前各號ノ外特ニ指示シタルトキ

第六十四條又ハ第六十八條第二項ノ認可ヲ要スル建造物ハ工事竣成スルモ使用認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第七十二條　他人ノ架空電燈電力線ニ接近シ又ハ其ノ上部ニ於テ建造物其ノ他ノ工事ヲ爲サムトスルトキハ豫メ其ノ電線ノ所有

者又ハ管理者ニ通知スヘシ

第七十三條　工事竣成前ニ於テ其ノ工事ヲ承繼シタルトキハ双方連署ノ上五日以内ニ當該官廳ニ届出ヘシ但シ連署シ能ハサルトキハ其ノ事情ヲ具スルコトヲ要ス

承繼者ハ被承繼者ノ責務ヲ免カレルコトヲ得ス

第七十四條　認可書其ノ他工事ニ關スル書類ハ之ヲ建築場ニ備ヘ當該官吏ノ檢閲ニ供スヘシ

第七十五條　當該官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ所屬官吏ヲシテ建造物ニ對シ隨時檢査ヲ行ハシムルコトアルヘシ

當該官吏ハ檢査上必要ナル事項ヲ命スルコトアルヘシ

第七十六條　建造物ニシテ崩壞、腐朽、破損其ノ他ノ事由ニ因リ危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ當廳ハ其ノ全部又ハ一部ノ改修、變更若ハ使用停止ヲ命スルコトアルヘシ

本則又ハ本則ニ基キ命シタル事項ニ違背シ必要ト認ムルトキ亦前項ニ同シ

第七十七條　建築監督者ニシテ不適任ト認ムルトキハ當該官廳ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第七十八條　當廳ニ差出スヘキ願届ハ所轄警察官署ヲ經由スルコトヲ要ス

第四章　罰則

○**第七十九條**　第十三條、第十四條、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條第一項、第六十八條第一項、第三項中第六十六條ノ規定適用ノ場合、第六十九條第一項、第七十條ニ違ヒ又ハ第七十六條ノ命令ニ從ハサル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

第八十條　第七十五條第一項ノ檢査ヲ拒ミ又ハ第二項ノ命ニ應セサル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第八十一條　第七十三條第一項ニ違ヒ又ハ第七十七條ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

第八十二條　第七十一條、第七十二條、第七十四條ニ違ヒ又ハ第六十五條第一項但書第六十六條第二項ノ届出ヲ怠リタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

○**第八十三條**　前四條ノ科料ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者又ハ清算人、犯罪無能力者ニ在リテハ其ノ法定代理人又ハ之ニ代ルヘキ私人ニ之ヲ適用ス

附則

○第八十四條　本則施行前ノ建造物ハ改築又ハ大修繕ヲ爲ス場合ヲ除クノ外當該官廳ノ指定アル迄第二章ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

○第八十五條　本則ハ假設建造物ニ之ヲ適用セス但シ建設後一年以内ニ撤去セサルトキ又ハ構造方法ニ依リ必要ト認ムルトキハ當該官廳ハ之ニ本則ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトアルヘシ

○第八十六條　本則ハ建造物ニ關スル他ノ規定ノ効力ヲ妨ケス

○第八十七條　本則ハ大阪市堺市及其ノ接續町村並泉南郡岸和田町（南海鐵道線路以東ヲ除ク）ニ之ヲ適用ス

前項地域外ト雖左記各號ノ一ニ營當スル建造物ニハ本則ヲ適用ス

一　教會堂、說教所、學校、病院、集會場、劇場、寄席、觀物場、遊覽所、湯屋、寄宿舍、合宿所、宿屋、料理屋、飮食店、貸座敷及其ノ免許地域内ニ於ケル各種建造物、工場、屠物取扱所、石油場、危險物品貯藏場

二　明治十九年十二月大阪府令第四十八號街路取締規則ノ全部又ハ一部ノ施行地域ニ於ケル長屋

第八十八條　第五條、第六條、第九條、第十五條、第十六條、第十九條乃至第二十一條、第二十五條、第二十六條、第三十條、第三十一條、第三十四條、第三十五條、第三十八條乃至第四十四條、第四十九條、第五十一條乃至第五十三條、第五十五條、第六十條第二項第三項、第六十一條、第六十三條乃至第七十八條、第八十條乃至第八十二條ハ市街地建築物法適用區域内ノ建造物ニ之ヲ適用セス

第十七條、第十八條、第二十七條、第二十八條第二項、第四十六條ハ前條第二項ノ建造物ニ之ヲ適用セス

大阪府告示第二百九十八號

現行及將來發布ノ府令、告示、告諭ニ於ケル大阪市及堺市ノ接續町村トハ左ノ地域ヲ謂フ

明治三十年十二月大阪府告示第四百九十七號ハ廢止ス

明治四十三年七月十一日

大阪府知事　高崎親章

大阪市接續町村

西成郡　今宮町、津守村（字荒島ヲ除ク）、傳法町、鷺洲町（新淀川以北ヲ除ク）、中津町（新淀川以北ヲ除ク）、豊崎町、稗島村（新淀川以北ヲ除ク）、歌島村（新淀川以北ヲ除ク）、粉濱村、玉出町

東成郡　天王寺村、生野村、鶴橋町、中本町、鮫江町（大字布屋ヲ除ク）、城東村大字鴫野、榎並村大字野江、大字内代、城北村大字友淵

大字毛馬、神路村大字今里、榎本村大字放出ノ内字外島、北百濟村大字桑津、安立町、住吉村、墨江村大字長峡、大字濱口、
大字南濱口、大字上住吉
堺市接續町村
泉北村　舳松村、三寶村大字山本、大字南島

●第五集 第三号 掲載広告一覧（掲載順）

川北電気企業社
日本輸送機製作所
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
山崎建築事務所

真水工務所
真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中川辰蔵
野村亥之助
久保田組

熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
太成社
木村組
清水組大阪支店
銭高組
山縣組
清水工務店
関西ステンドグラス製作場
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所

矢橋商店
吉田鹿之助商店
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
南満鉱業
砂崎
山本コンベス商会
大野式特許品営業所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
コルク工業
鈴木製作所

大阪煖房商会
大阪電気商会
東京電気
日本木材工芸
都市工業
大理石工業
川崎工場
北木島石材大阪出張所
ホーン
城口汚水処理研究所
吉田鉄工所
田中タイリング商会
淡陶
内外土木建築材料
東洋水道木管
野村商店
鈴木商店
日本トラスコン鋼材神戸支店
住友製銅販売店

住友東京販売店
共同建材製作所
日本工剤
佐藤商店
大阪窯業
横河橋梁製作所
田中源太郎商店
極東硝子工業